

下関市子ども・子育ての新しい計画づくりの
ためのアンケート調査
調査結果報告書
(速報 H26 年 1 月 22 日)

下 関 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査目的	1
2	調査の方法	1
3	報告書の見方	1
II	就学前児童調査の結果	2
1	属性	2
2	両親の就労状況	4
(1)	両親の就労形態	4
(2)	就労状況	4
(3)	フルタイムへの転換意向	7
(4)	今後の就労意向	7
(5)	両親の就労状況による家庭類型	9
3	教育・保育事業の利用状況	10
(1)	教育・保育事業の利用状況	10
(2)	利用日数・時間	12
(3)	利用区域	13
(4)	施設へ通う手段	14
(5)	事業の利用理由	14
(6)	事業を利用していない理由	15
4	教育・保育事業の利用希望	16
(1)	教育・保育事業の利用希望	16
(2)	利用を希望する事業の区域	17
(3)	事業を選択する際に重視すること	18
(4)	利用を希望する年齢	19
(5)	施設へ通う可能な手段	19
(6)	土曜日、日曜日、祝日の事業の利用希望	20
(7)	長期休暇中の事業の利用希望	21
5	不定期の保育事業の利用希望	22
(1)	子どもが病気の際の保育	22
(2)	不定期の保育サービス	23
(3)	宿泊を伴う保育サービス	24
6	小学校就学後の放課後の過ごし方	26
7	地域の子育て支援サービスの利用状況	27
(1)	地域の子育て支援サービス拠点事業の利用状況	27
(2)	地域の子育て支援サービスの認知度・利用度	28

8	子育て全般	31
(1)	理想の子どもの人数	31
(2)	子育て支援への評価	32
(3)	市へ充実を望む子育て支援	33
(4)	妊娠中・出産時の支援体制	35
(5)	小児救急医療体制	36
(6)	子育てに関する情報の入手先	37
(7)	子育ての楽しさや悩み	38
(8)	子育てに関する相談	41
(9)	子育ての環境	43
(10)	仕事と子育ての両立	48
(11)	子どもへの虐待の状況	51
Ⅲ	放課後児童クラブの利用に関する調査の結果	54
1	属性	54
2	両親の就労状況	56
(1)	両親の就労形態	56
(2)	帰宅時間	57
3	放課後児童クラブの利用状況、利用希望	57
(1)	利用状況	57
(2)	利用時間の現状・希望	58
(3)	利用している理由	59
(4)	放課後クラブの満足度	60
(5)	おやつ（捕食）の提供	61
(6)	放課後児童クラブに期待すること	62
(7)	今後の利用希望	63

I 調査の概要

1 調査目的

市内の子育てを行う世帯の現在の幼児教育・保育事業の利用状況や今後の利用希望、子育てについて要望を把握し、幼児教育・保育事業、地域子育て支援事業の「量の見込み」の算出など、計画に反映することを目的とする。

2 調査の方法

(1) 調査地域

下関市全域

(2) 抽出方法

市内に居住する、0歳から5歳までの児童がいる家庭の中から無作為抽出

(3) 調査方法

郵送による配付・回収 督促状1回発送（保護者へ記入を依頼）

(3) 調査対象

5,000 世帯

(4) 回収数

2,631 票 有効回答率 52.6%

(5) 調査時期

平成 25 年 9 月 27 日～平成 25 年 10 月 10 日

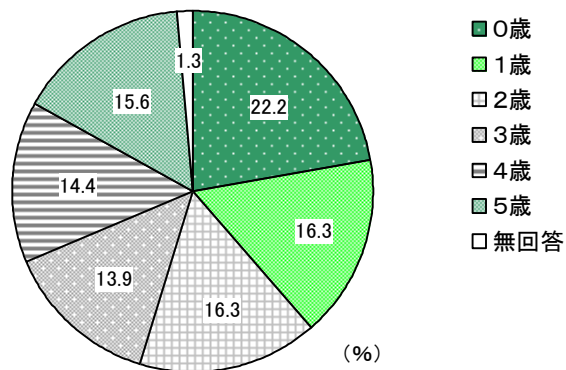
3 報告書の見方

- (1) 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比(%)で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- (2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- (3) 報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。
- (4) 母集団比に応じて標本数の配分を行った場合に地域別の回収ベースで分析可能な標本数を確保できない可能性があるため、菊川地域、豊田地域、豊浦地域、豊北地域の抽出率を高く設定し標本配分を行った。そのため、抽出率の差を調整するために、回収数の母集団比率が最も高い地区を基準とした係数を乗じた規正標本数をもって集計を行っている。

Ⅱ 調査の結果

1 属性

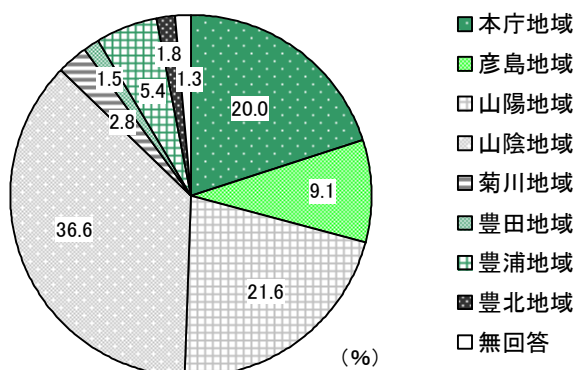
(1) 子どもの年齢



	回答者数	規正標本数	割合
0歳	577	1,059	22.2%
1歳	427	776	16.3%
2歳	428	774	16.3%
3歳	361	662	13.9%
4歳	380	686	14.4%
5歳	405	742	15.6%
無回答	53	61	1.3%
合計	2,631	4,760	100.0%

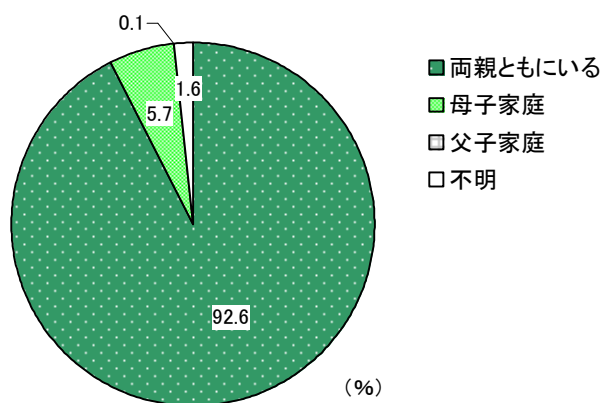
※年齢は平成25年4月1日現在の年齢（平成25年4月2日以降に生まれた方は0歳に含んでいます）

(2) 居住地



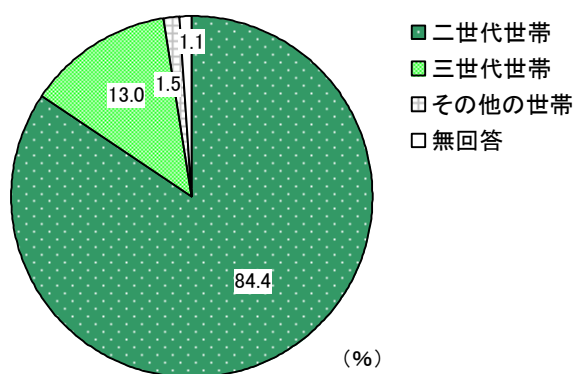
	回答者数	規正標本数	割合
本庁地域	475	950	20.0%
彦島地域	216	434	9.1%
山陽地域	572	1,030	21.6%
山陰地域	888	1,740	36.5%
菊川地域	100	131	2.8%
豊田地域	61	70	1.5%
豊浦地域	169	255	5.4%
豊北地域	86	86	1.8%
無回答	64	64	1.3%
合計	2,631	4,760	100.0%

(3) 両親の状況



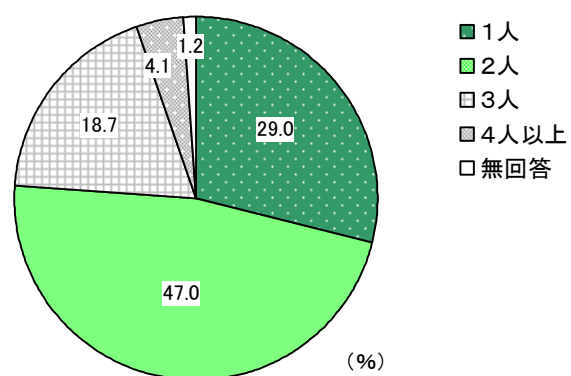
	回答者数	規正標本数	割合
両親ともにいる	2,424	4,410	92.6%
母子家庭	147	269	5.7%
父子家庭	4	7	0.1%
不明	56	74	1.6%
合計	2,631	4,760	100.0%

(4) 家族構成



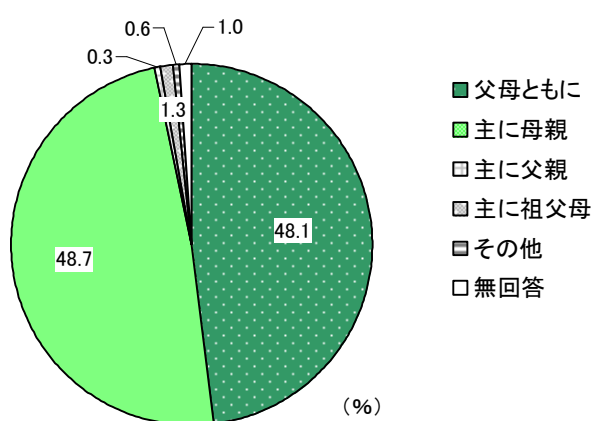
	回答者数	規正標本数	割合
二世代世帯	2,180	4,014	84.4%
三世代世帯	358	619	13.0%
その他の世帯	47	74	1.5%
無回答	46	53	1.1%
合計	2,631	4,760	100.0%

(5) 子どもの人数



	回答者数	規正標本数	割合
1人	757	1,381	29.0%
2人	1,221	2,240	47.0%
3人	497	888	18.7%
4人以上	109	195	4.1%
無回答	47	56	1.2%
合計	2,631	4,760	100.0%

(6) 子育てを主に行う者



	回答者数	規正標本数	割合
父母ともに	1,260	2,291	48.1%
主に母親	1,270	2,317	48.7%
主に父親	7	12	0.3%
主に祖父母	35	63	1.3%
その他	16	28	0.6%
無回答	43	49	1.0%
合計	2,631	4,760	100.0%

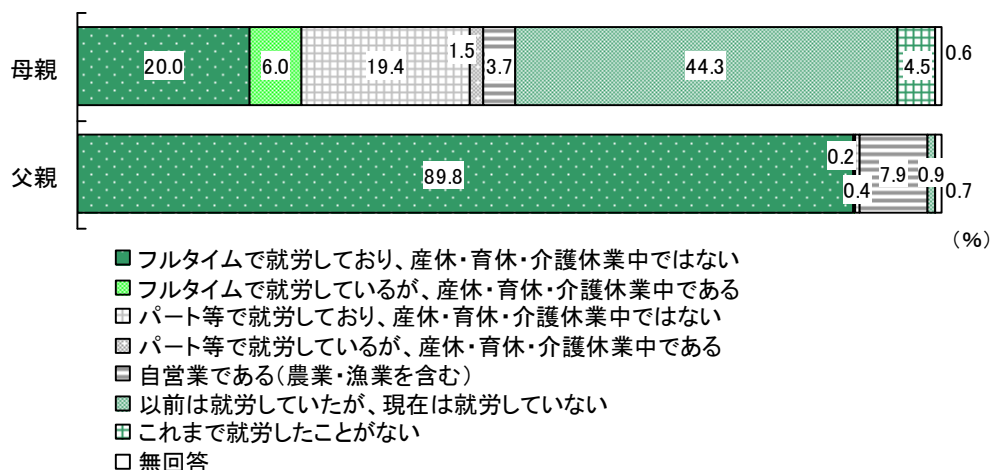
2 両親の就労状況

(1) 両親の就労状況

母親の就労状況は、「フルタイム」が 26.0%、「パート・アルバイト」が 20.9%、「自営業」が 3.7%であり、就労している割合は 50.6%である。

父親の就労状況は、「フルタイム」が 90.0%、「パート・アルバイト」が 0.4%、「自営業」が 7.9%であり、就労している割合は 98.3%である。

〔図 両親の就労状況〕

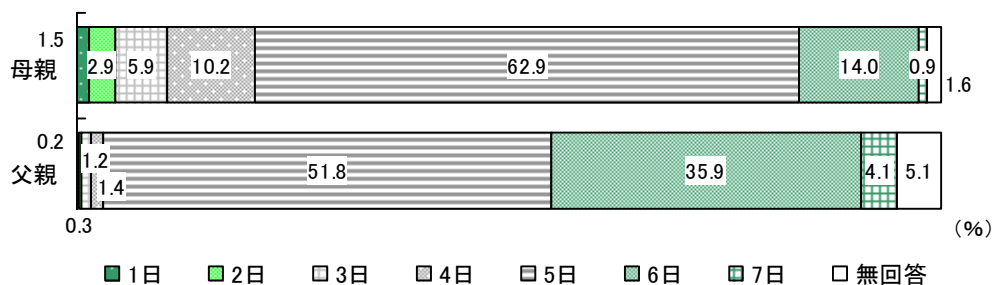


(2) 就労日数・時間

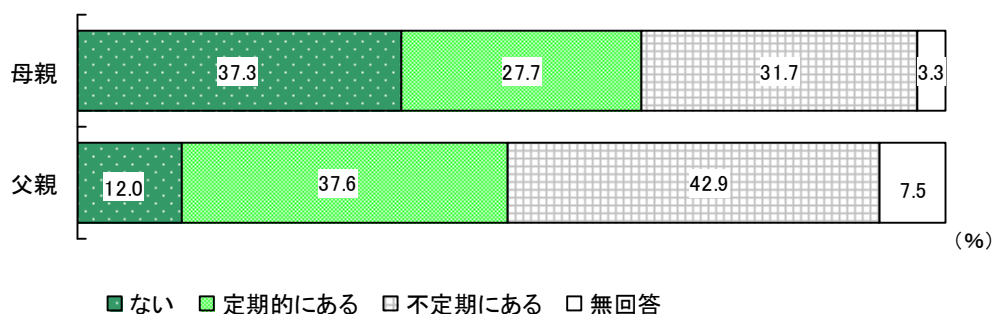
1週当たりの就労日数は、母親は「5日」が 62.9%で最も高く、次いで「6日」が 14.0%、父親は「5日」が 51.8%で最も高く、次いで「6日」が 35.9%となっている。

土曜日の就労が「定期的にある」割合は、母親が 27.7%、父親が 37.6%、日曜日の就労が「定期的にある」割合は、母親が 10.4%、父親が 15.1%となっている。

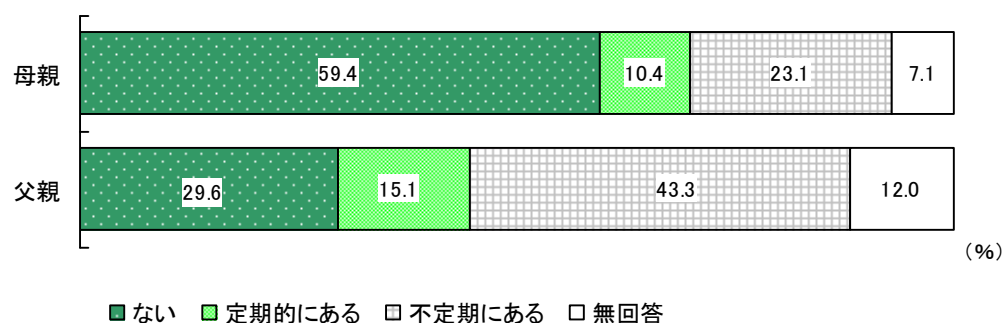
〔図 1週当たりの就労日数〕



〔図 土曜日の就労状況〕



〔図 日・祝日の就労状況〕

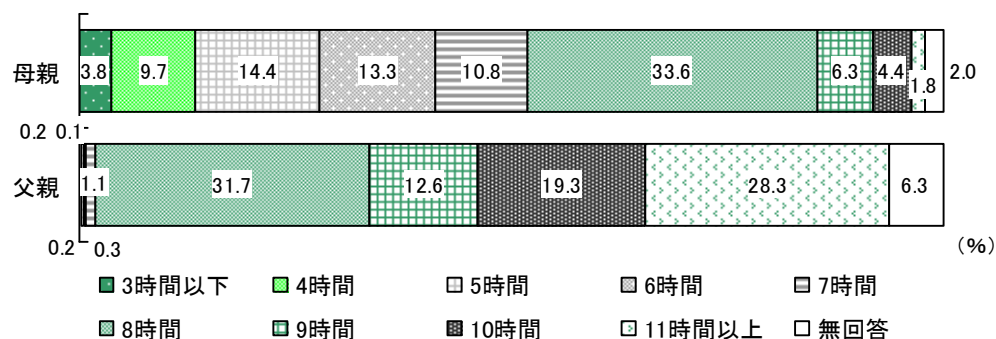


1 且週当たりの就労時間は、母親は「8 時間」が 33.6%で最も高く、次いで「5 時間」が 14.4%、父親は「8 時間」が 31.7%で最も高くなっているが、「11 時間以上」も 28.3%となっている。

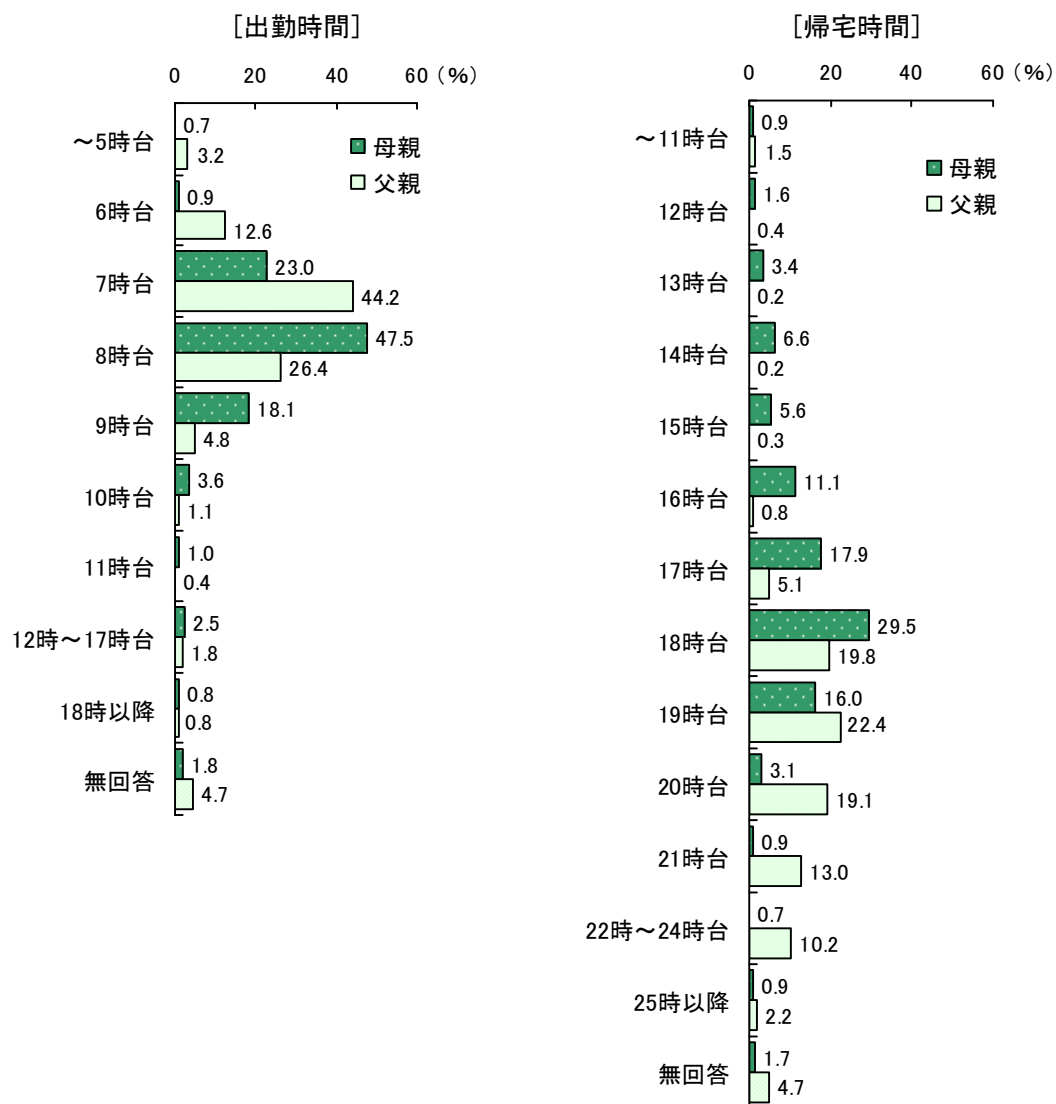
出勤時間は、母親は「8 時台」が 47.5%で最も高く、父親は「7 時台」が 44.2%で最も高くなっている。

帰宅時間は、母親は「18 時台」が 29.5%で最も高く、父親は「19 時台」が 22.4%で最も高くなっている。

〔図 1 日当たりの就労時間〕



〔図 出勤時間・帰宅時間〕

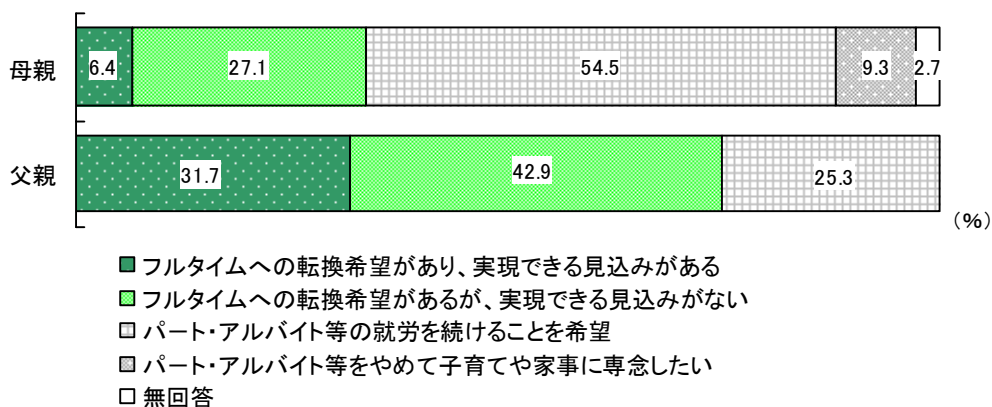


(3) フルタイムへの転換意向

パート・アルバイトのうち、フルタイムへの転換意向がある割合は、母親で 33.5%であり、6.4%が実現できる見込みがあると回答している。

父親は 74.6%が転換意向があり、31.7%が実現できる見込みがあると回答している。

〔図 フルタイムへの転換意向〕
(パート等で就労している保護者)



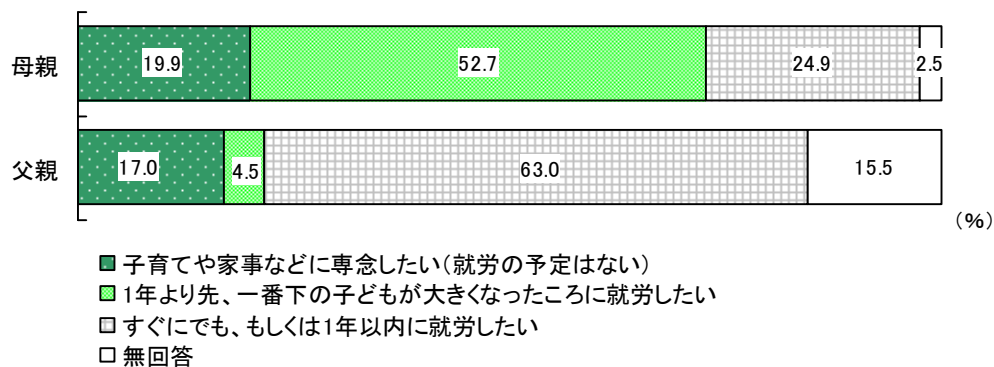
(4) 今後の就労意向

就労していない親の就労意向について、母親は「1年より先、一番下の子どもが大きくなったところに就労したい」と回答した割合が 52.7%で最も高く、その際の子どもの年齢としては、6歳以上が 47.7%となっている。

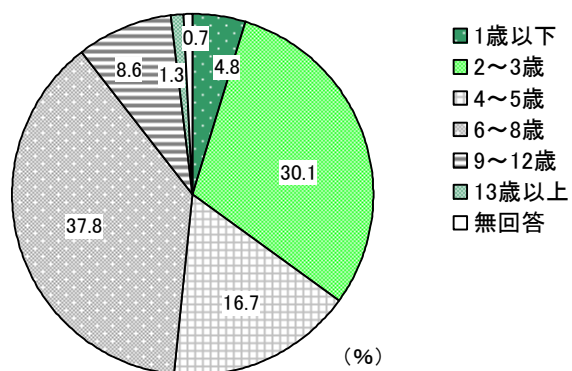
また、就労していない母親のうち、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した割合は 24.9%であり、希望する就労形態は「パート・アルバイト等」が 79.0%となっている。

就労していない父親のうち、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した割合が 63.0%であり、そのすべてがフルタイムでの形態を希望している。

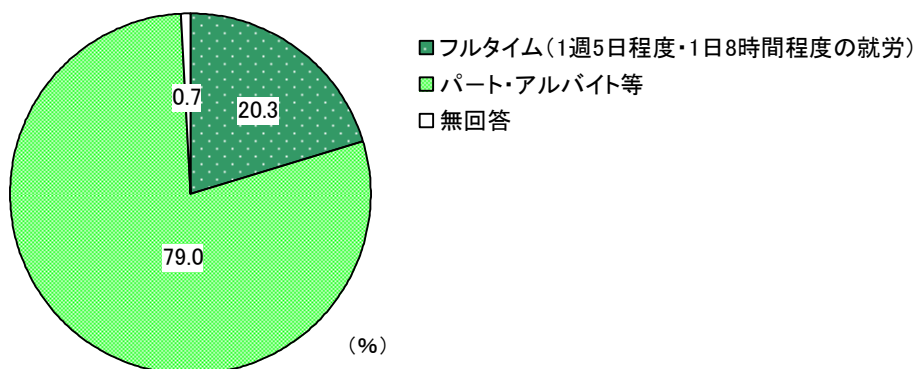
〔図 今後の就労意向〕
(就労していない母親・父親)



〔図 母親が就労を希望する際の子どもの年齢〕
 (子どもが大きくなったところに就労を希望する母親)

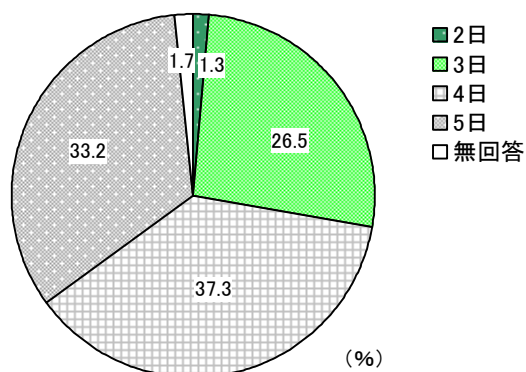


〔図 母親の希望する就労形態〕
 (すぐにでも、もしくは1年以内に就労を希望する母親)

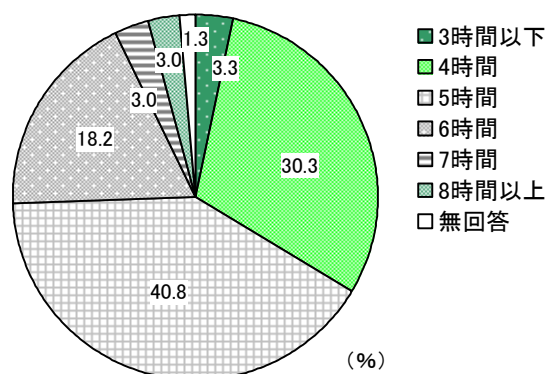


〔図 母親の希望する就労状況〕
 (パート等を希望する母親)

[1 週当たりの就労日数]



[1 日当たりの就労時間]

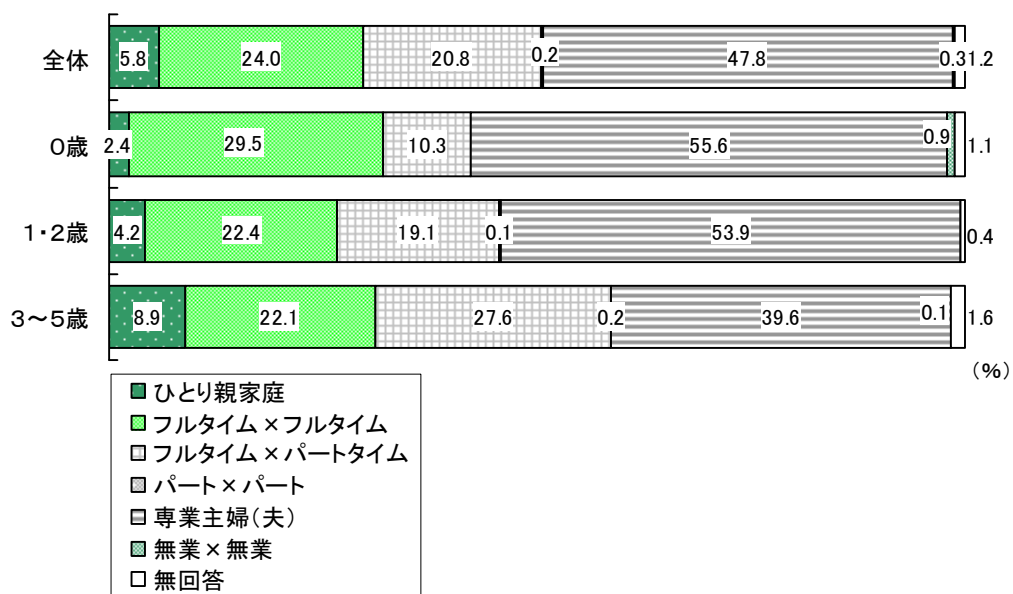


（５）両親の就労状況による家庭類型

家庭形態と両親の就労状況により、保育の必要性にかかわる家庭類型を区分すると、全体では、ひとり親家庭が 5.8%、両親ともにフルタイムで就労している家庭が 24.0%、両親がそれぞれフルタイムとパートタイムで就労している家庭が 20.8%、両親ともにパートタイムで就労している家庭が 0.2%であり、保育が必要な家庭は 50.8%となっている。

また、年齢区分別にみると、保育が必要な家庭は年齢が上がるほど高くなっている。

〔図 両親の就労状況による家庭類型/年齢区分別〕



3 教育・保育事業の利用状況

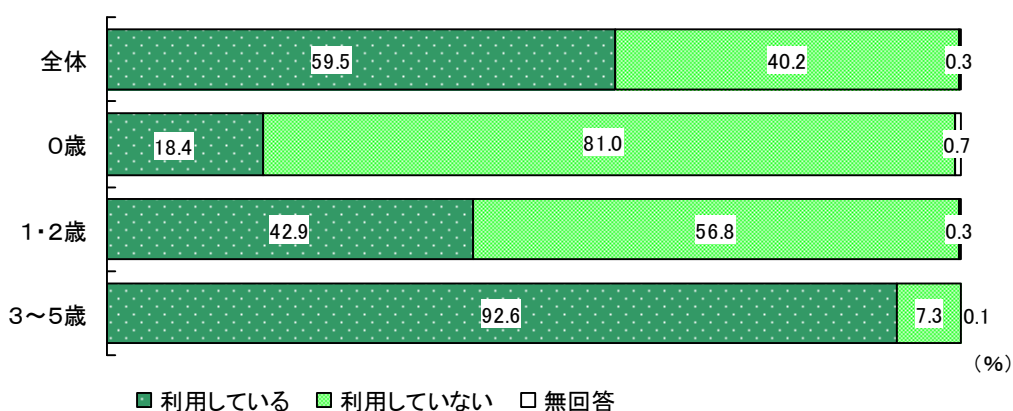
(1) 教育・保育事業の利用状況

現在、子どもが教育・保育事業を「利用している」割合は、59.5%であり、年齢区分別にみると、0歳で18.4%、1・2歳で42.9%、3～5歳で92.6%であり、年齢が上がるほど高くなっている。

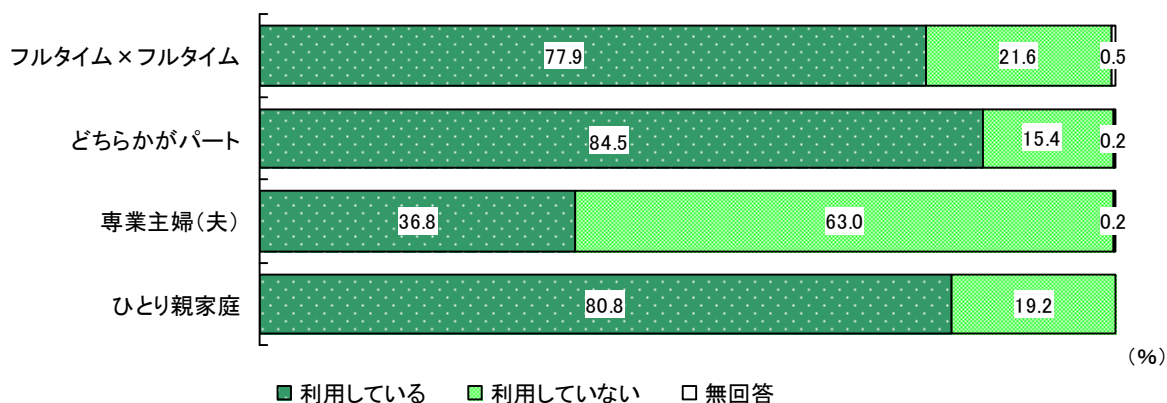
両親の就労状況別にみると、事業を「利用している」割合は、両親が就労している世帯では8割前後、就労していない世帯では36.8%となっている。

利用している事業は、「保育園」が58.5%で最も高く、次いで「幼稚園」が34.8%、「幼稚園の預かり保育」が7.7%となっている。

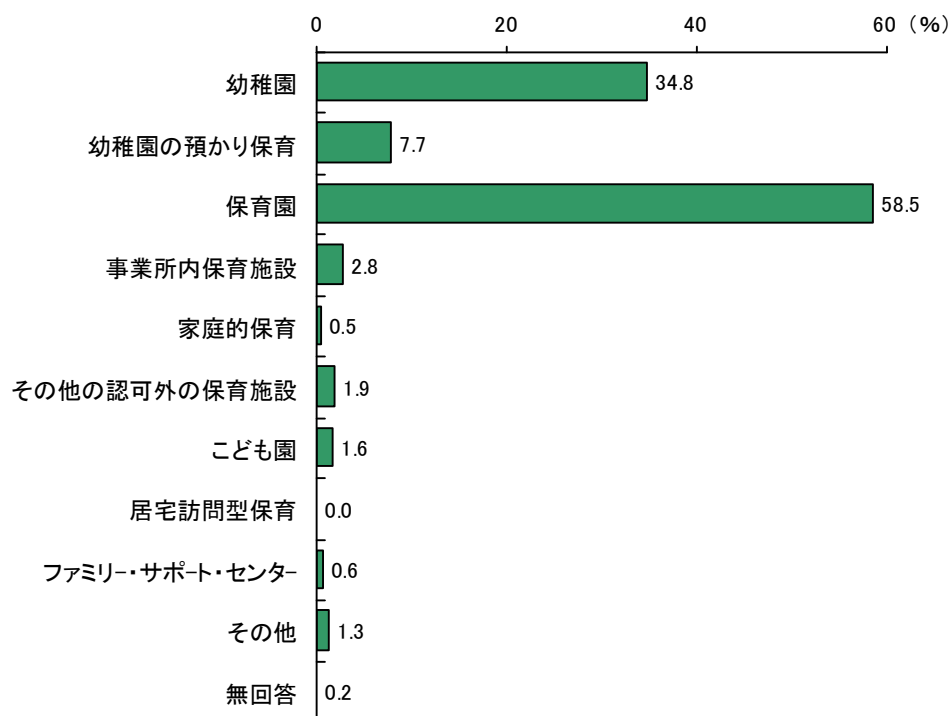
〔図 教育・保育事業の利用状況/年齢区分別〕



〔図 教育・保育事業の利用状況/両親の就労状況別〕



〔図 利用している教育・保育事業〕



〔図 利用している教育・保育事業/年齢区分別〕

	回答数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	保育園	事業所内保育施設	家庭的保育	その他の認可外の保育施設
全体	2,831	34.8	7.7	58.5	2.8	0.5	1.9
0歳	194	–	–	77.6	13.8	1.0	4.0
1・2歳	664	10.6	2.2	76.3	5.9	1.4	4.4
3～5歳	1,936	46.8	10.4	50.4	0.6	0.2	0.9

	回答数	こども園	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	2,831	1.6	–	0.6	1.3	0.2
0歳	194	0.5	–	3.1	1.0	1.0
1・2歳	664	1.3	–	0.8	1.8	0.6
3～5歳	1,936	1.7	–	0.3	1.3	–

(2) 利用日数・時間

事業の1週当たりの現在の利用日数は「5日」が76.4%で最も高く、次いで「6日」が17.1%であり、希望の利用日数は、現在と比べて「6日」の割合が26.7%と高くなっている。

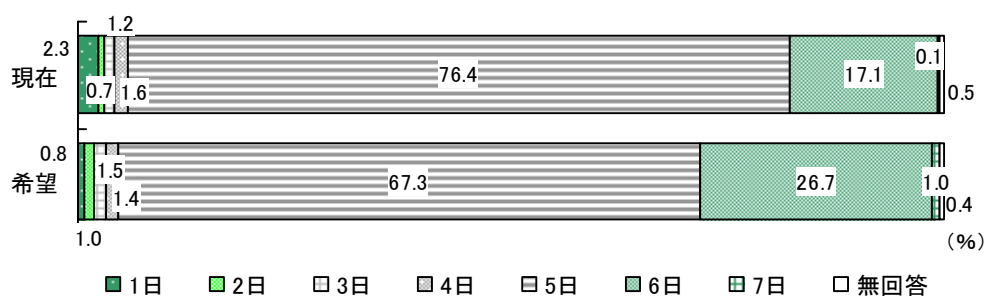
事業の現在の利用開始時間は、「9時台」が44.8%で最も高く、次いで「8時台」が42.2%であり、希望開始時間は、現在と比べて「8時台」がやや高くなっている。

事業の現在の利用終了時間は、「14時台」が25.3%で最も高く、次いで「17時台」が21.4%であり、希望終了時間は、現在と比べて「14時台」が低くなり、「16時台」、「19時台」が高くなっている。

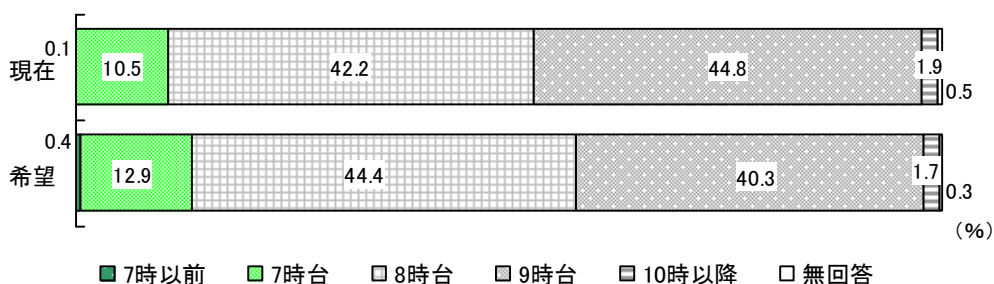
幼稚園、保育園別に利用終了時間をみると、幼稚園では「14時台」が69.9%で最も高くなっているが、希望終了時間は、現在よりも「14時台」が15.4%と低くなり、「16時台」が30.7%、「15時台」が26.1%など、15時以降の割合が高くなっている。

保育園では、現在の利用終了時間は、「18時台」が32.3%で最も高くなっているが、希望終了時間は、現在よりも「16時台」が低くなり、「19時台」が12.8%と高くなっている。

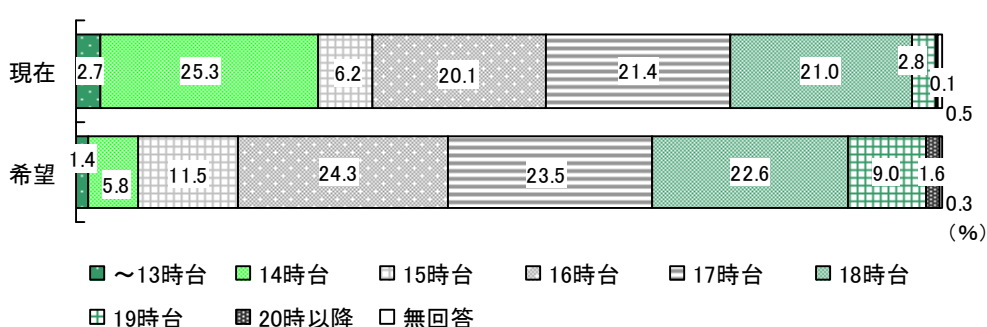
〔図 1 週当たりの利用日数〕



〔図 利用開始時間〕

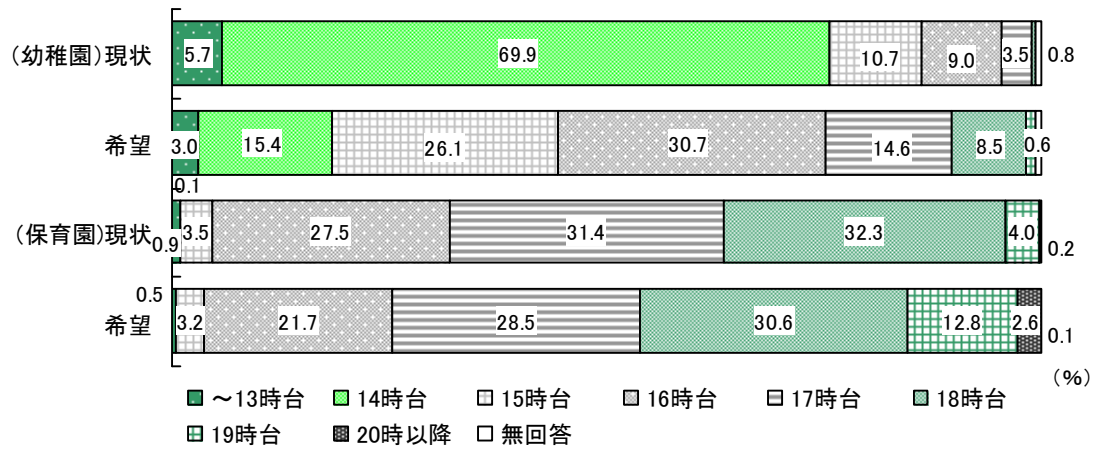


〔図 利用終了時間〕



〔図 利用終了時間〕

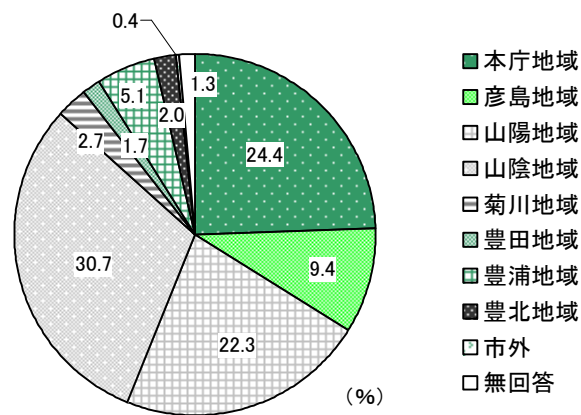
(幼稚園・保育園)



(3) 利用区域

利用区域は、「山陰」、「本庁」、「山陽」の順に高くなっている。

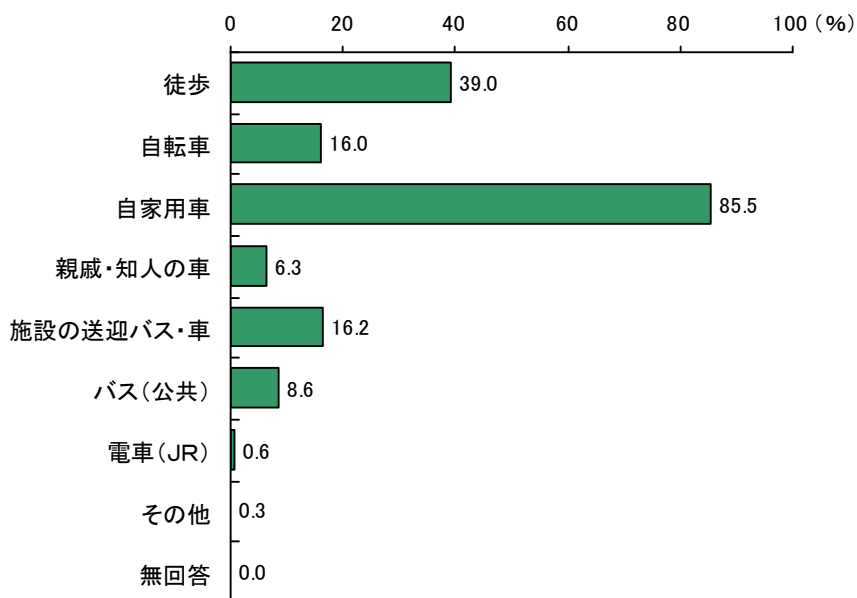
〔図 利用している事業の実施区域〕



(4) 施設へ通う手段

現在の施設へ通う手段は、「自家用車」が85.5%で最も高く、次いで「徒歩」が39.0%、「施設の送迎バス・車」が16.2%となっている。

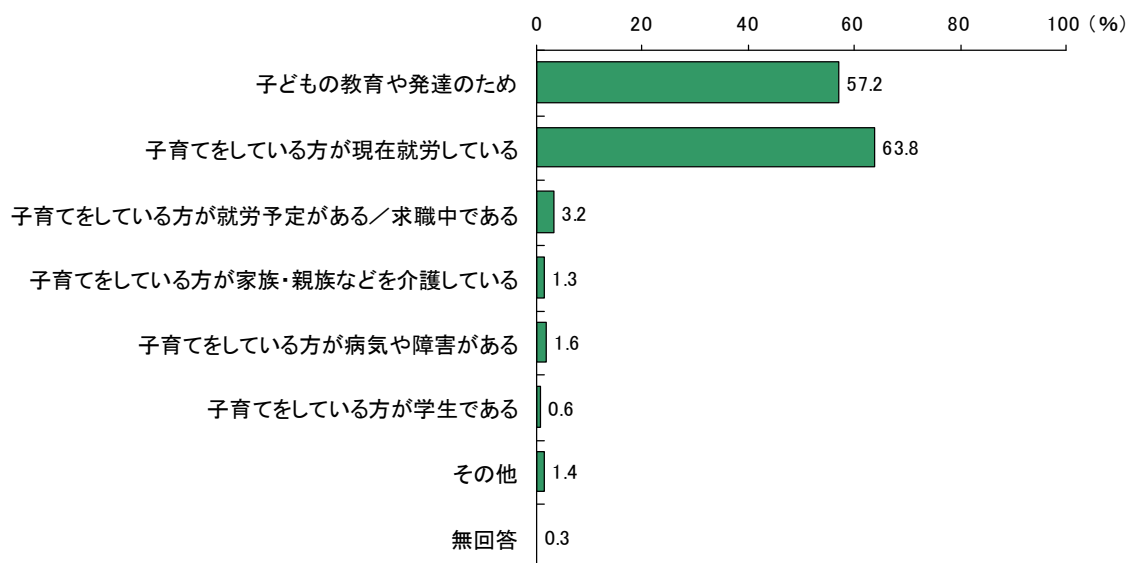
〔図 施設へ通う手段〕



(5) 事業の利用理由

教育・保育事業の利用理由は、「子育てをしている方が現在就労している」が63.8%で最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」が57.2%となっている。

〔図 事業の利用理由〕

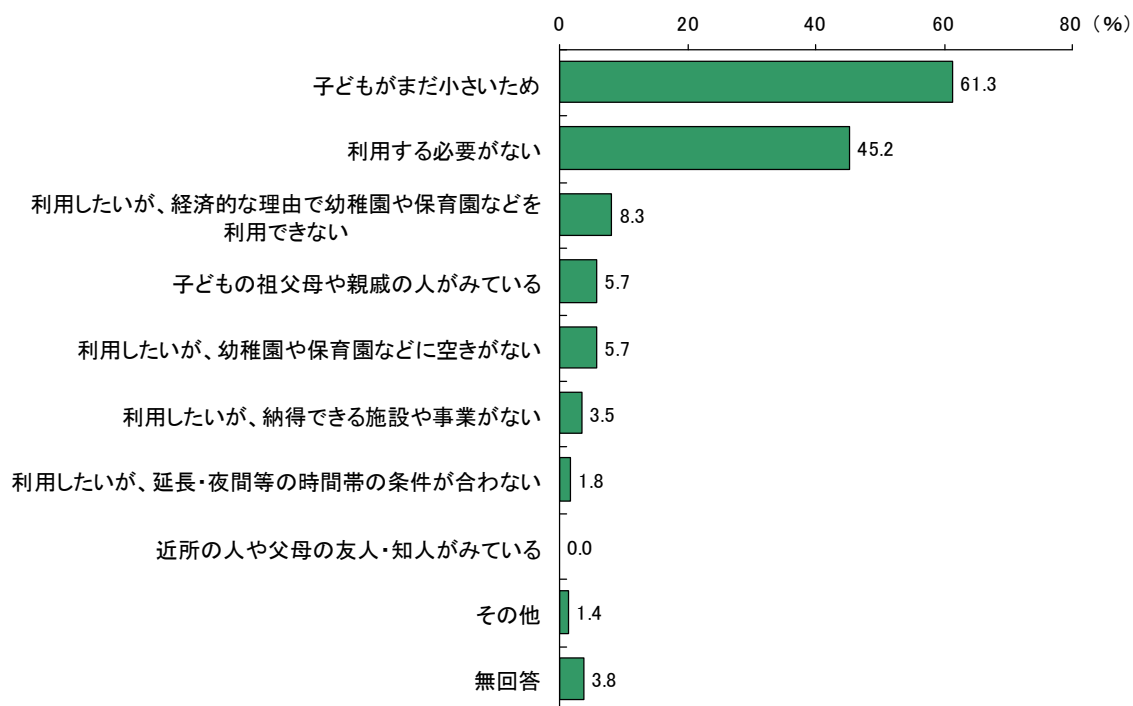


(6) 事業を利用していない理由

現在、教育・保育事業を利用していない理由は、「子どもがまだ小さいため」が 61.3%で最も高く、次いで「利用する必要がない」が 45.2%となっている。

また、「利用したいが、経済的な理由で幼稚園や保育園などを利用できない」、「利用したいが、幼稚園や保育園などに空きがない」との、利用したい意向があるが利用できていない回答もあがっている。

〔図 事業を利用していない理由〕

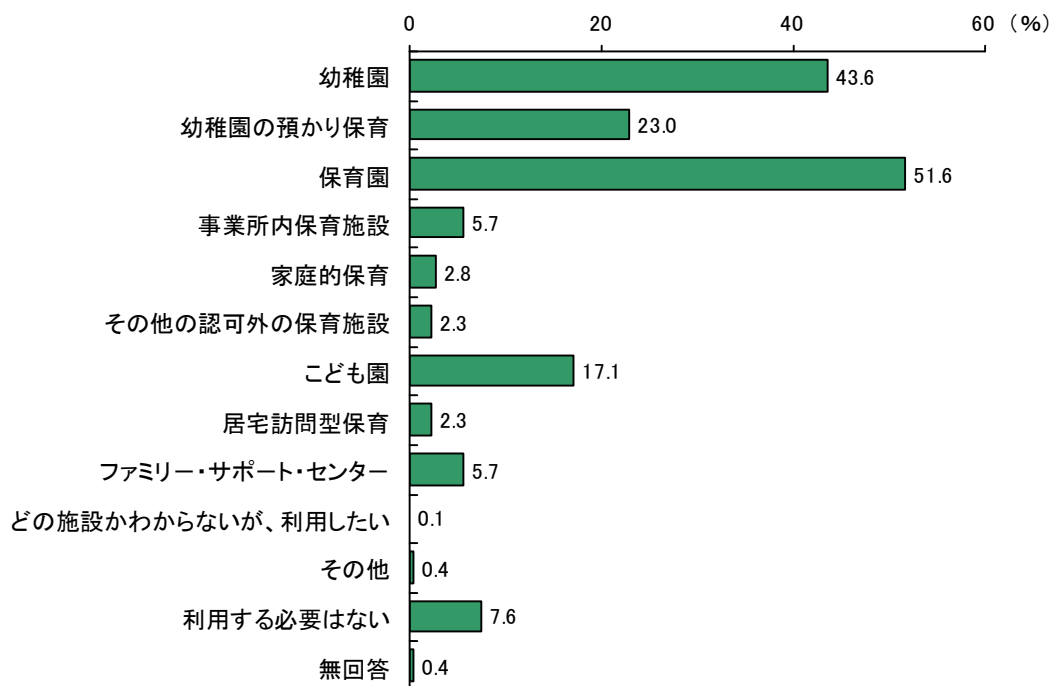


4 教育・保育事業の利用希望

(1) 教育・保育事業の利用希望

平日、定期的に利用したい施設や事業は、「保育園」(51.6%)、「幼稚園」(43.6%)、「幼稚園の預かり保育」(23.0%)、「こども園」(17.1%)の順で高くなっている。

〔図 利用を希望する事業〕



〔図 利用を希望する事業/年齢区分別〕

(%)

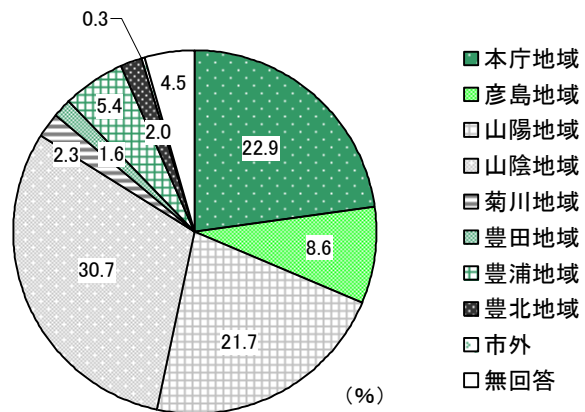
	回答数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	保育園	事業所内保育施設	家庭的保育	その他の認可外の保育施設	こども園
0歳	1,059	34.0	14.3	55.5	8.9	3.4	2.5	19.2
1・2歳	1,550	41.3	18.9	52.8	5.5	4.3	3.4	18.2
3～5歳	2,090	50.3	30.4	48.3	4.4	1.5	1.4	15.1

	回答数	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	どの施設かわからないが、利用したい	その他	利用する必要はない	無回答
0歳	1,059	3.1	6.2	0.4	0.1	14.7	0.8
1・2歳	1,550	2.3	6.1	—	0.4	8.2	0.3
3～5歳	2,090	1.9	5.4	—	0.6	3.8	0.3

(2) 利用を希望する事業の実施地域

利用希望地域は、「山陰」、「本庁」、「山陽」の順に高くなっている。

〔図 利用を希望する事業の実施地域〕

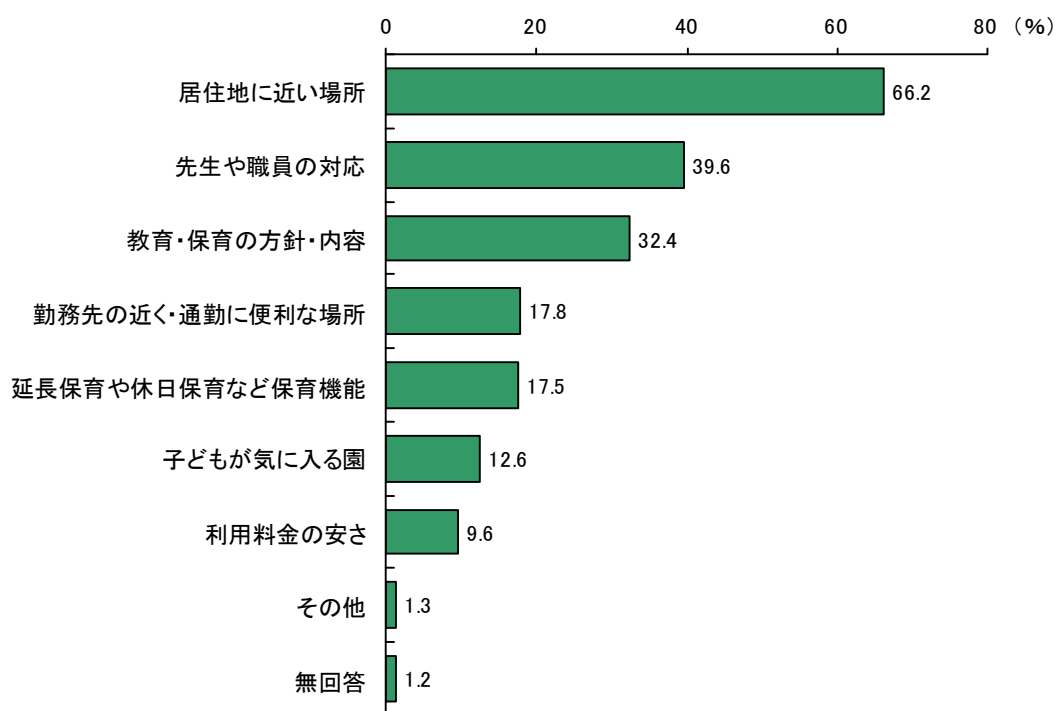


(3) 事業を選択する際に重視すること

事業を選択する際に重視する点について、「居住地に近い場所」が 66.2%で最も高く、次いで「先生や職員の対応」(39.6%)、「教育・保育の方針・内容」(32.4%)となっている。

事業別にみると、「教育・保育の方針・内容」は幼稚園、認可外保育施設で、「勤務先の近く・通勤に便利な場所」は保育園、認可外保育施設で他の事業よりも高くなっている。

〔図 事業を選択する際に重視すること〕



〔図 事業を選択する際に重視すること/事業別〕

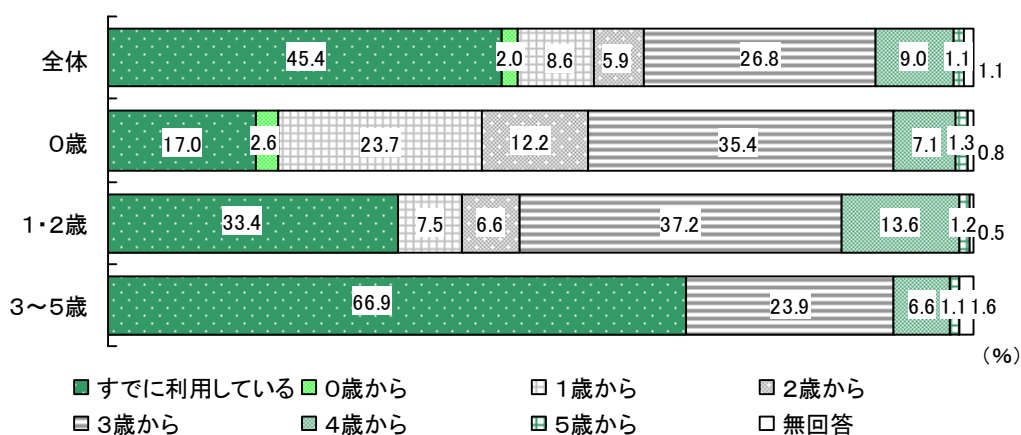
	回答数	居住地に近い場所	先生や職員の対応	教育・保育の方針・内容	勤務先の近く・通勤に便利な場所	延長保育や休日保育など保育機能	子どもが気に入る園	利用料金の安さ
幼稚園	2,076	64.9	40.3	42.2	7.5	14.0	16.7	12.5
保育園	2,455	68.5	40.0	23.6	26.0	20.7	8.8	8.2
こども園	814	67.3	42.3	29.3	18.8	20.8	11.0	12.8
認可外保育施設	109	50.7	43.4	44.1	23.5	18.8	16.9	17.2

(4) 利用を希望する年齢

利用を希望する子どもの年齢について、「すでに利用している」を除くと、「3歳から」が26.8%で最も高く、次いで「1歳から」が8.6%、「4歳から」が9.0%となっている。

年齢区分別にみると、0歳では、「0歳から」が2.6%、「1歳から」が23.7%、「2歳から」が12.2%となっている。

〔図 利用を希望する子どもの年齢/年齢区分別〕

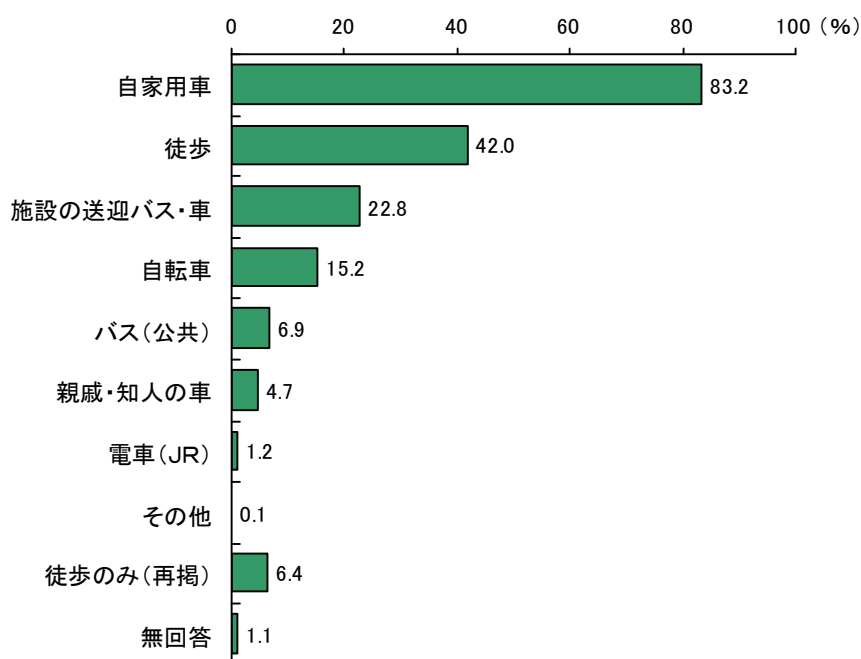


(5) 施設へ通う可能な手段

現在の施設へ通う可能な手段は、「自家用車」が83.2%で最も高く、次いで「徒歩」が42.0%、「施設の送迎バス・車」が22.8%となっている。

そのうち、「徒歩」のみを回答した世帯は6.4%となっている。

〔図 施設へ通う可能な手段〕



(6) 土曜日、日曜日、祝日の事業の利用希望

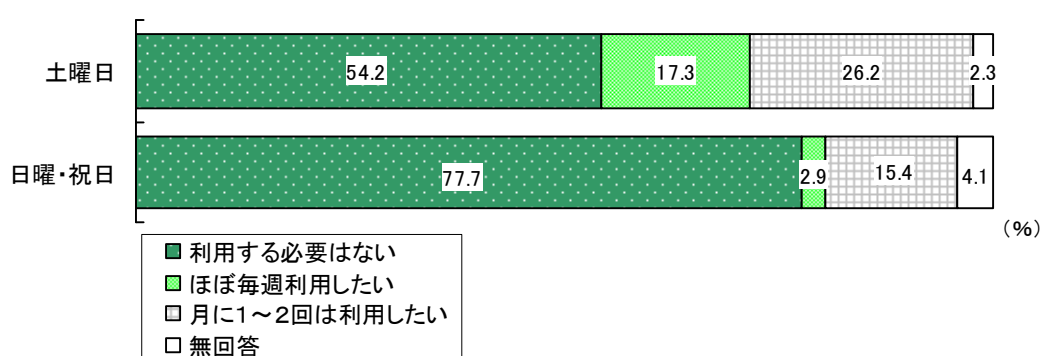
土曜日の事業の利用希望は、「ほぼ毎週利用したい」は17.3%、「月に1～2回は利用したい」は26.2%となっている。

利用希望時間について、開始時間は「8時台」(42.6%)が最も高く、次いで「9時台」(36.8%)、終了時間は「17時台」(26.2%)が最も高く、次いで「18時台」(24.0%)となっている。

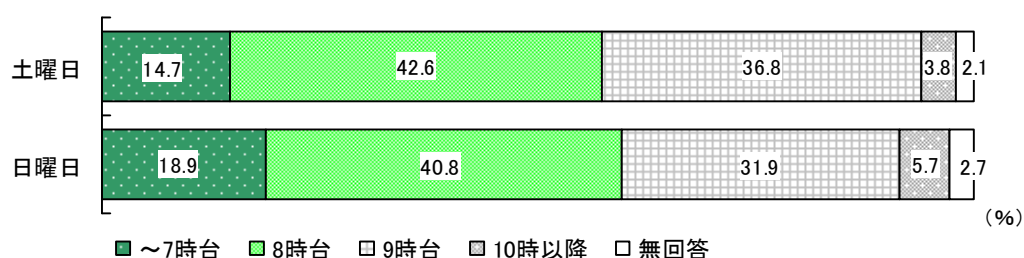
日・祝日の事業の利用希望は、「ほぼ毎週利用したい」は2.9%、「月に1～2回は利用したい」は15.4%となっている。

利用希望時間について、開始時間は「8時台」(40.8%)が最も高く、次いで「9時台」(31.9%)、終了時間は「18時台」(31.1%)が最も高く、次いで「17時台」(28.3%)となっている。

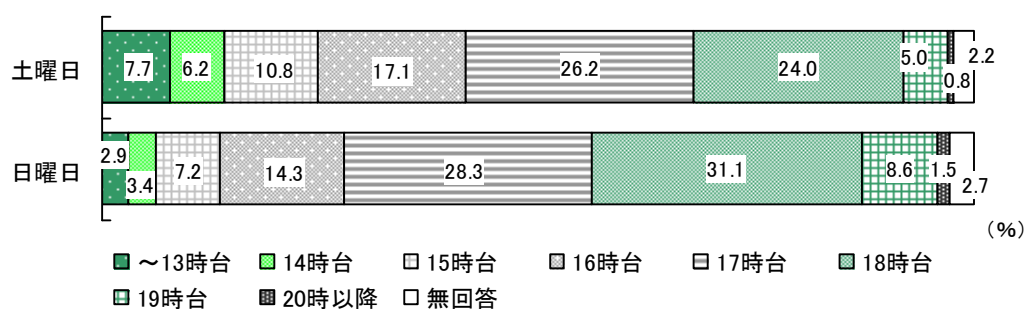
〔図 土曜日、日・祝日の事業の利用希望〕



〔図 土曜日、日・祝日の希望開始時間〕



〔図 土曜日、日・祝日の希望終了時間〕

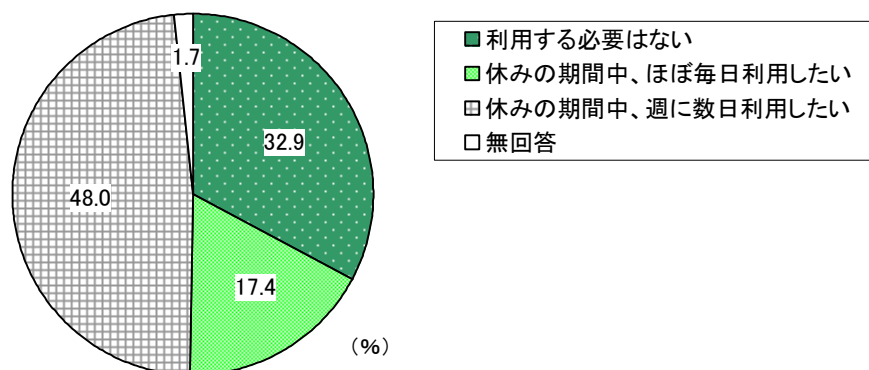


(7) 長期休暇中の事業の利用希望

長期休暇中の事業の利用希望は、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」は17.4%、「休みの期間中、週に数日利用したい」は48.0%となっている。

利用希望時間について、開始時間は「9時台」(63.2%)が最も高く、次いで「8時台」(31.2%)、終了時間は「16時台」(28.3%)が最も高く、次いで「15時台」(21.0%)、となっている。

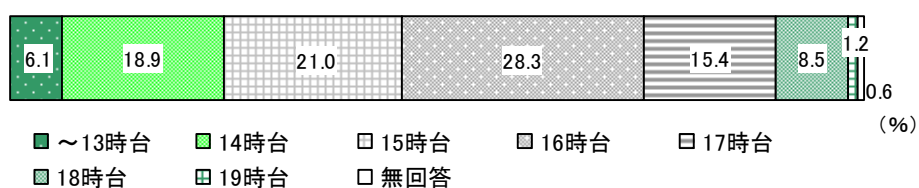
〔図 長期休暇中の事業の利用希望〕
(幼稚園を利用している子どものみ)



〔図 長期休暇中の希望開始時間〕



〔図 長期休暇中の希望終了時間〕



5 不定期の保育事業の利用希望

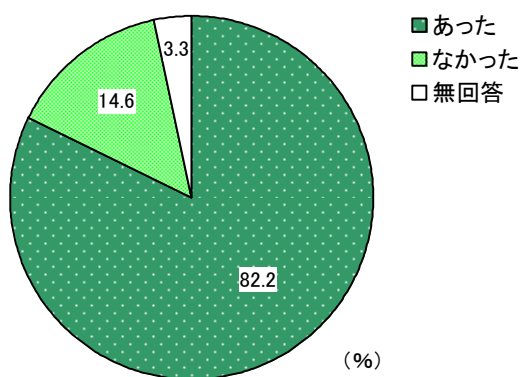
(1) 子どもが病気の際の保育

病気やケガで教育・保育事業を利用できなかったことが、「あった」割合は 82.2%となっている。

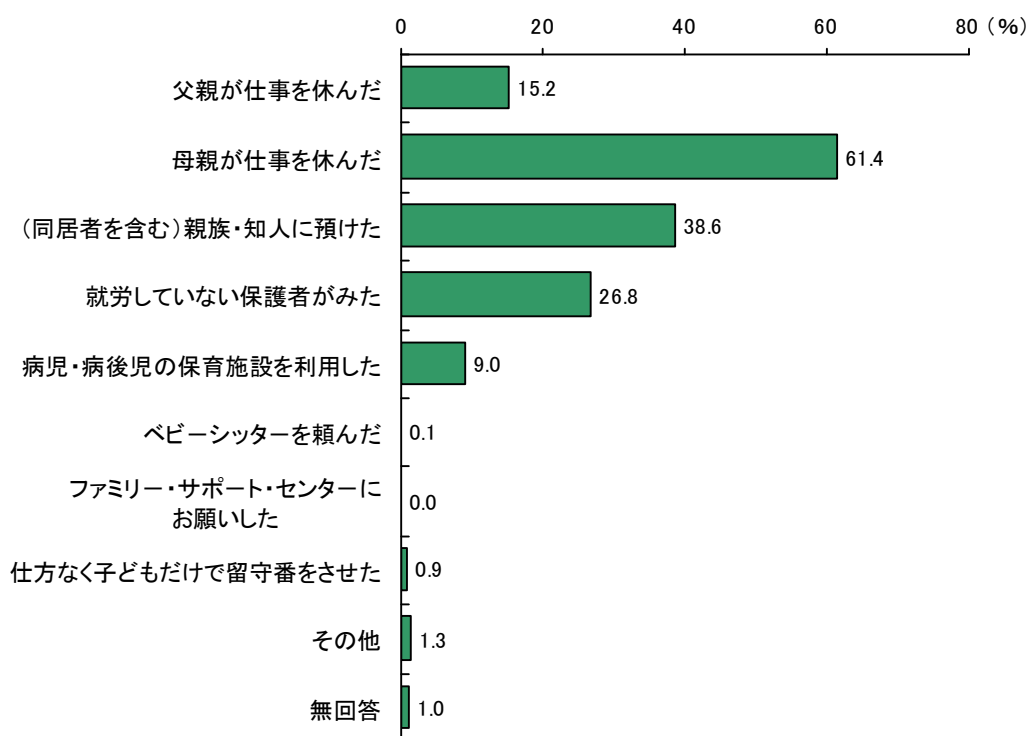
その際の対応は、「母親が仕事を休んだ」が 61.4%で最も高く、次いで「(同居者を含む) 親族・知人に預けた」(38.6%)、「就労していない保護者がみた」(26.8%) となっている。

母親や父親が仕事を休んで子どもを看た経験がある世帯の、病児・病後児保育施設等の利用希望は、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」との回答は 38.0%となっている。

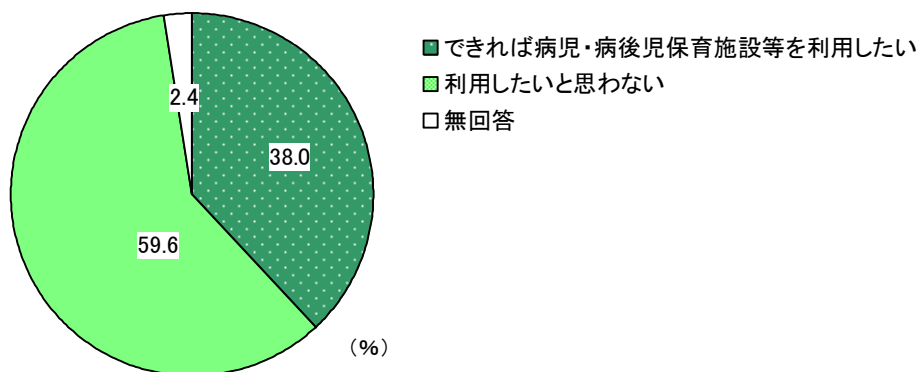
〔図 子どもが病気で教育・保育事業を休んだ経験の有無〕
(定期的に教育・保育事業を利用している世帯)



〔図 子どもが病気で教育・保育事業を休んだ際の対応〕



〔図 子どもが病気の際の病児・病後児保育施設等の利用希望〕
 (子どもが病気の際に母親・父親が仕事を休んだ経験がある世帯)

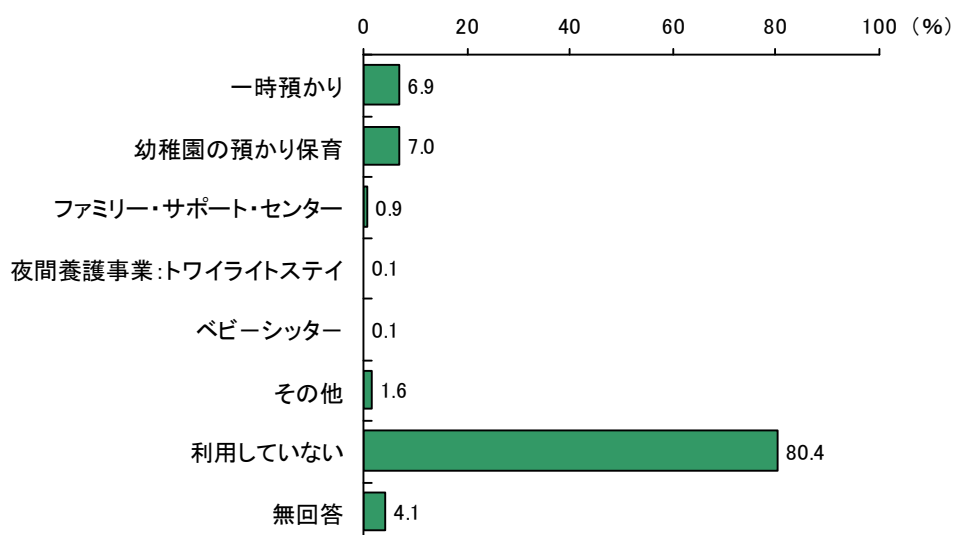


(2) 不定期の保育サービス

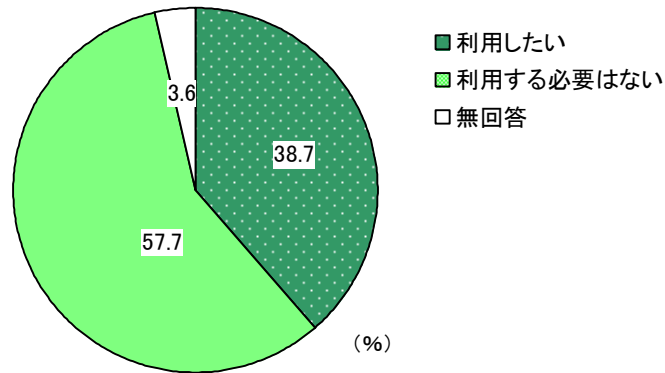
不定期の保育サービスについて、利用した割合は、「利用していない」、「無回答」を除くと16.6%であり、利用した事業は「幼稚園の預かり保育」が7.0%、「一時預かり」が6.9%となっている。

不定期の保育サービスを今後、「利用したい」割合は38.7%であり、その理由は「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が59.8%、「私用」が54.5%で高くなっている。

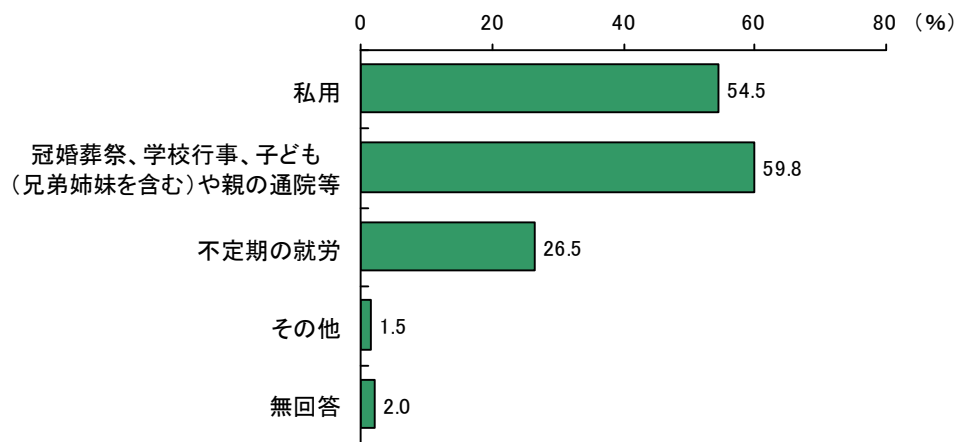
〔図 不定期に利用した保育サービス〕



〔図 不定期の保育サービスの利用意向〕



〔図 利用する理由〕

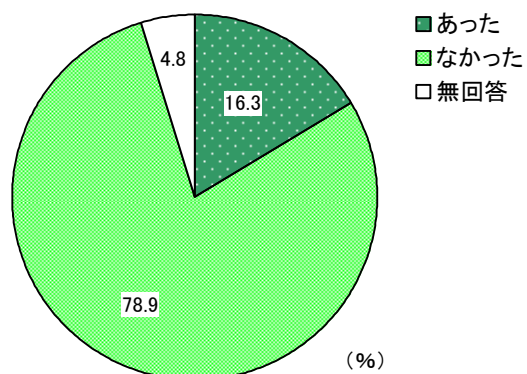


（３）宿泊を伴う保育サービス

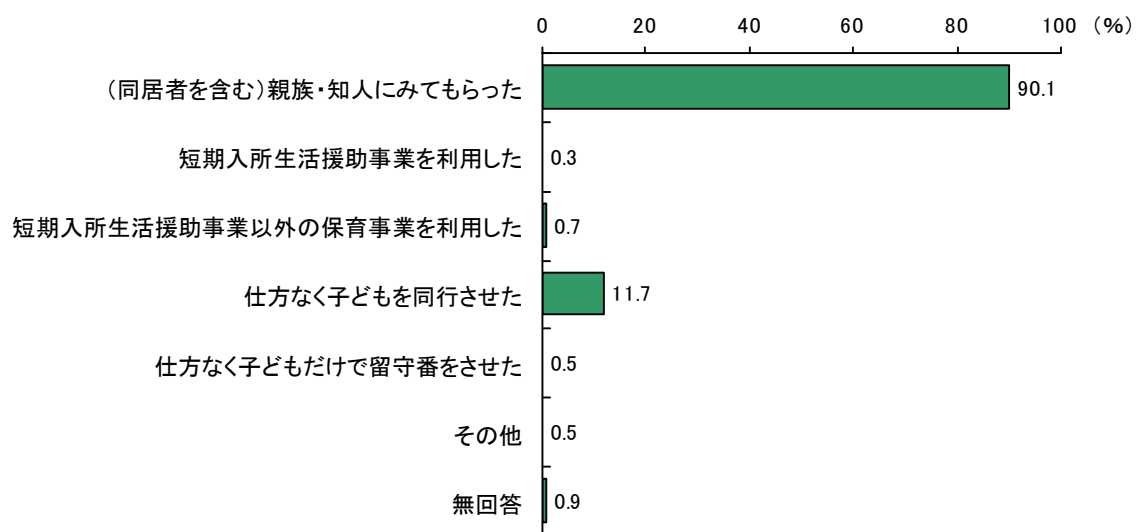
保護者の用事により子どもを泊りがけで預けた経験が「あった」割合は16.3%であり、その際の対応は「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」が90.1%であり、事業を利用した割合はわずかである。

また、親族や知人にみてもらったが、「非常に困難」である割合は7.7%となっている。

〔図 泊りがけで子どもを預けた経験の有無〕

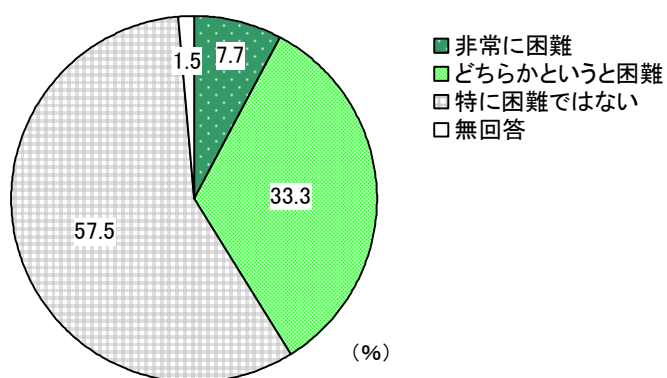


〔図 泊りがけで子どもを預けた際の対応〕



〔図 泊りがけで子どもを預けた際の困難度〕

(親族・知人にみてもらった経験がある世帯)

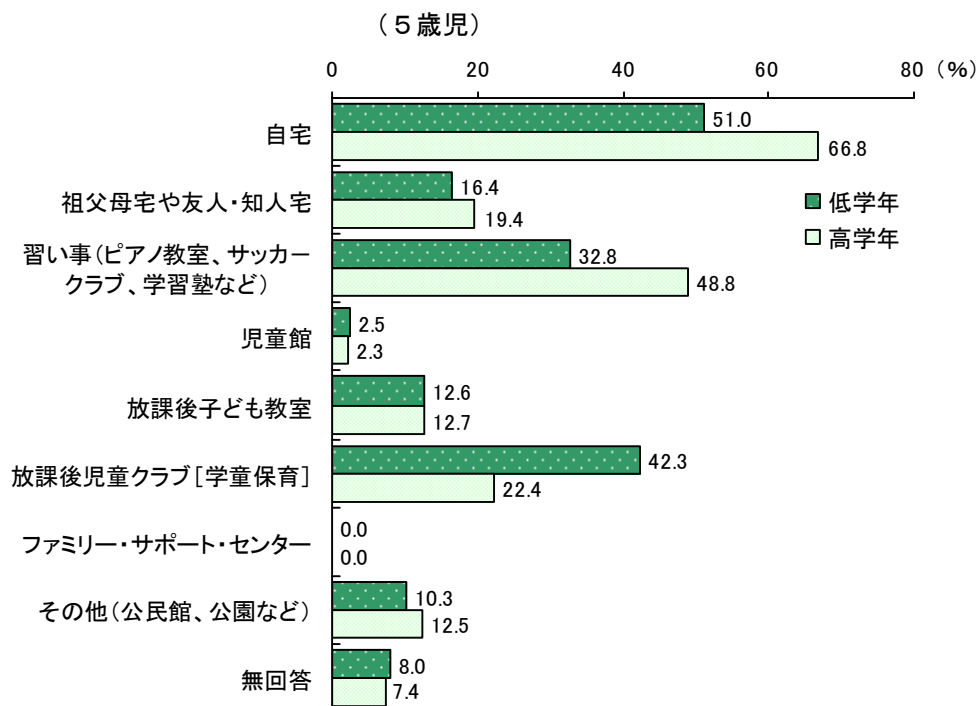


6 小学校就学後の放課後の過ごし方

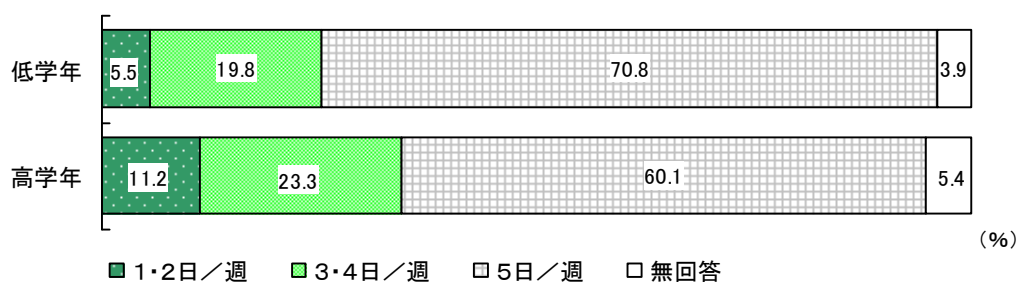
小学校就学後の放課後の過ごさせたい場所過ごし方として、「放課後児童クラブ」と回答した割合は、低学年の時期で 42.3%、高学年の時期で 22.4%となっている。

利用希望日数は1週当たり「5日」、利用希望終了時間は「17時台」「18時」の割合が高くなっている。

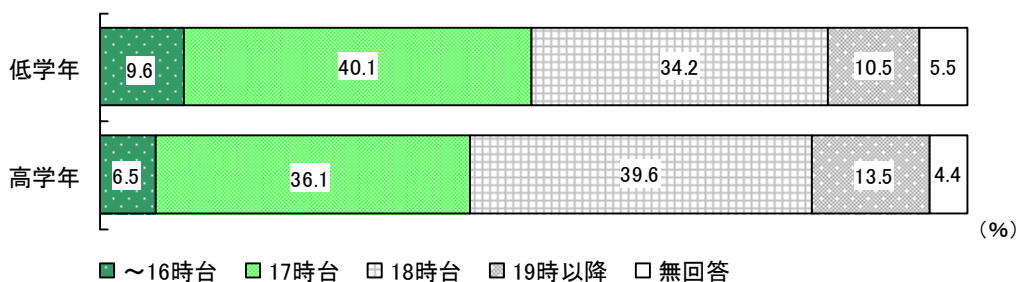
〔図 子どもの小学校就学後の放課後の過ごさせたい場所過ごし方〕



〔図 放課後児童クラブの1週当たりの利用希望日数〕



〔図 放課後児童クラブの希望終了時間〕



7 地域の子育て支援サービスの利用状況

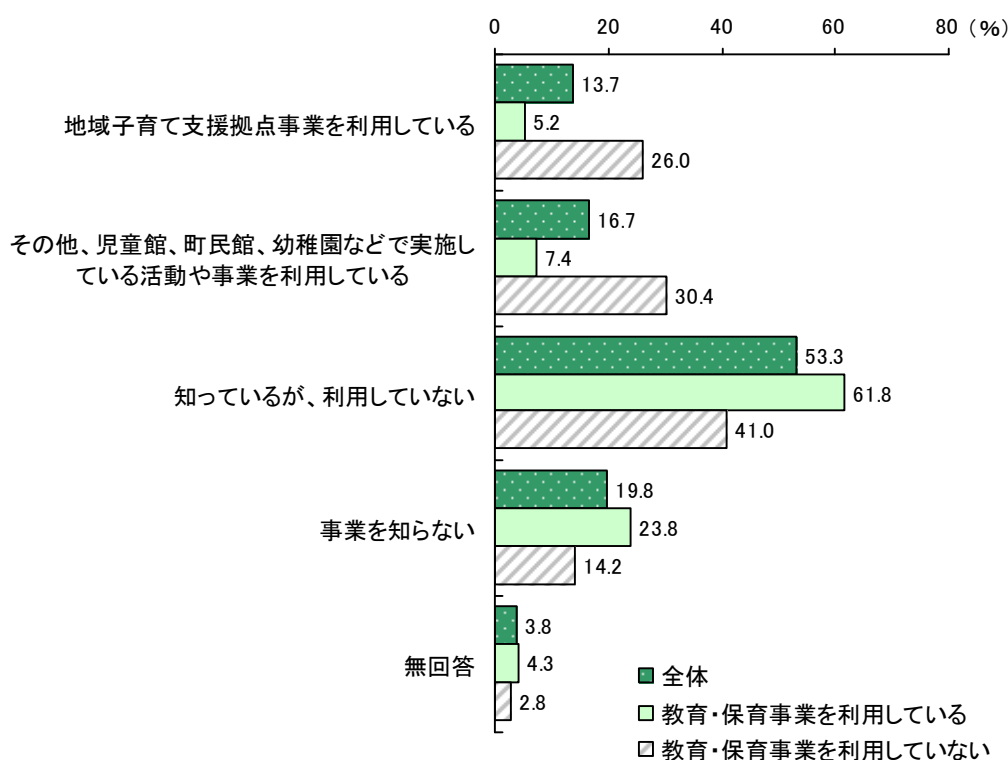
(1) 地域の子育て支援サービス拠点事業の利用状況

地域の子育て支援サービス拠点事業の利用状況について、「地域子育て支援拠点事業を利用している」は13.7%、「その他、児童館、町民館、幼稚園などで実施している活動や事業を利用している」は16.7%であり、「事業を知らない」が19.8%となっている。

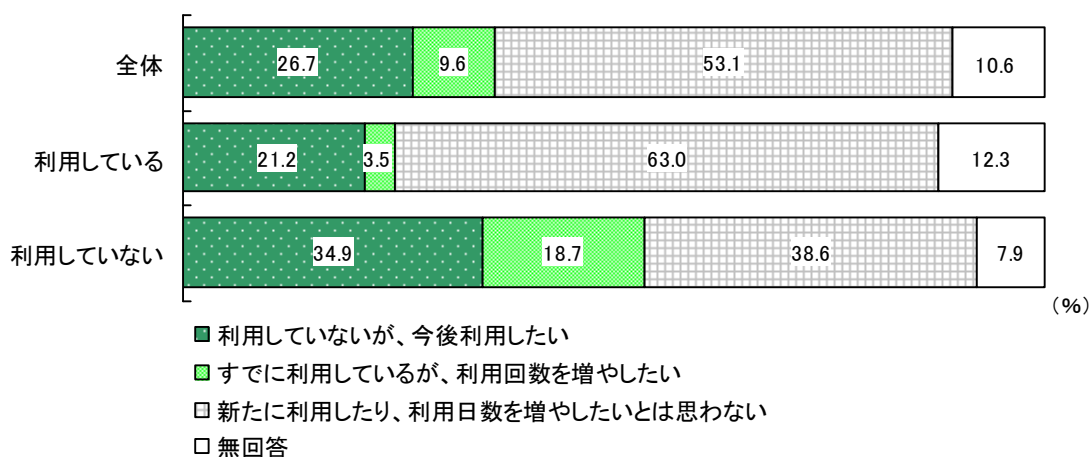
平日の教育・保育事業の利用状況別にみると、事業を利用していない世帯では「地域子育て支援拠点事業を利用している」は26.0%、「その他、児童館、町民館、幼稚園などで実施している活動や事業を利用している」は30.4%となっている。

地域子育て支援拠点事業の利用希望について、「利用していないが、今後利用したい」は26.7%、「すでに利用しているが、利用回数を増やしたい」は9.6%となっている。

〔図 地域の子育て支援サービス拠点事業の利用状況〕



〔図 地域子育て支援拠点事業の利用希望/定期的な事業の利用状況別〕

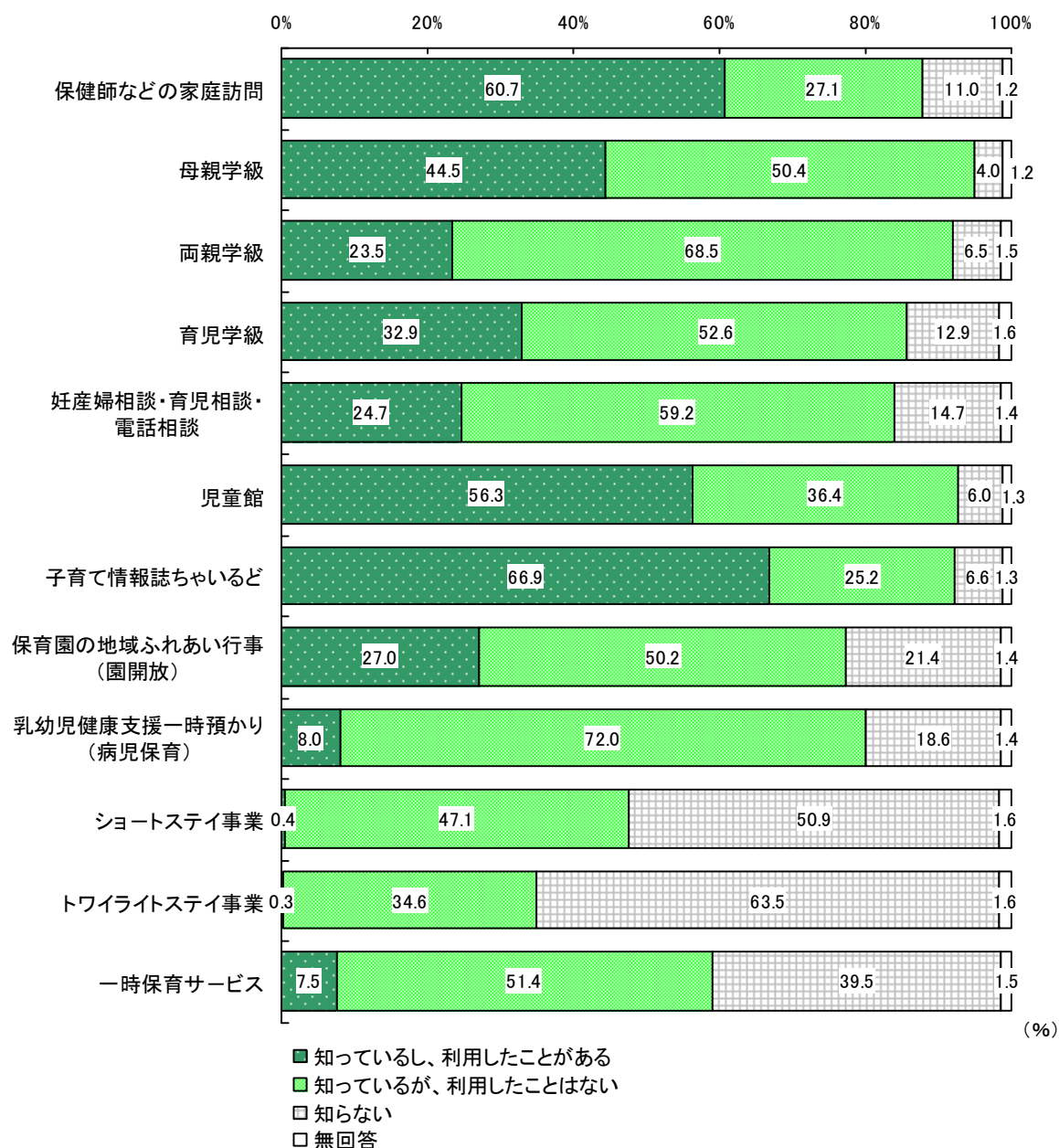


(2) 地域の子育て支援サービスの認知度・利用度

「知っているし、利用したことがある」割合が高い事業やサービスは、「子育て情報誌ちやいど」(66.9%) が最も高く、次いで「保健師などの家庭訪問」(60.7%)、「児童館」(56.3%)、「母親学級」(44.5%) となっている。

一方、「知らない」割合が高い事業やサービスは、「トワイライトステイ事業」(63.5%)、「ショートステイ事業」(50.9%)、「一時保育サービス」(39.5%) となっている。

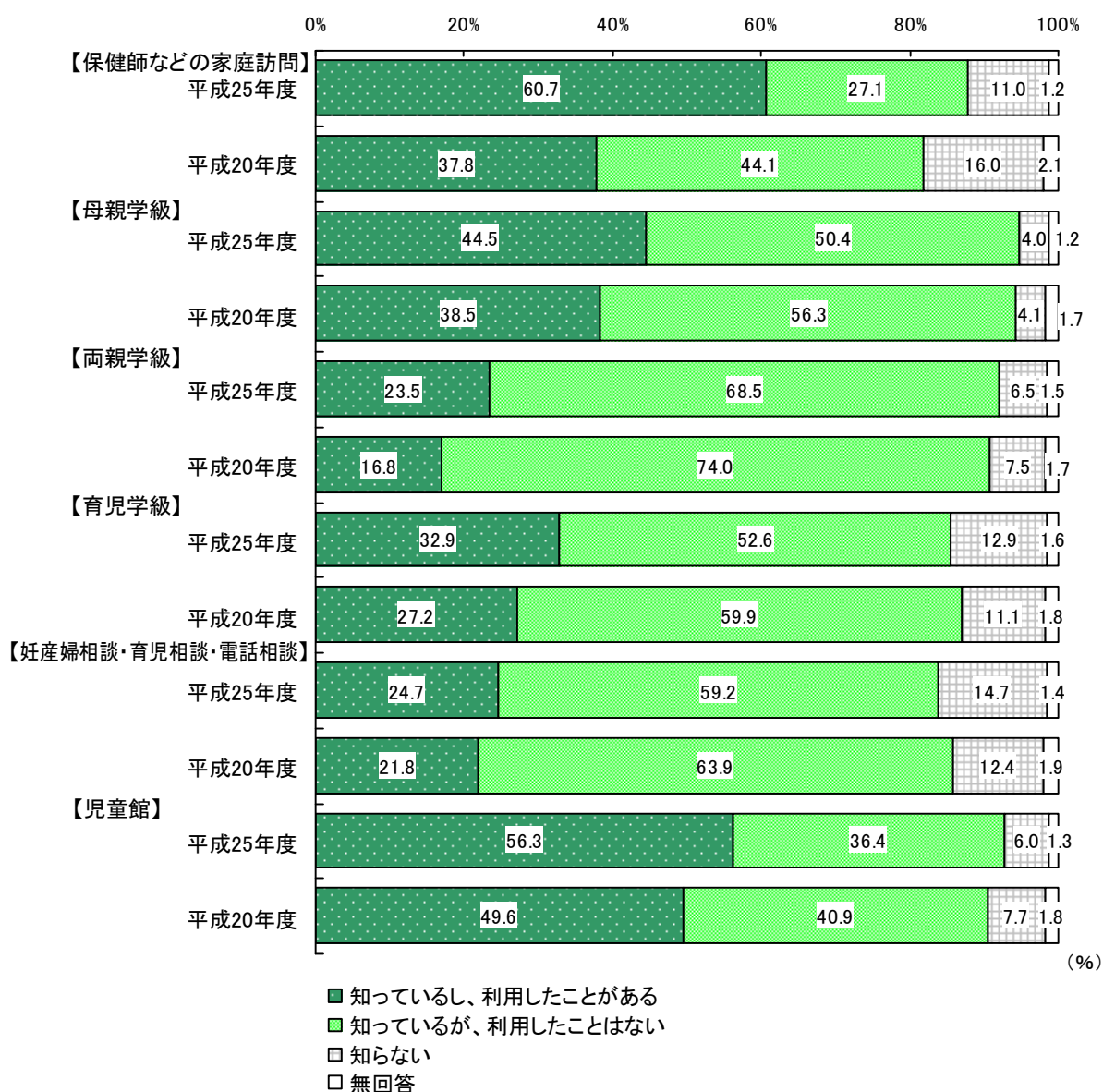
〔図 子育て支援サービスセンター等の認知度・利用度〕



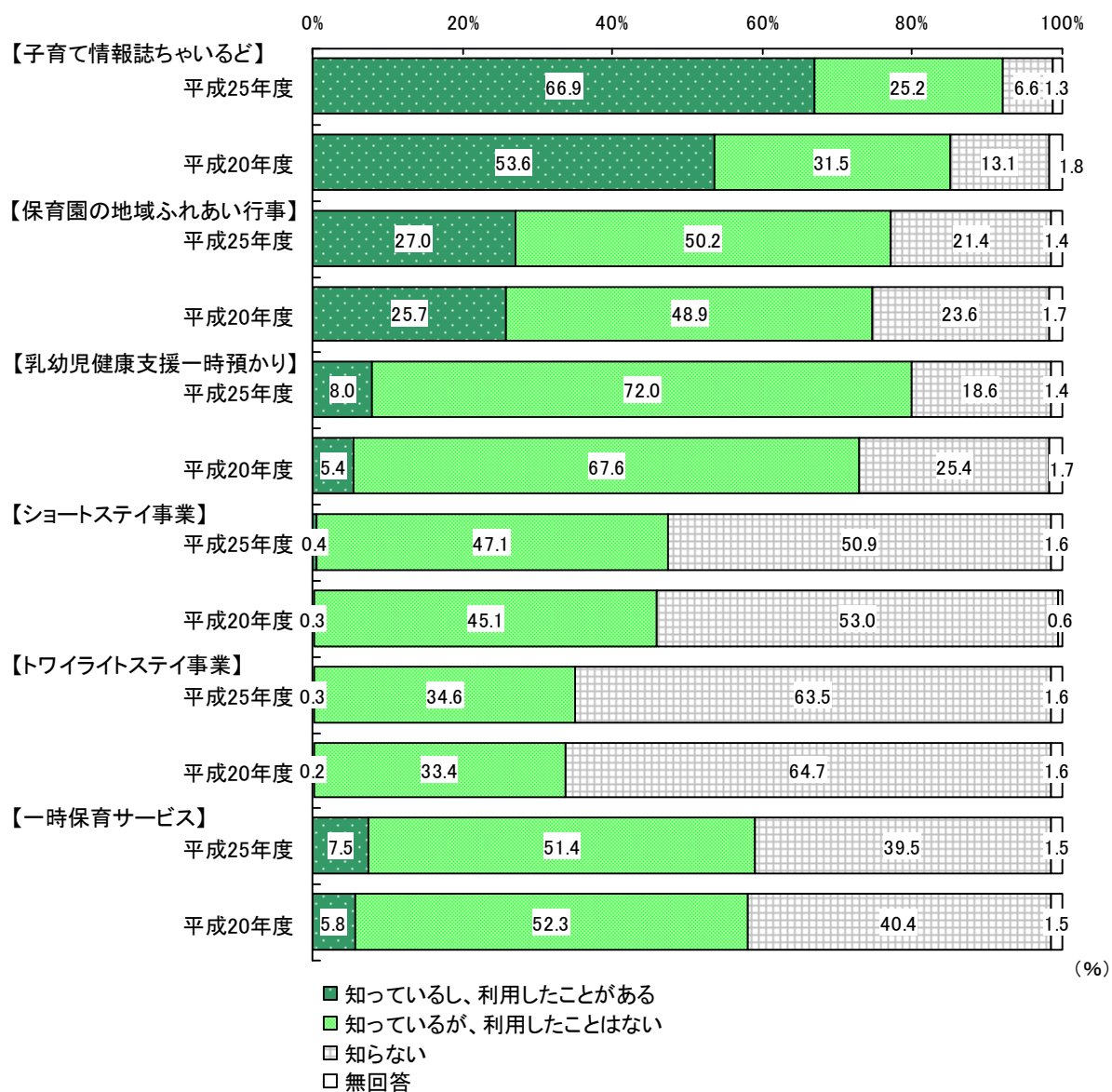
前回調査と比較して「知っているし、利用したことがある」割合は、全ての事業やサービスで上昇しているが、5ポイント以上の上昇は、「保健師などの家庭訪問」が22.9ポイント、「母親学級」が6.0ポイント、「両親学級」が6.7ポイント、「育児学級」が5.7ポイント、「児童館」6.7ポイント、「子育て情報誌ちやいんど」が13.3ポイントとなっている。

また、「知っているが、利用したことがない」を合わせた知っている割合が上昇した事業やサービスは、利用度が大きく上昇した項目以外では、「乳幼児健康支援一時預かり（病児保育）」が7.0ポイントの上昇となっている。

〔図 子育て支援サービスセンター等の認知度・利用度/前回調査との比較〕



〔図 子育て支援サービスセンター等の認知度・利用度/前回調査との比較〕



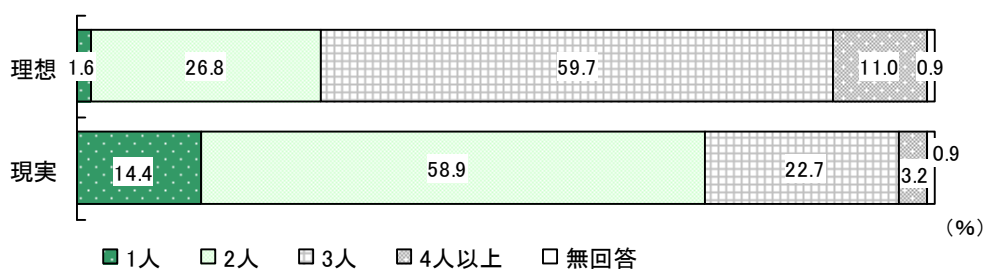
8 子育て全般

(1) 理想の子どもの人数

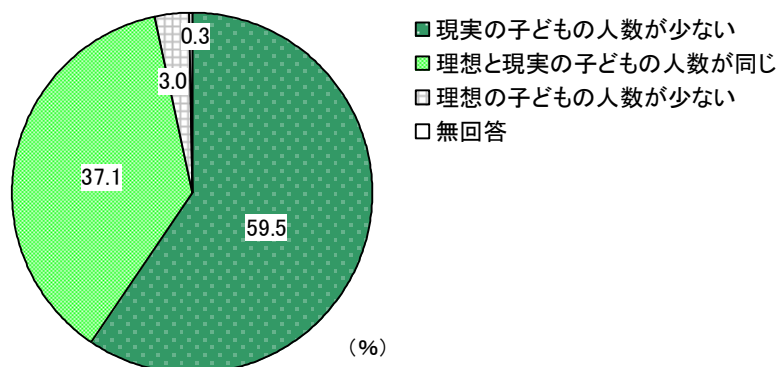
理想の子どもの人数と現実の子どもの人数について、理想では「3人」が59.7%で最も高く、「4人以上」も11.0%となっているが、現実では「2人」が58.9%で最も高く、「3人」は22.7%となっている。

現実の子どもの人数が理想の人数よりも少ない割合は全体の59.5%であり、その理由は、「経済的に厳しいから」が80.7%で最も高く、次いで「仕事と子育ての両立が難しいから」(36.3%)、「体力・健康の面で難しいから」(34.9%)となっている。

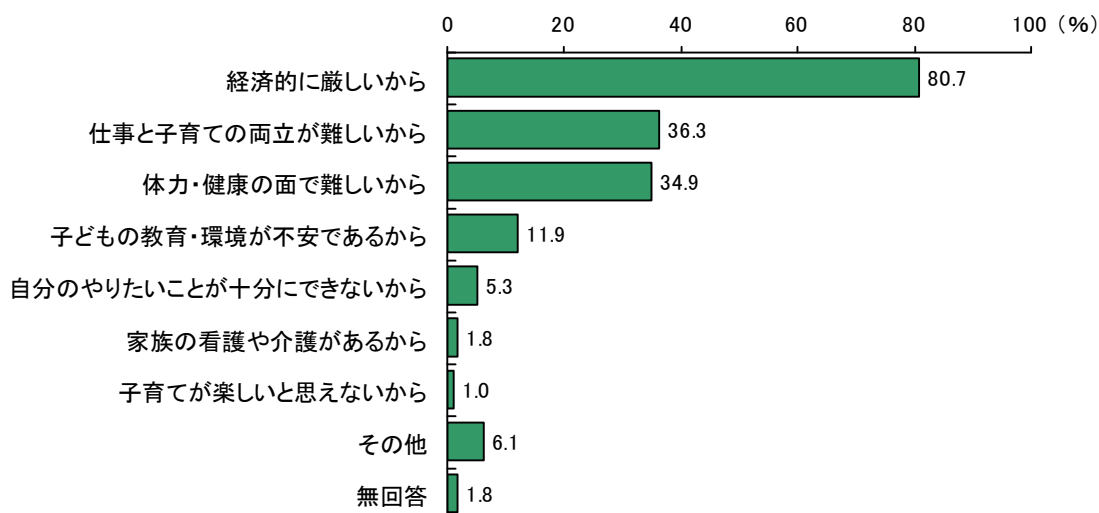
〔図 理想と現実の子どもの人数〕



〔図 理想と現実の子どもの人数の状況〕



〔図 現実の子どもの人数が理想の人数よりも少ない理由〕

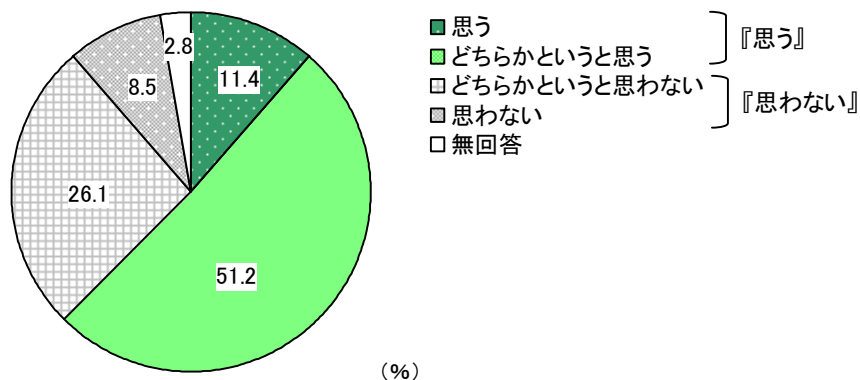


(2) 子育て支援への評価

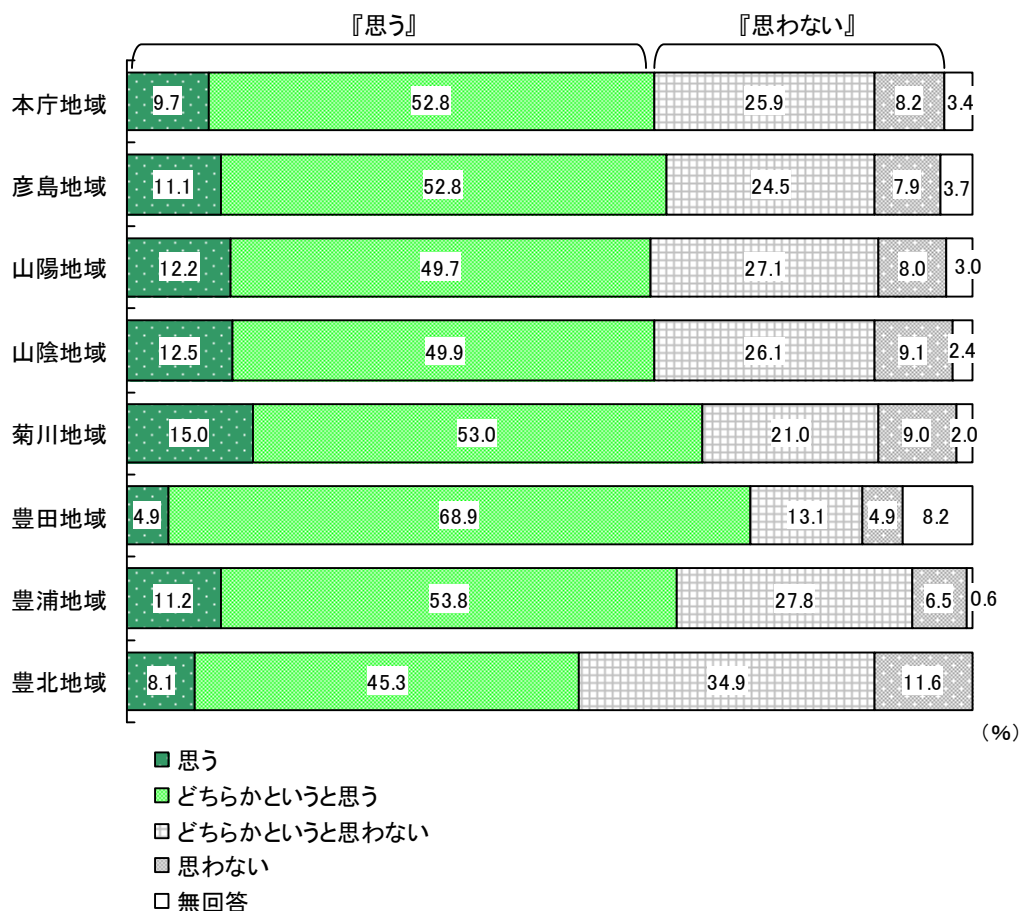
下関市は子育てがしやすいまちだと『思う』(「思う」+「どちらかというと思う」)割合は62.6%であり、『思わない』割合を上回っている。

地域別にみると、豊田地域で、「思う」の割合は他の地域より低くなっているが、「どちらかというと思う」の割合を合わせた『思う』割合は最も高くなっている。一方、豊北地域で『思う』割合が最も低く、『思わない』割合が最も高くなっている。

〔図 下関市は子育てがしやすいまちだと思うか〕



〔図 下関市は子育てがしやすいまちだと思うか/地域別〕

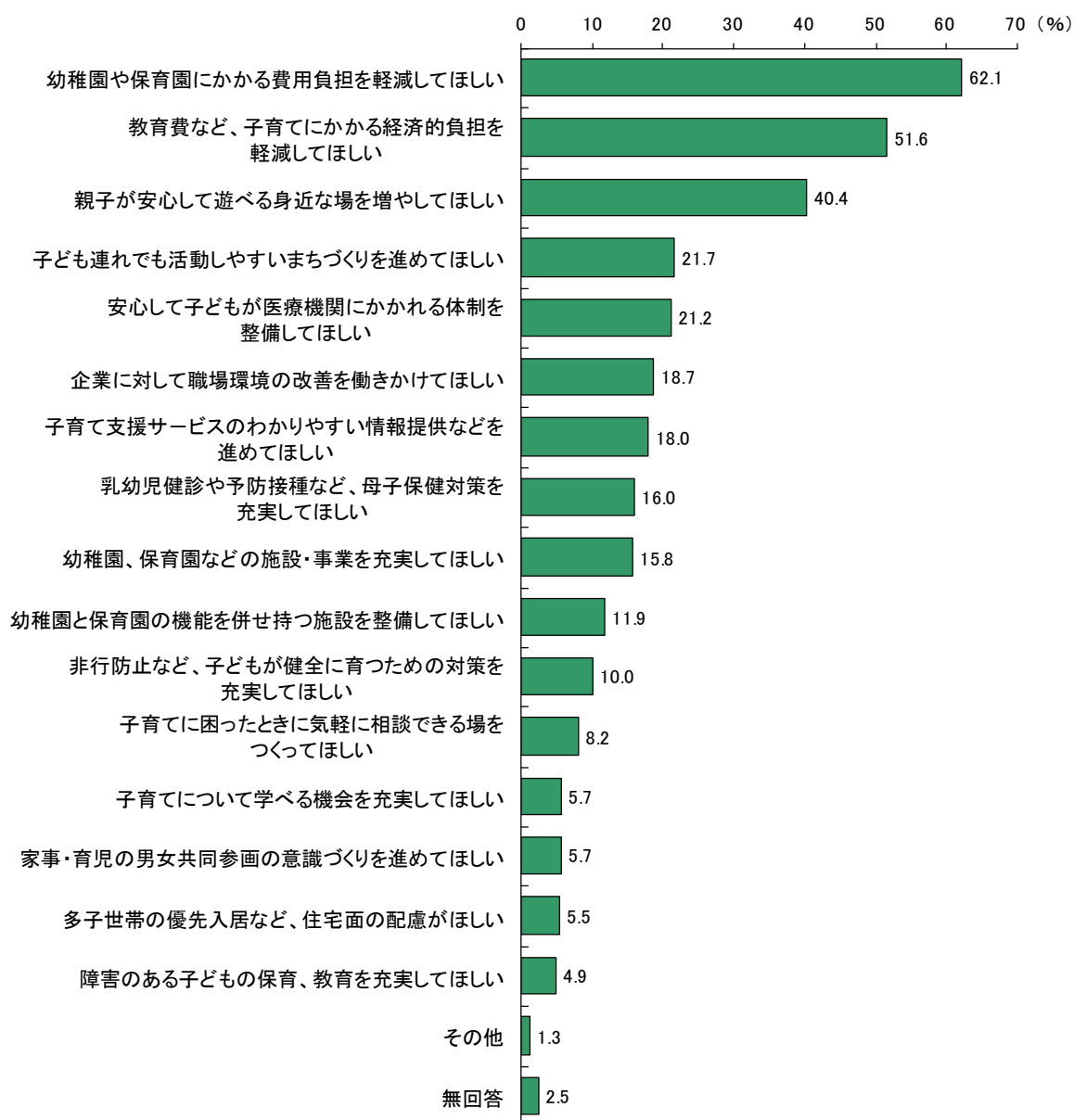


(3) 市へ充実を望む子育て支援

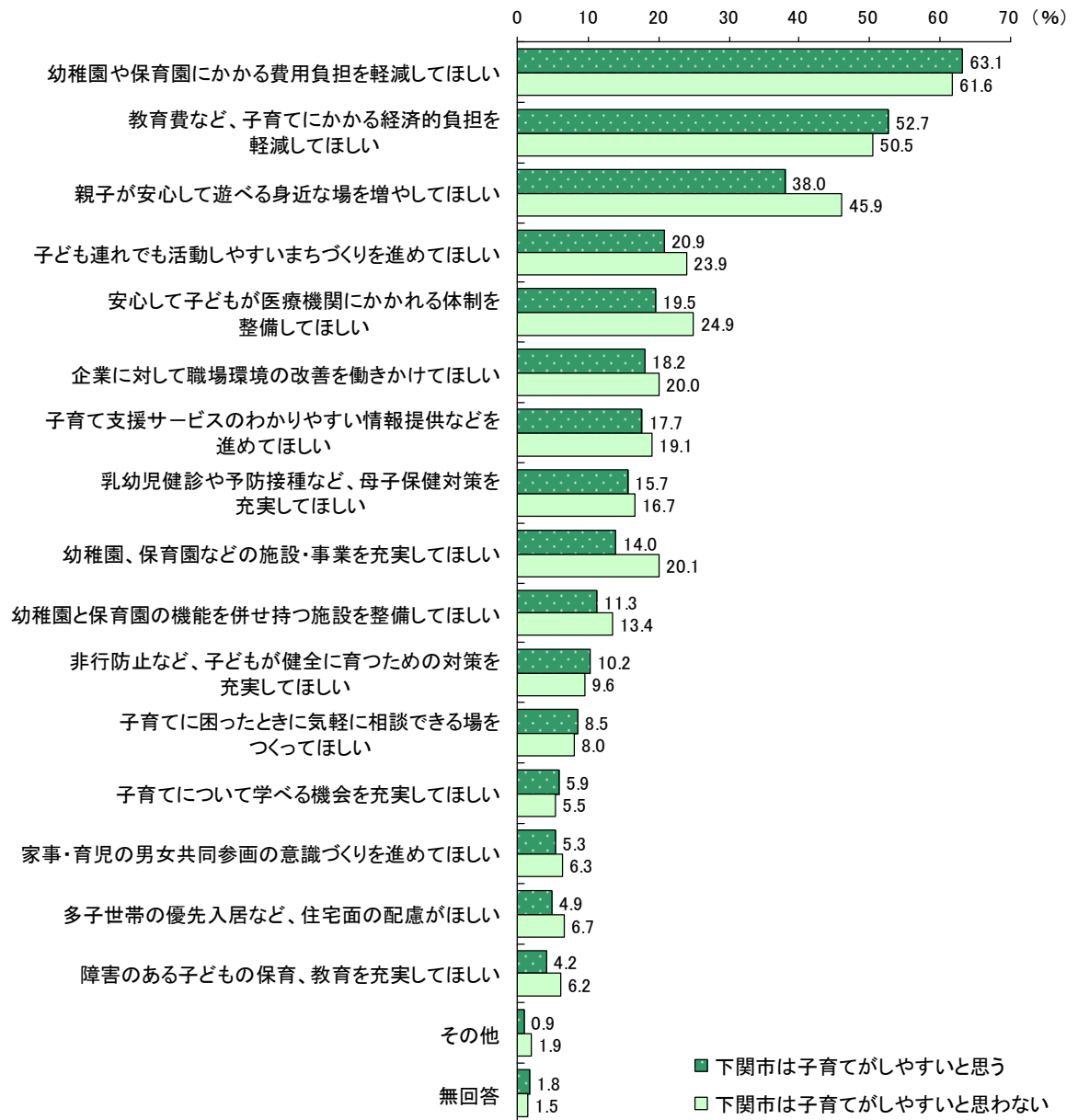
市へ特に充実を期待する子育て支援について、「幼稚園や保育園にかかる費用負担を軽減してほしい」が62.1%で最も高く、次いで「教育費など、子育てにかかる経済的負担を軽減してほしい」(51.6%)、「親子が安心して遊べる身近な場を増やしてほしい」(40.4%)となっており、経済的負担の軽減が上位2項目となっている。

市への子育ての評価別にみると、「子育てがしやすいと思わない」層が「子育てがしやすいと思う」層よりも「親子が安心して遊べる身近な場を増やしてほしい」が7.9ポイント、「幼稚園、保育園などの施設・事業を充実してほしい」が6.1ポイント高くなっている。

〔図 市へ充実を望む子育て支援〕



〔図 市へ充実を望む子育て支援/市への子育て評価別〕

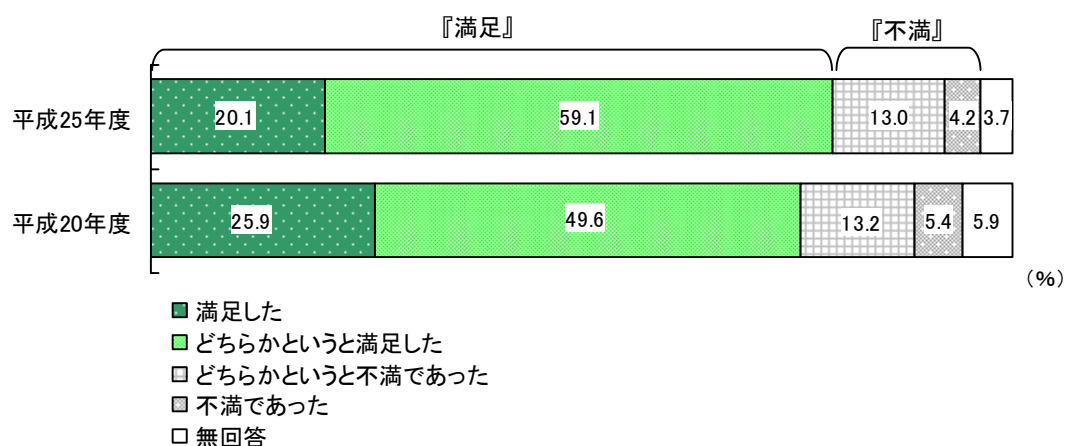


(4) 妊娠中・出産時の支援体制

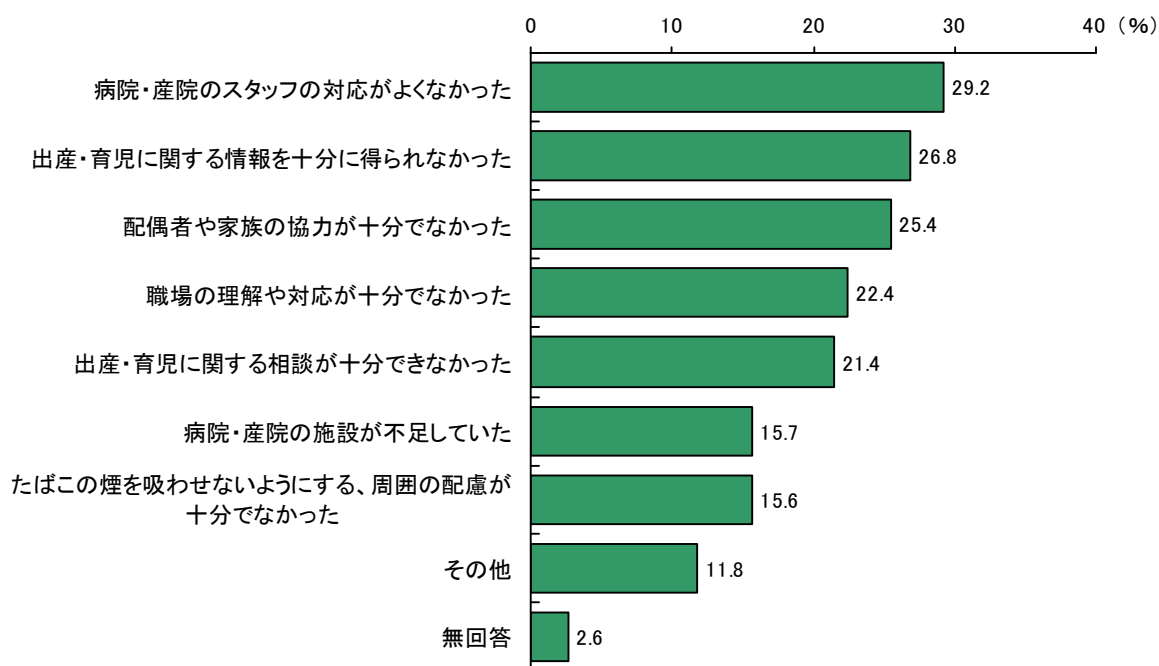
妊娠中・出産時の支援体制について、『満足』（「満足した」＋「どちらかという満足した」）の割合は 79.2%であり、前回調査と比較すると 3.7 ポイント上昇しているが、「満足した」の割合は 5.8 ポイント低下している。

不満であると感じた理由は、「病院・産院のスタッフの対応がよくなかった」が 29.2%で最も高いが、「出産・育児に関する情報を十分に得られなかった」、「配偶者や家族の協力が十分でなかった」、「職場の理解や対応が十分でなかった」、「出産・育児に関する相談が十分できなかった」が 2 割台で続いている。

〔図 妊娠中・出産時の支援体制への評価/前回調査との比較〕



〔図 不満であると感じた点〕（『不満』であった世帯）



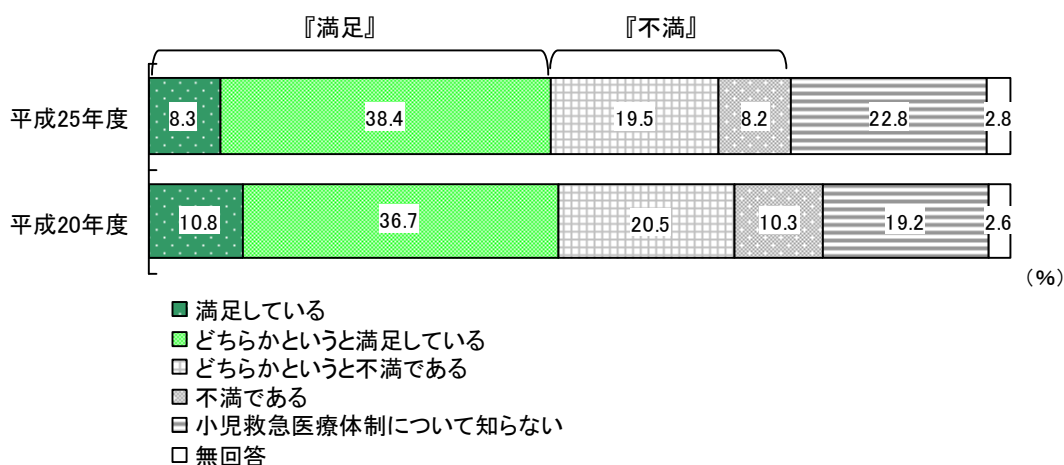
(5) 小児救急医療体制

小児救急医療体制について、『満足』（「満足している」＋「どちらかという満足している」）の割合は46.7％であり、前回調査と比較すると変化はみられない。

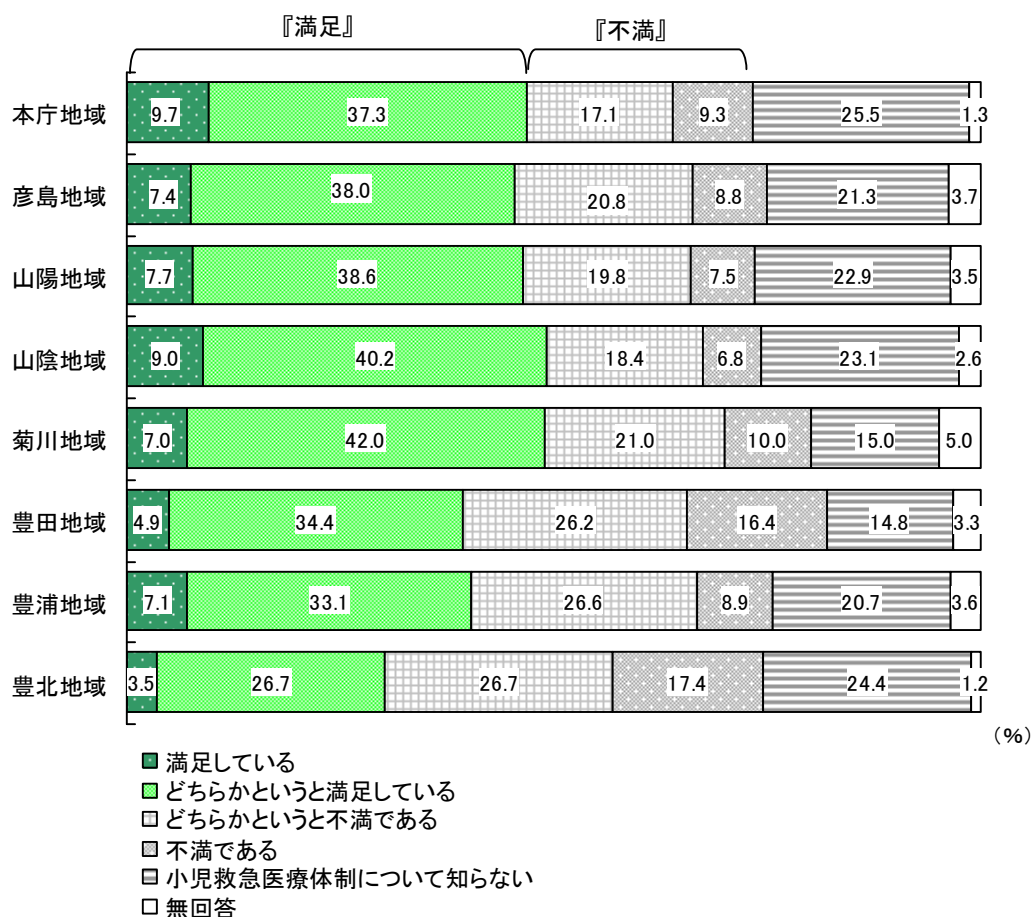
また、「小児救急医療体制について知らない」の割合は22.8％であり、前回調査よりもやや上昇している。

地域別にみると、『満足』の割合は、豊田地域、豊浦地域、豊北地域で低くなっている。

〔図 小児救急医療体制への評価/前回調査との比較〕



〔図 小児救急医療体制への評価/地域別〕

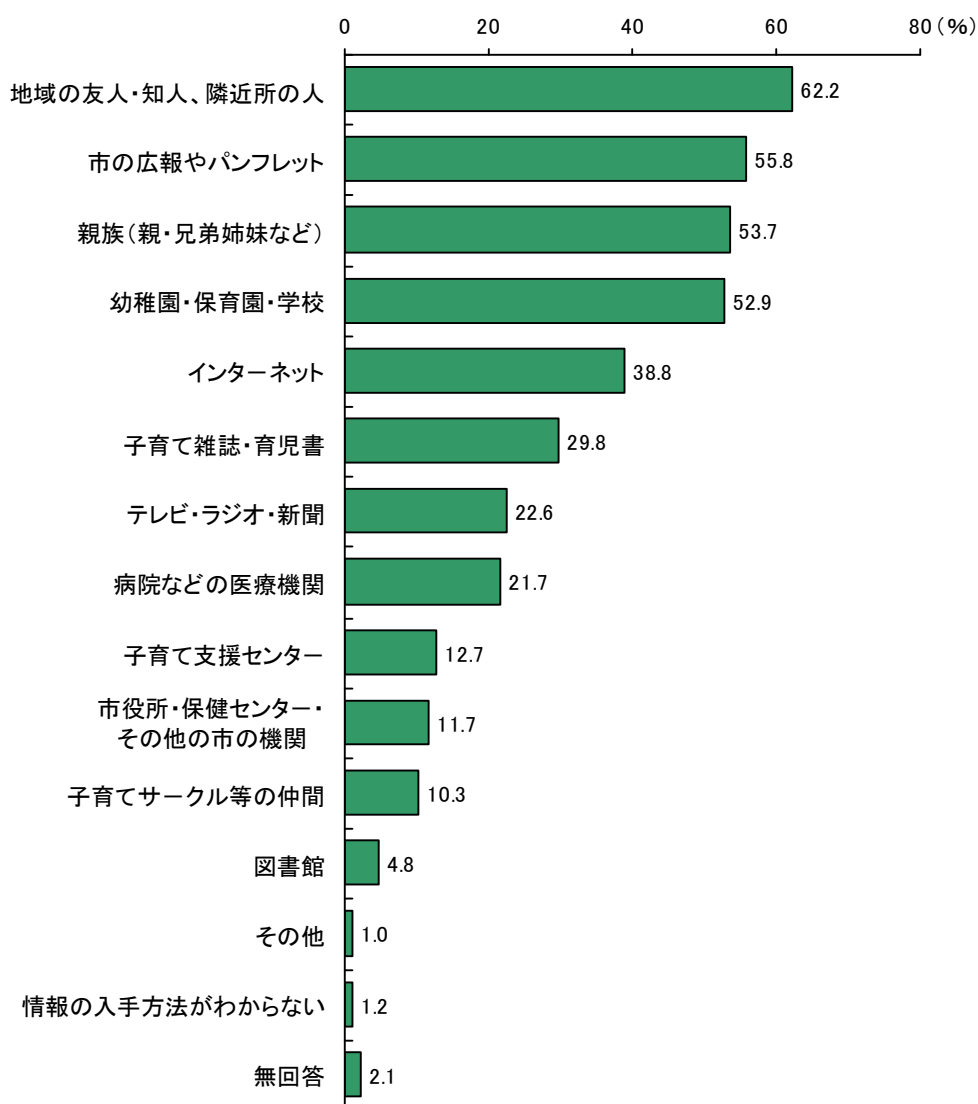


(6) 子育てに関する情報の入手先

子育てに関する情報の入手先は、「地域の友人・知人、隣近所の人」が 62.2%で最も高く、次いで「市の広報やパンフレット」(55.8%)、「親族(親・兄弟姉妹など)」(53.7%)、「幼稚園・保育園・学校」(52.9%)となっている。

一方、「情報の入手方法がわからない」が 1.2%となっている。

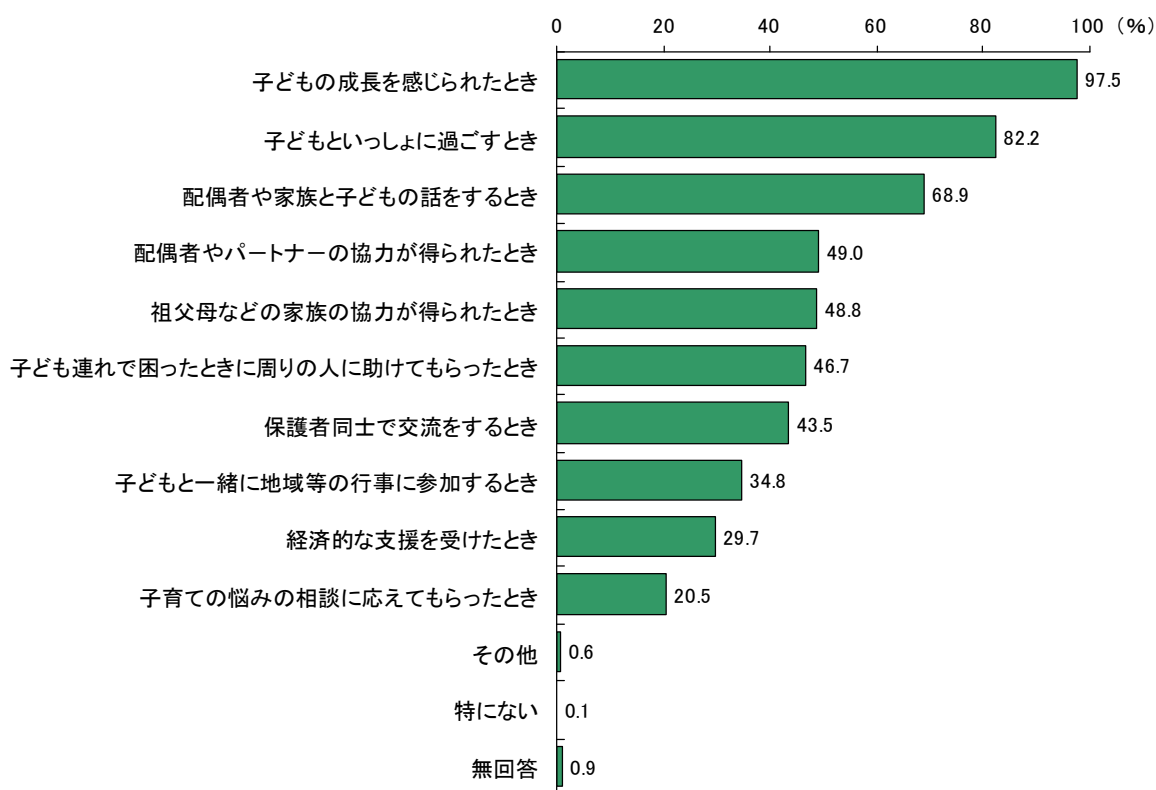
〔図 子育てに関する情報の入手先〕



(7) 子育ての楽しさや悩み

子育てをしていて「うれしい」、「たのしい」と感じることをして、「子どもの成長を感じられたとき」が 97.5%で最も高く、次いで「子どもといっしょに過ごすとき」(82.2%)、「配偶者や家族と子どもの話をするとき」(68.9%) となっている。

〔図 子育てをしていて「うれしい」「たのしい」と感じること〕

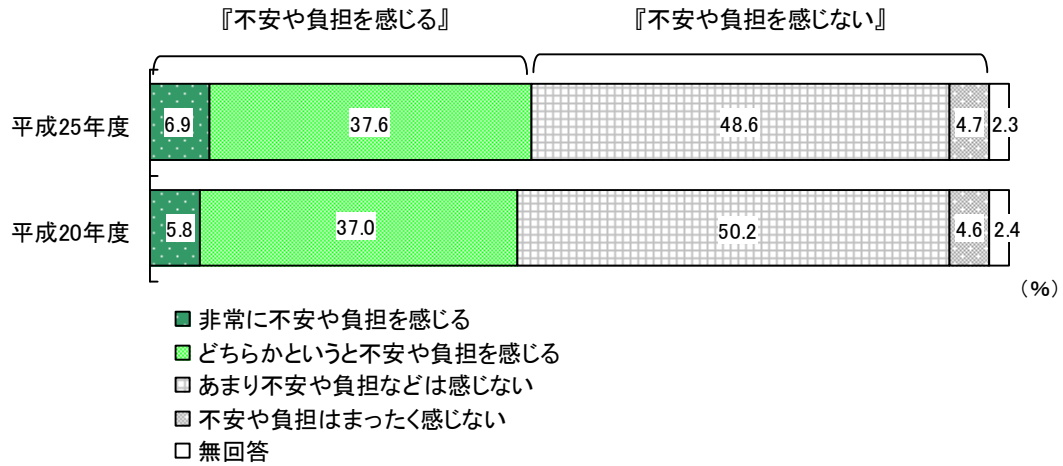


子育てに『不安や負担を感じる』（「非常に不安や負担を感じる」+「どちらかというと不安や負担を感じる」）割合は 44.5%となっており、前回調査と比較すると変化はみられない。

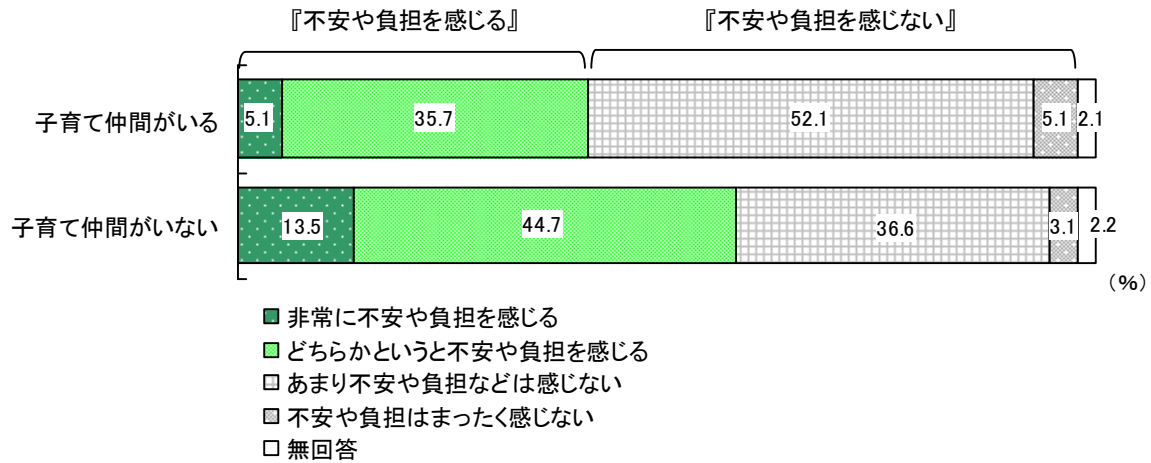
子育てをする仲間の有無別にみると、「子育て仲間がいない」層で『不安や負担を感じる』割合は 58.2%であり、「子育て仲間がいる」層よりも 17.4 ポイント高くなっている。

子どもをみてる人の有無別にみると、「子どもをみてる人がいない」層で『不安や負担を感じる』割合は 52.8%であり、「子育てみてる人がある」層よりも 9.3 ポイント高くなっている。

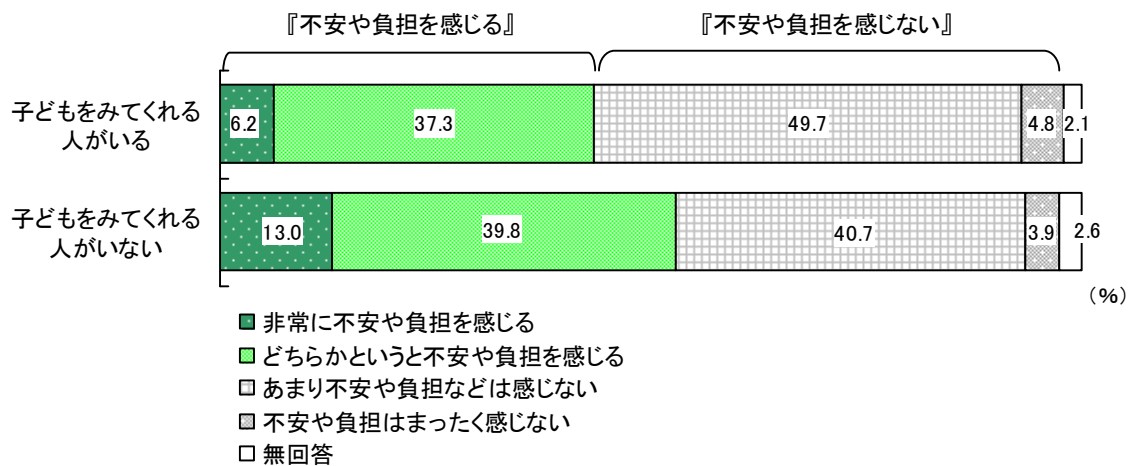
〔図 子育てに関する不安・負担感の有無/前回調査との比較〕



〔図 子育てに関する不安・負担感の有無/子育て仲間の有無〕



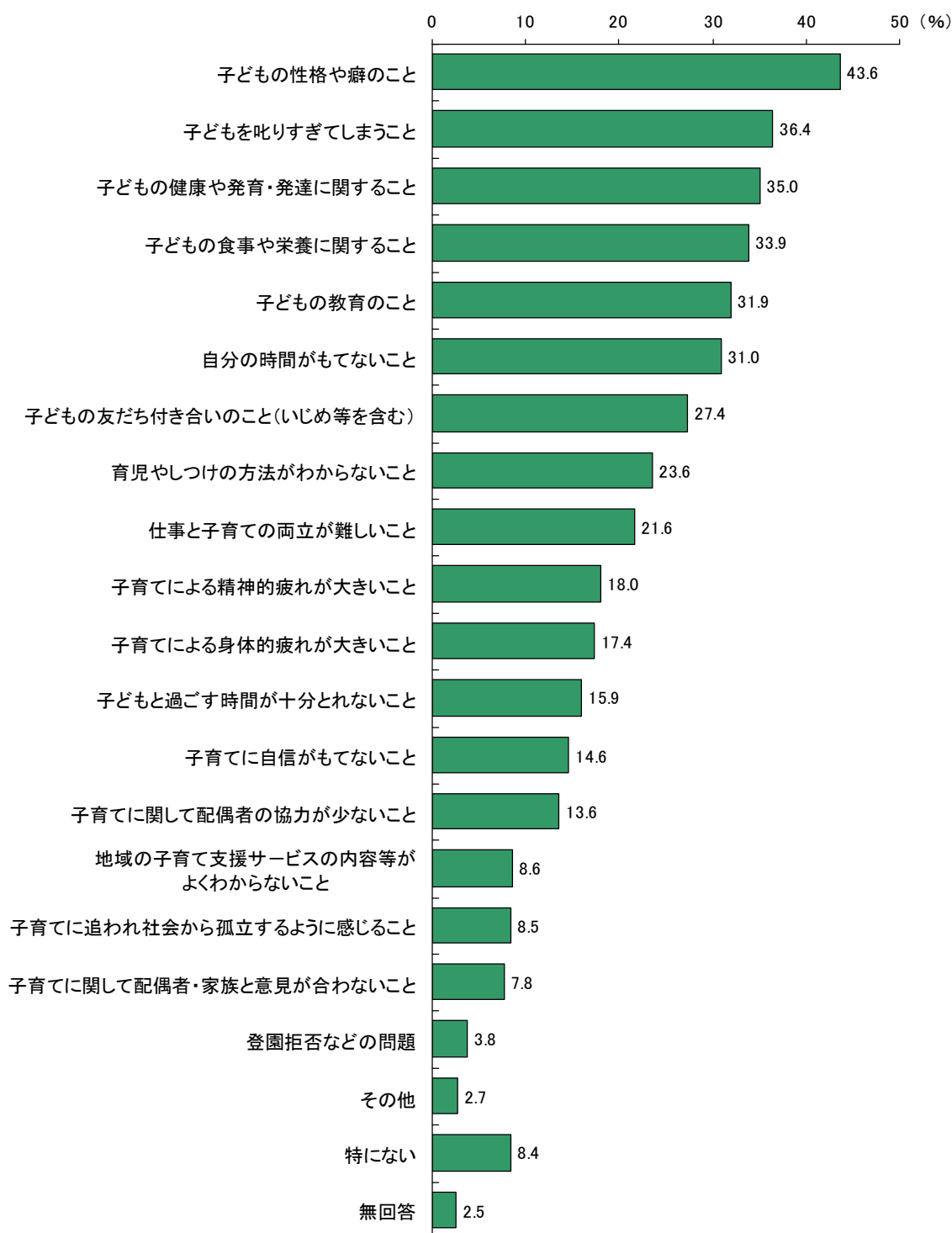
〔図 子育てに関する不安・負担感の有無/子どもをみてくれる人の有無〕



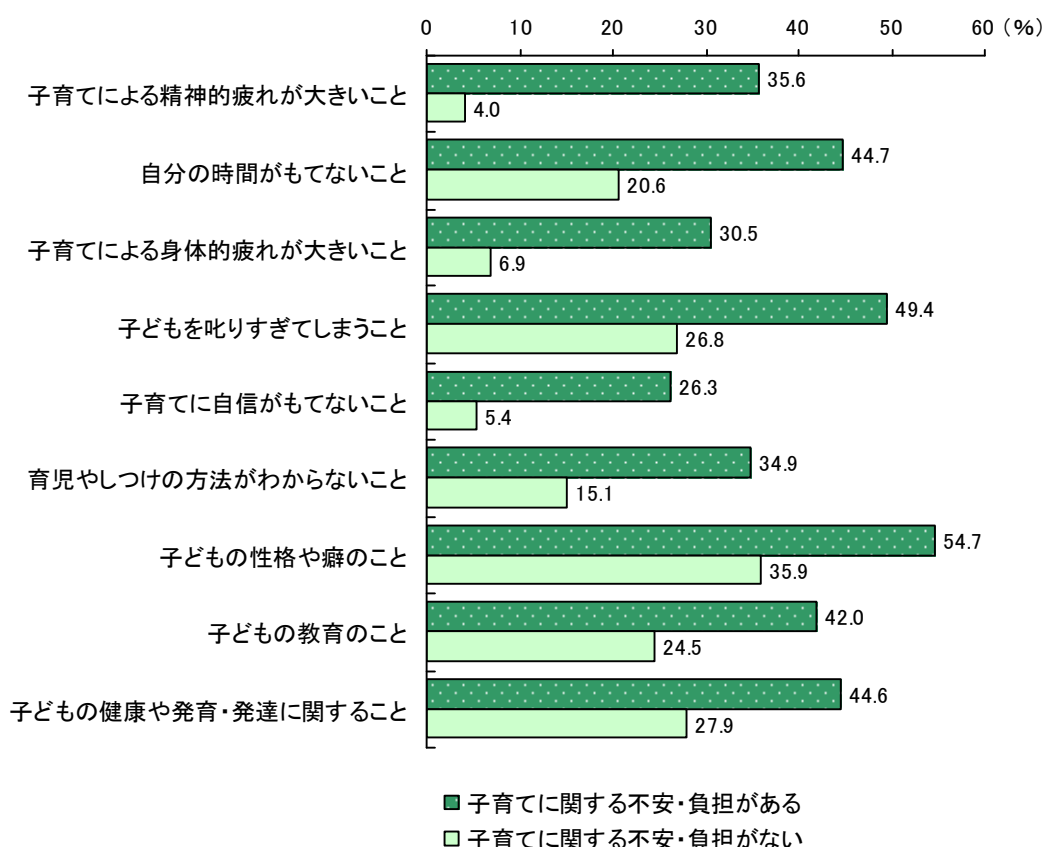
子育てに関する悩みや気になることとして、98.4%の人がいずれかの項目をあげており、「子どもの性格や癖のこと」が43.6%で最も高く、次いで「子どもを叱り過ぎてしまうこと」(36.4%)、「子どもの健康や発育・発達に関すること」(35.0%)となっている。

子育てに関する負担感の有無別による差が大きい順にみると、「子育てによる精神的疲れが大きいこと」が31.6ポイント、「自分の時間がもてないこと」が24.1ポイント、「子育てによる身体的疲れが大きいこと」が23.6ポイント、「不安・負担感がある」層が「不安・負担感がない層」よりも高くなっている。

〔図 子育てに関する悩み〕



〔図 子育てに関する悩み/不安・負担感の有無別〕



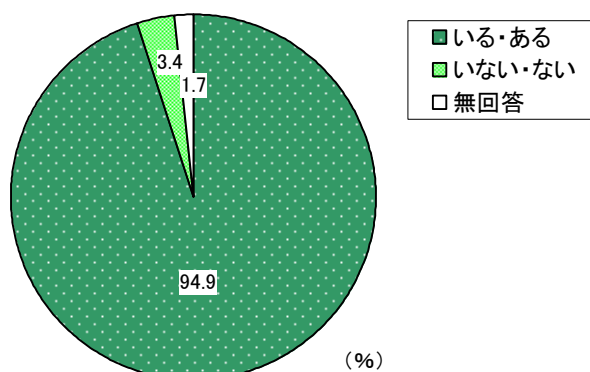
(8) 子育てに関する相談

子育てをする上で気軽に相談できる人や場所について、「いる・ある」との割合は 94.9% となっており、「いない・ない」割合は 3.4% である。

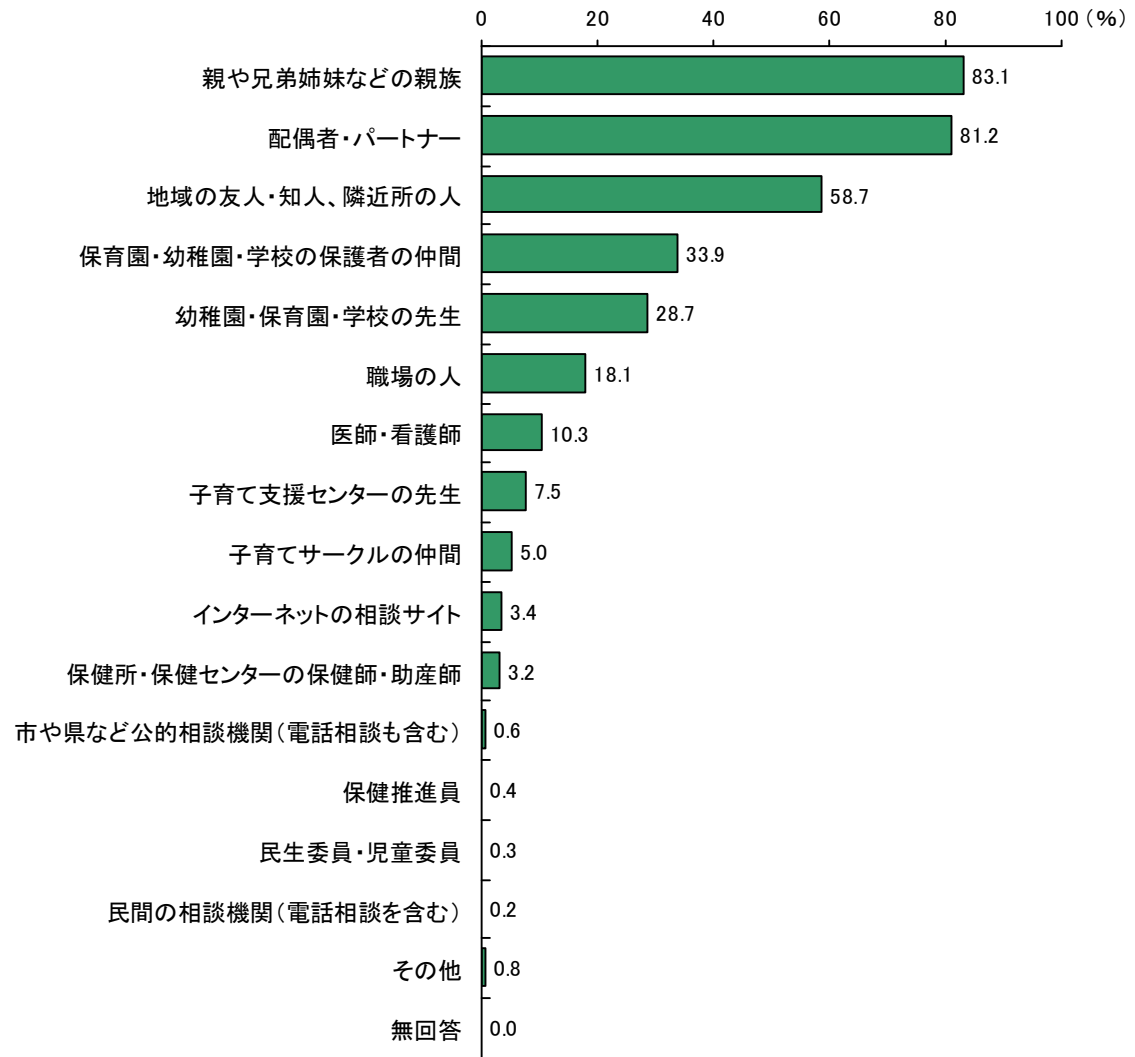
相談する人や場所として、「親や兄弟姉妹などの親族」(83.1%) や「配偶者・パートナー」(81.2%) が並んで上位、次いで「地域の友人・知人、隣近所の人」(58.7%)、「保育園・幼稚園・学校の保護者の仲間」(33.9%) であり、身近な親族や友人が高くなっている。

一方、親族や友人、知人以外では、「幼稚園・保育園・学校の先生」、「医師・看護師」、「子育て支援センターの先生」が高くなっている。

〔図 相談相手・場所の有無〕



〔図 相談相手〕

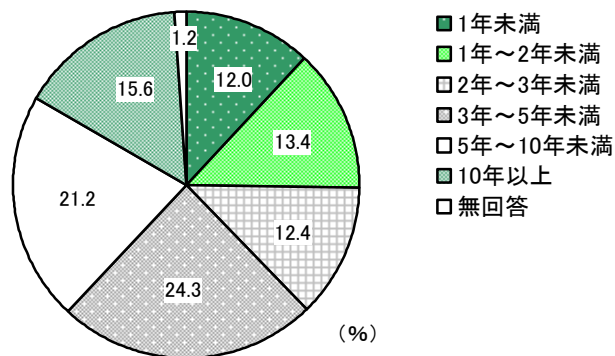


(9) 子育ての環境

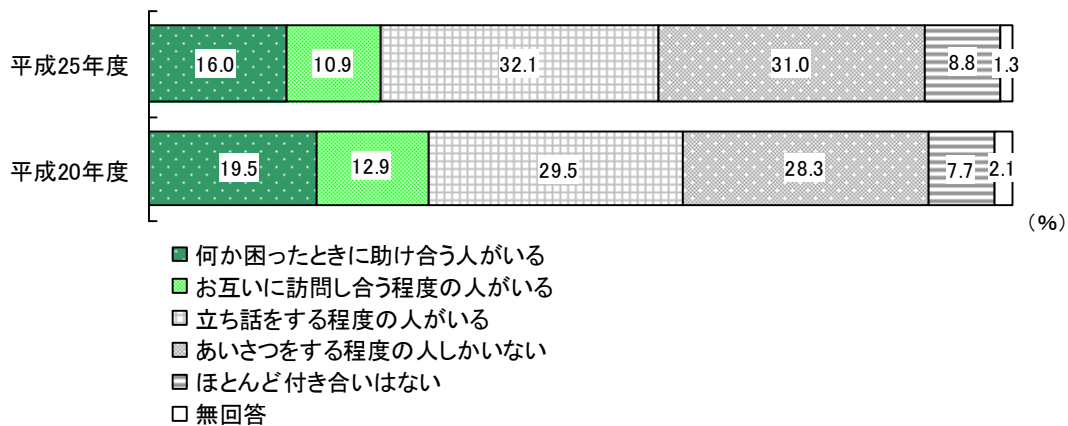
居住年数は、3年以上が6割を超えるが、「1年未満」が12.0%、「1年～2年未満」が13.4%となっている。

近所付き合いの状況について、付き合いが比較的深い、「何か困ったときに助け合う人がある」は16.0%、「お互いに訪問し合う程度の人がある」は10.9%であり、どちらも前回調査と比較するとやや低下している。

〔図 居住年数〕



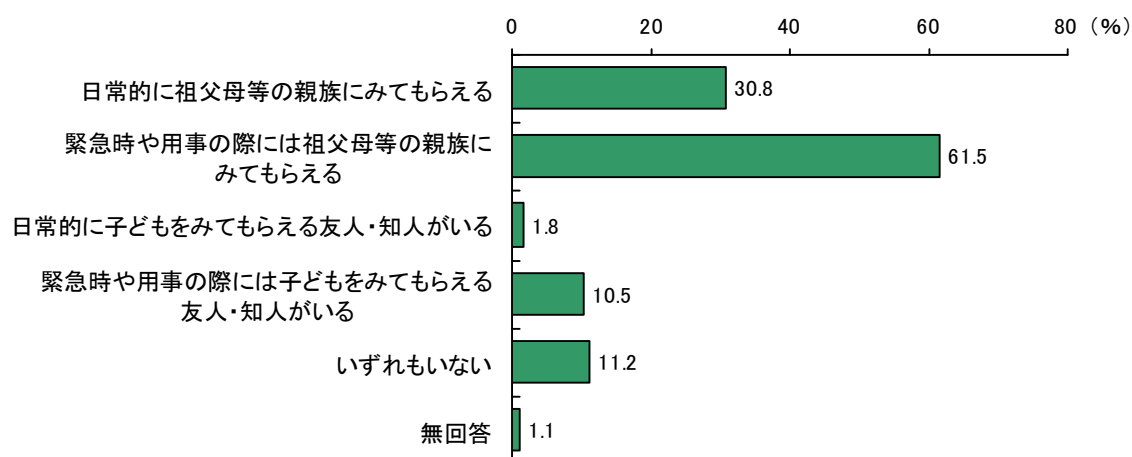
〔図 近所付き合いの状況/前回調査との比較〕



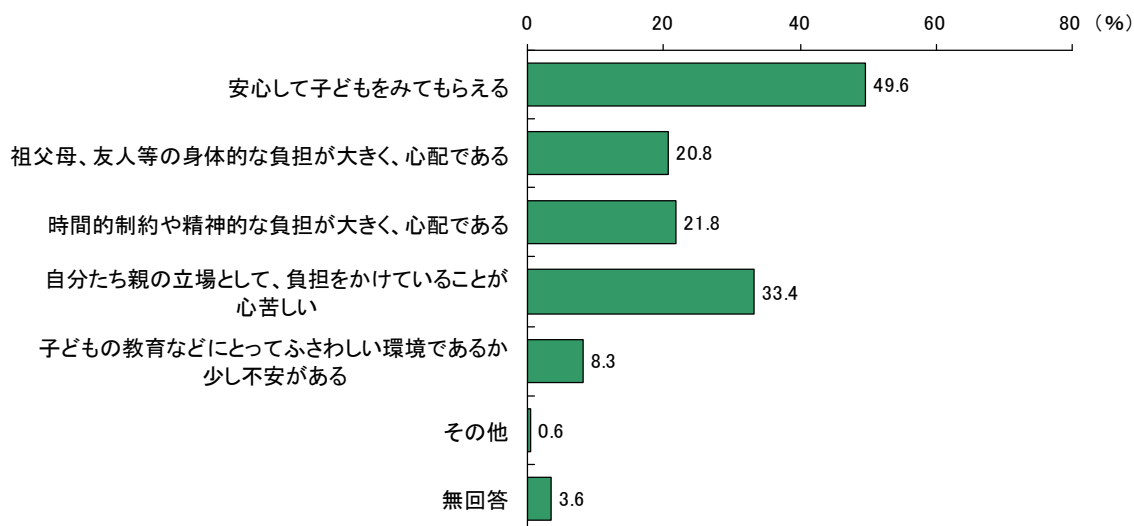
子どもを日常的にみてもらえる人がいる割合は31.5%、緊急時にみてもらえる人がいる割合は65.3%であり、「いずれもない」割合は11.2%である。しかし、みてもらえる人がいる場合でも、5割弱が預ける相手の身体的、精神的負担や子どもにとっての環境を心配している。

また、子どもを遊ばせたり、助け合ったりする子育て仲間がいる割合は76.7%であり、前回調査と比較すると変化はみられない。

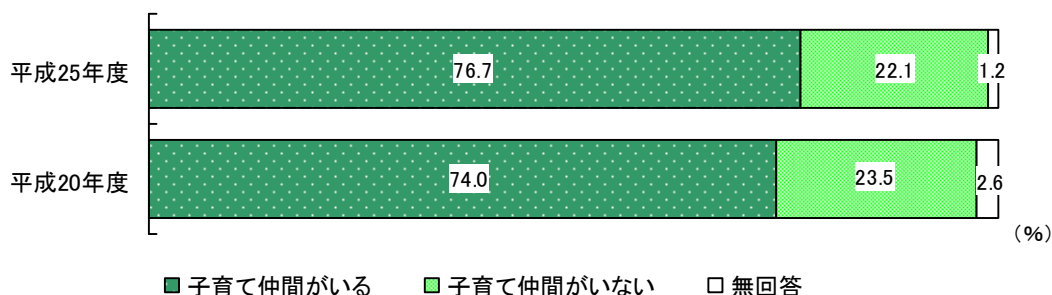
〔図 子どもをみてもらえる人の有無〕



〔図 子どもをみてもらう際の状況〕



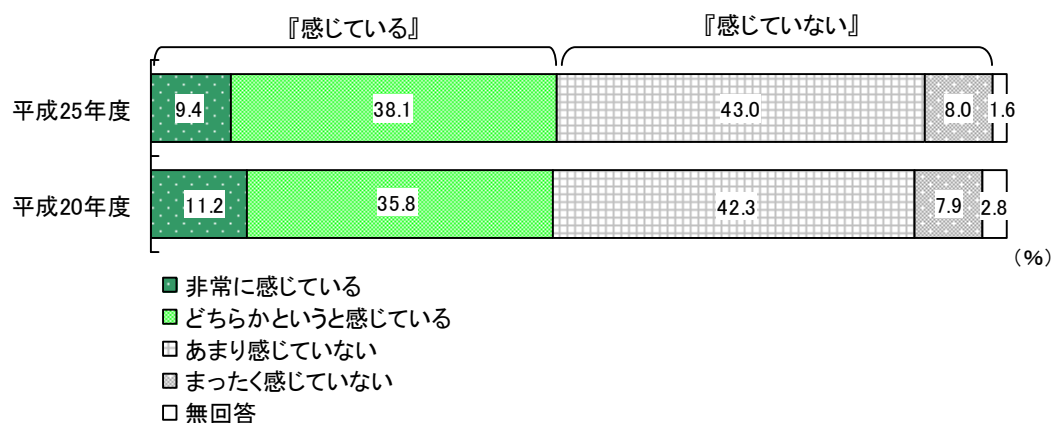
〔図 子育て仲間の有無/前回調査との比較〕



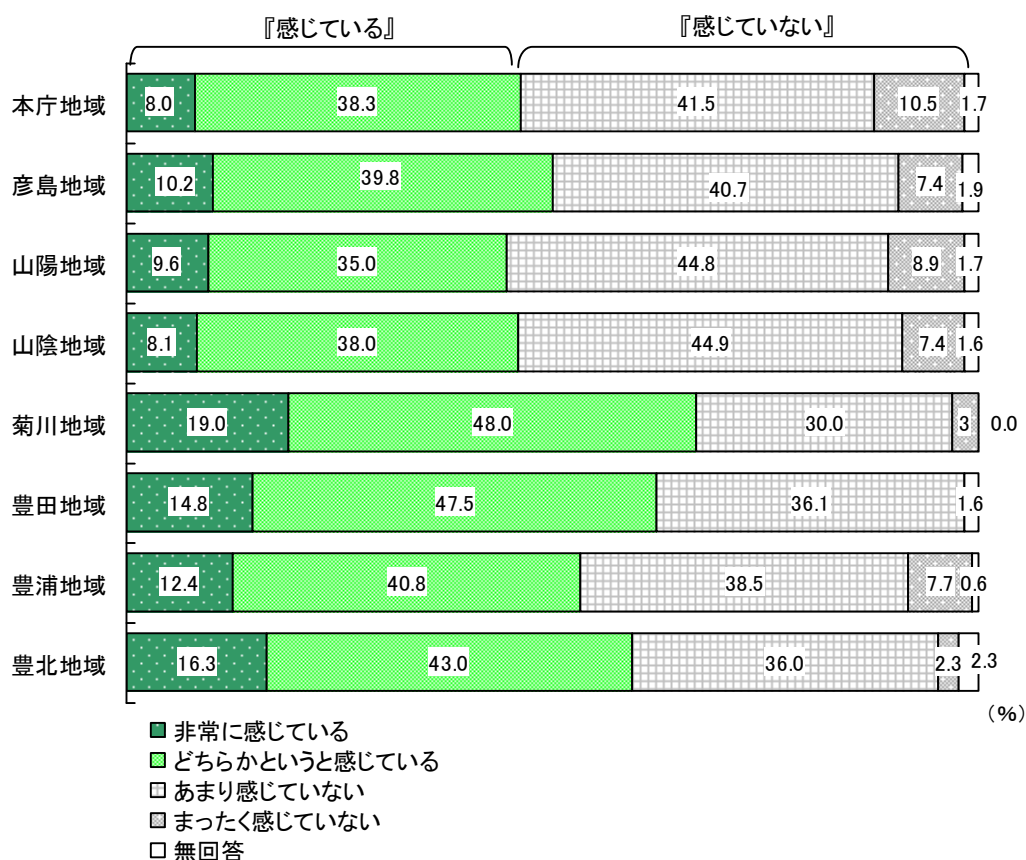
自分自身の子育てが地域の人々や社会全体に支えられていると『感じている』（「非常に感じている」＋「どちらかというと感じている」）割合は47.5%となっており、前回調査と比較すると変化はみられない。

地域別にみると、支えられていると『感じている』割合は菊川地域、豊田地域で高くなっている。

〔図 子育てが地域の人々や社会全体に支えられていると感じるか/前回調査との比較〕



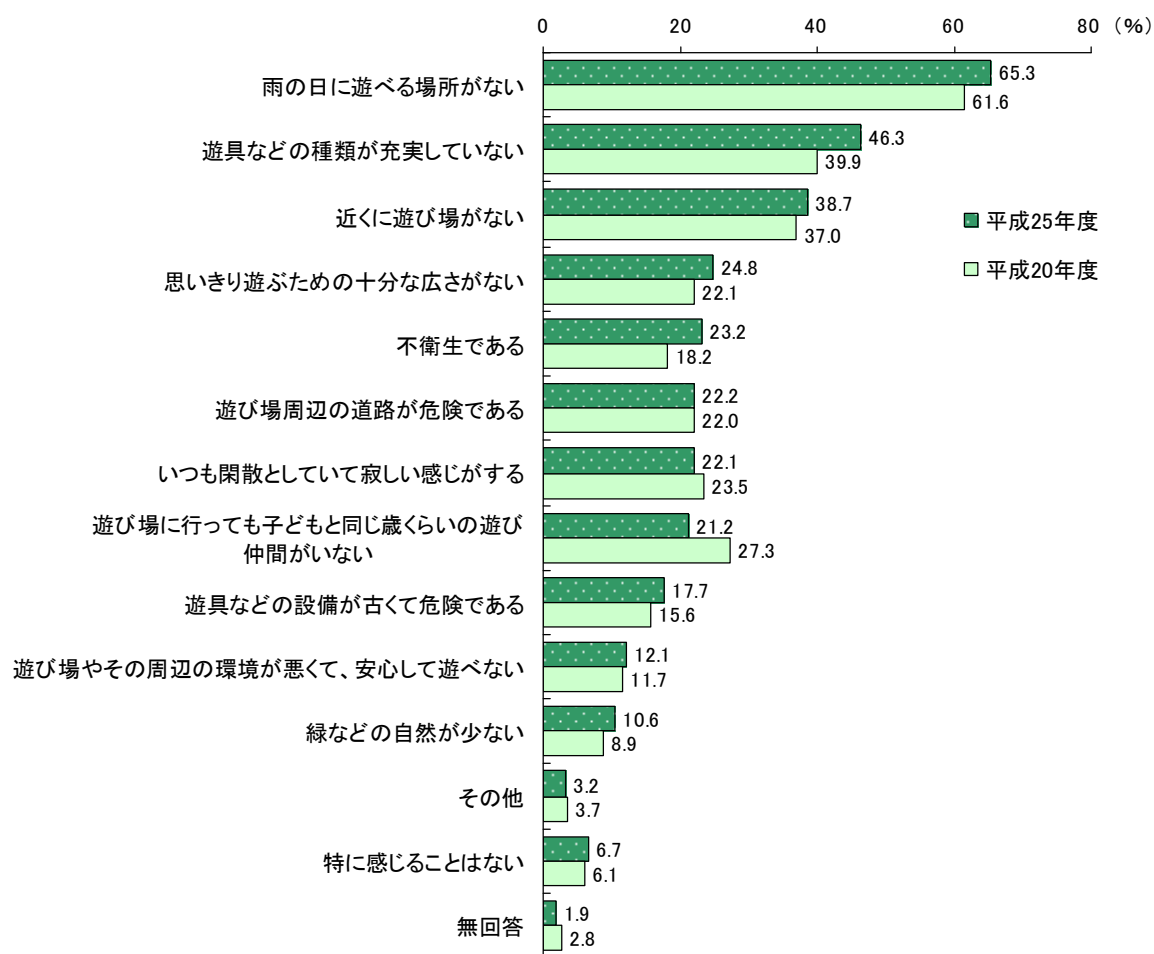
〔図 子育てが地域の人々や社会全体に支えられていると感じるか/前回調査との比較〕



地域の遊び場について感じることで、「雨の日に遊べる場所がない」が65.3%で最も高く、次いで「遊具などの種類が充実していない」(46.3%)、「近くに遊び場がない」(38.7%)となっている。

前回調査と比較すると、上位の「雨の日に遊べる場所がない」、「遊具などの種類が充実していない」を回答する割合は上昇している。

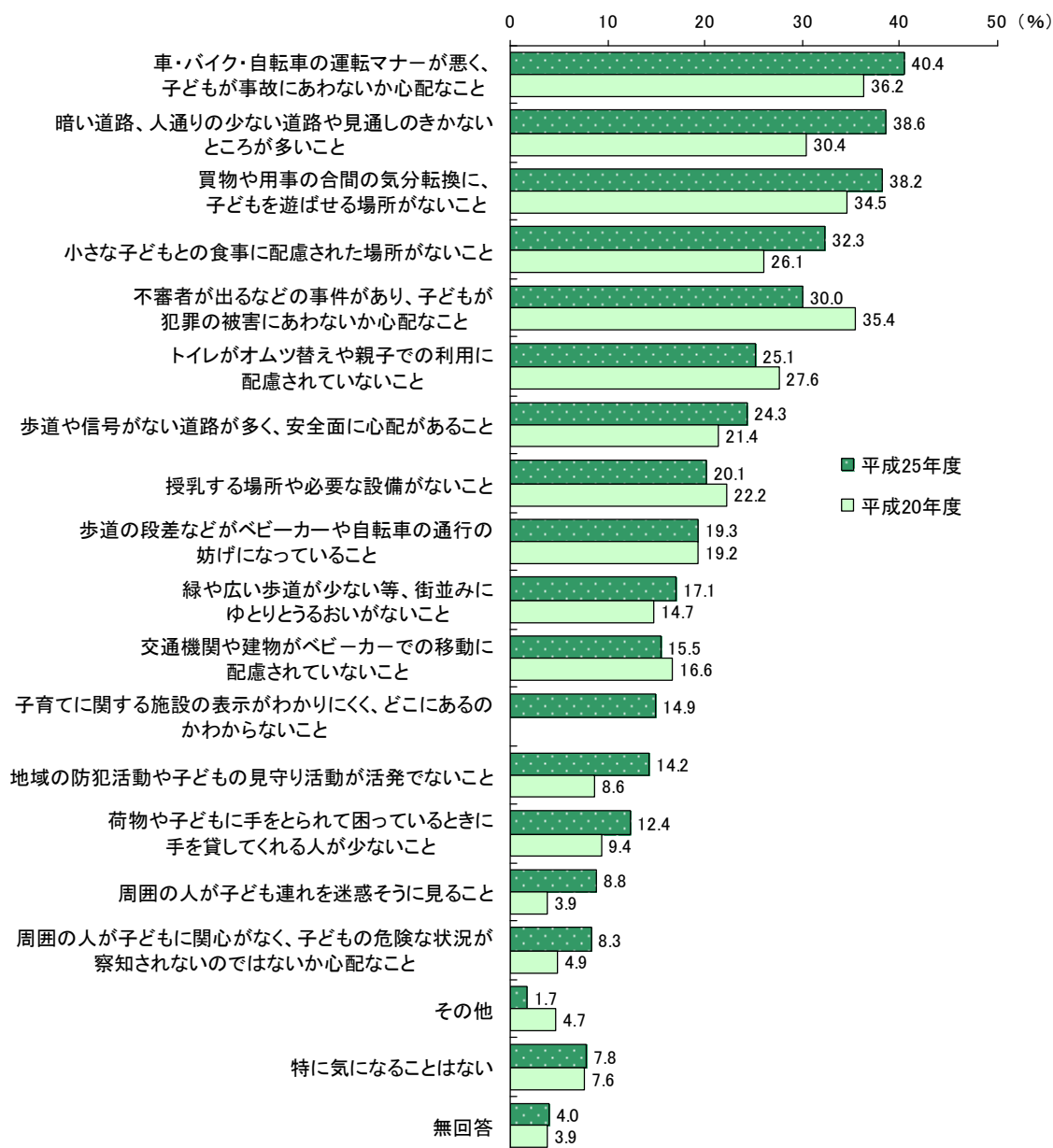
〔図 地域の遊び場について感じること〕



地域の環境において気になることとして、「車・バイク・自転車の運転マナーが悪く、子どもが事故にあわないか心配なこと」が40.4%で最も高く、次いで「暗い道路、人通りの少ない道路や見通しのきかないところが多いこと」(38.6%)、「買物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がないこと」(38.2%)となっている。

前回調査と比較すると、上位の項目で回答する割合が上昇しているが、「暗い道路、人通りの少ない道路や見通しのきかないところが多いこと」は8.2ポイント上昇している。

〔図 地域の環境において気になること〕

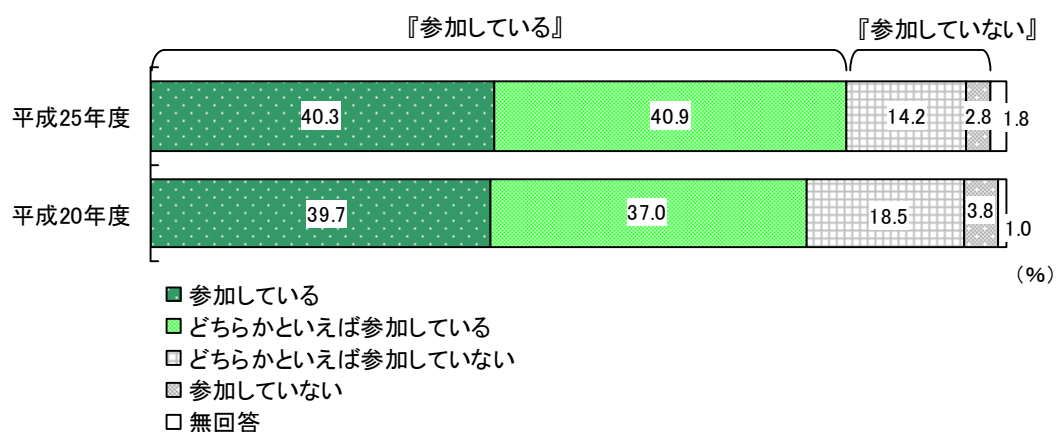


(10) 仕事と子育ての両立

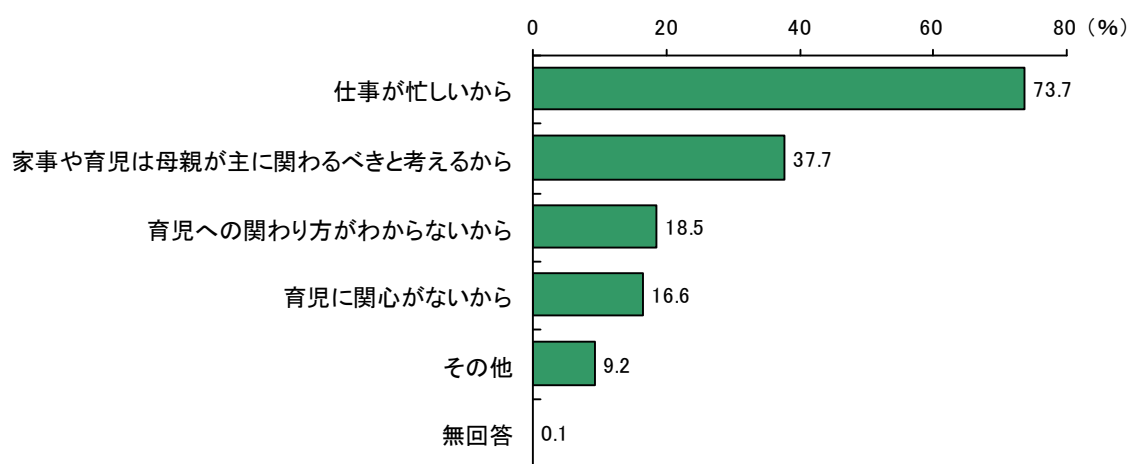
お父さんが家事や育児に『参加している』（「参加している」＋「どちらかといえば参加している」）割合は81.2%となっており、前回調査と比較すると4.5ポイント上昇している。

参加していない理由として、「仕事が忙しいから」が73.7%で最も高く、次いで「家事や育児は母親が主に关わるべきと考えるから」（37.7%）となっている。

〔図 父親の家事や育児への参加状況/前回調査との比較〕



〔図 参加していない理由〕

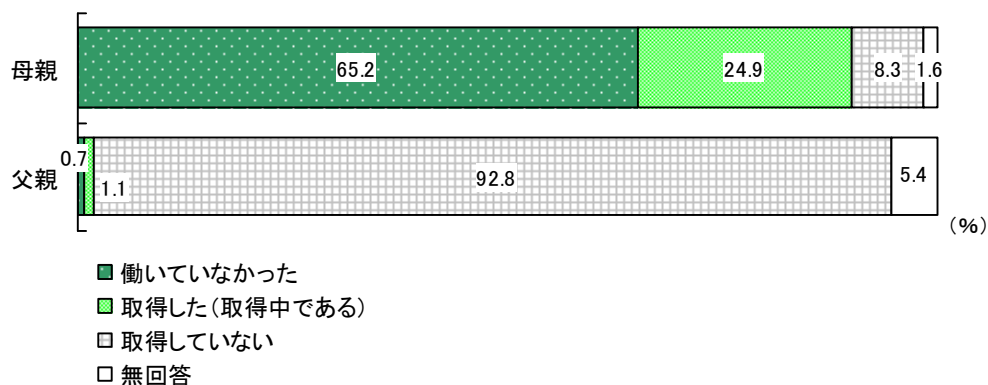


子どもが生まれた際（アンケート調査の対象の子ども）に育児休業の取得した経験がある（取得中を含む）割合は、母親が24.9%、父親が1.1%となっている。

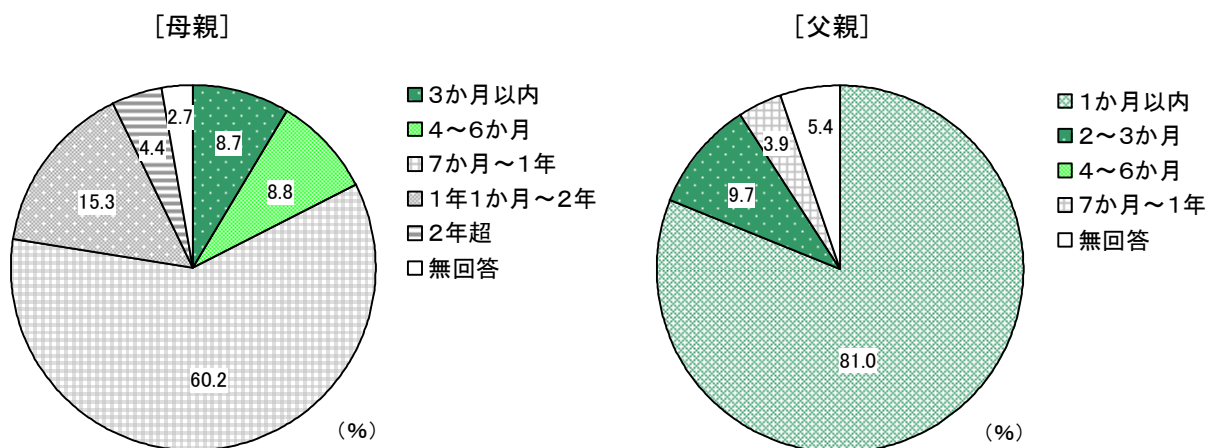
前回調査と比較すると、母親、父親ともに取得した経験がある割合が上昇している。

取得期間について、母親は、「7か月～1年」が最も高く60.2%、次いで「1年1か月～2年」が15.3%となっている。父親は、「1か月以内」が81.0%であり、その大半が「1週間」である。

〔図 育児休業の取得状況〕



〔図 育児休業の取得期間〕



〔図 両親の育児休業の取得状況/前回調査との比較〕

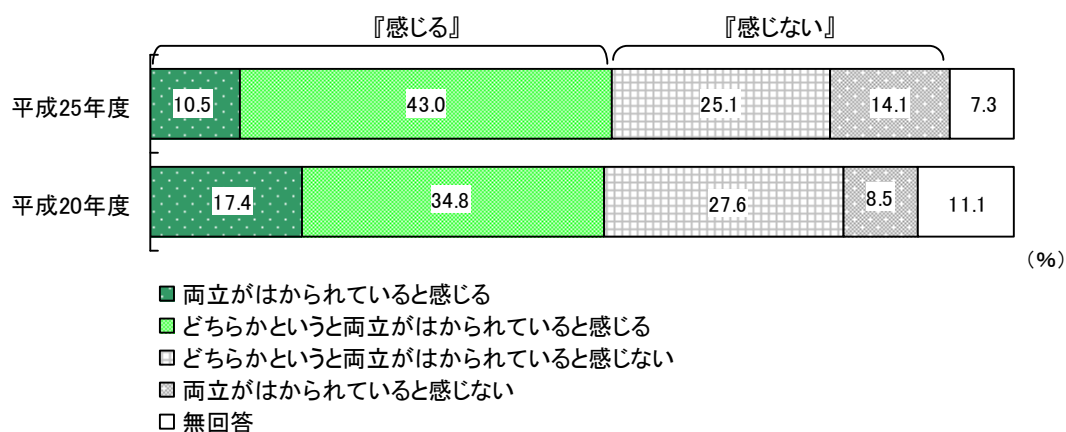
（子どもが生まれた際に働いていた母親・父親）

	母親		父親	
	取得した(取得中)	取得していない	取得した(取得中)	取得していない
平成25年度	75.1	24.9	1.2	98.8
平成20年度	40	60	0.6	99.4

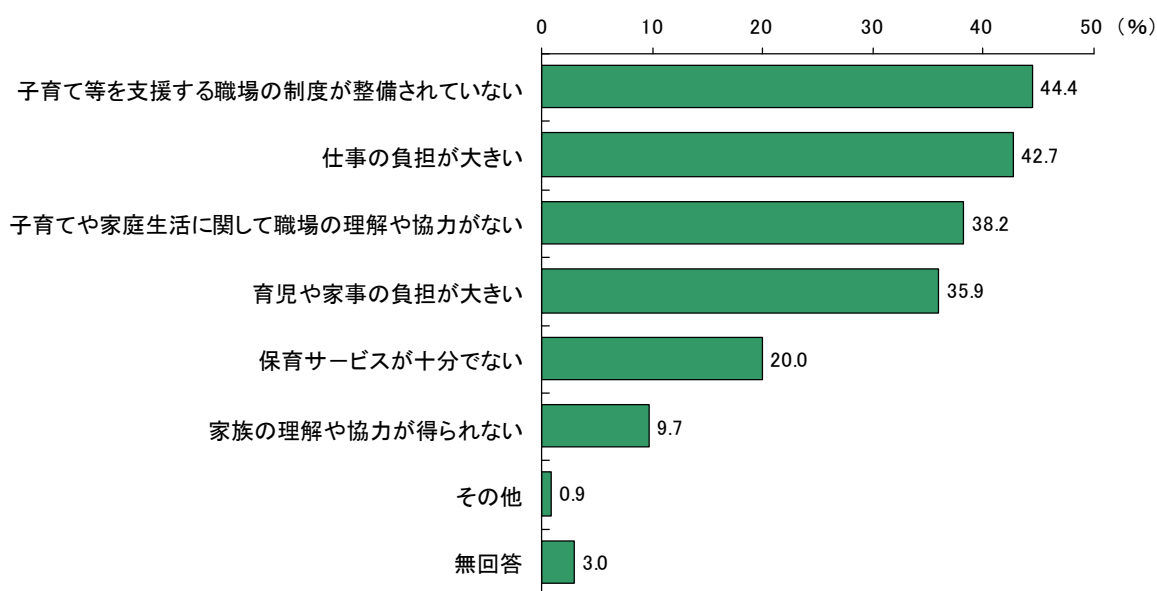
仕事と子育ての両立がはかられていると『感じる』（「両立がはかられていると感じる」+「どちらかという両立がはかられていると感じる」）割合は53.5%となっており、前回調査と比較すると変化はみられないが、「両立がはかられていると感じる」は6.9ポイント低下している。

両立がはかられていないと感じる理由として、「子育て等を支援する職場の制度が整備されていない」が44.4%で最も高く、次いで「仕事の負担が大きい」（42.7%）となっている。

〔図 仕事と子育ての両立がはかられていると感じるか〕



〔図 仕事と子育ての両立がはかられていないと感じる理由〕



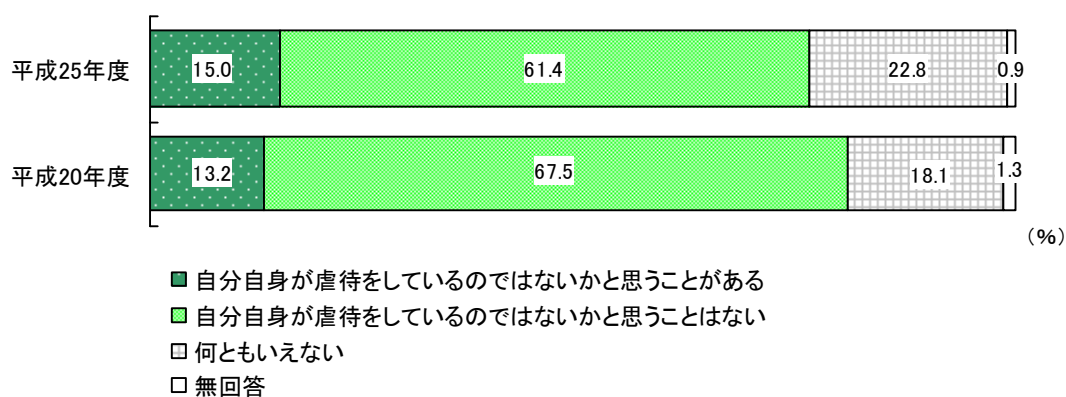
(11) 子どもへの虐待の状況

「自分自身が虐待をしているのではないかとと思うことがある」割合は15.0%であり、前回調査と比較すると変化はみられない。

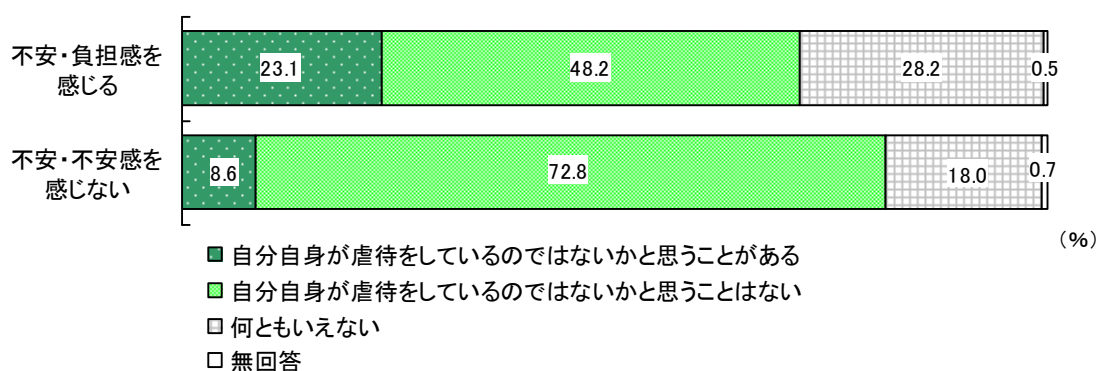
子育てに関する不安・負担感の有無別にみると、不安・負担感がある層で「自分自身が虐待をしているのではないかとと思うことがある」割合は23.1%であり、ない層よりも14.5ポイント高くなっている。

虐待をしていると思う内容として、「感情的な言葉」が88.8%で最も高く、次いで「たたくなど」(54.3%)となっている。

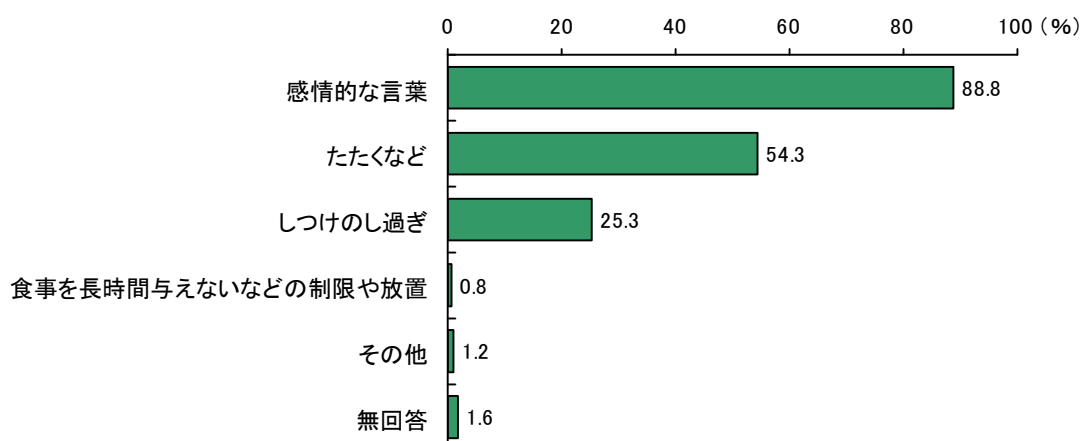
〔図 自分自身が虐待をしていると思うことがあるか〕



〔図 自分自身が虐待をしていると思うことがあるか/不安・負担感の有無別〕



〔図 虐待をしていると思う内容〕

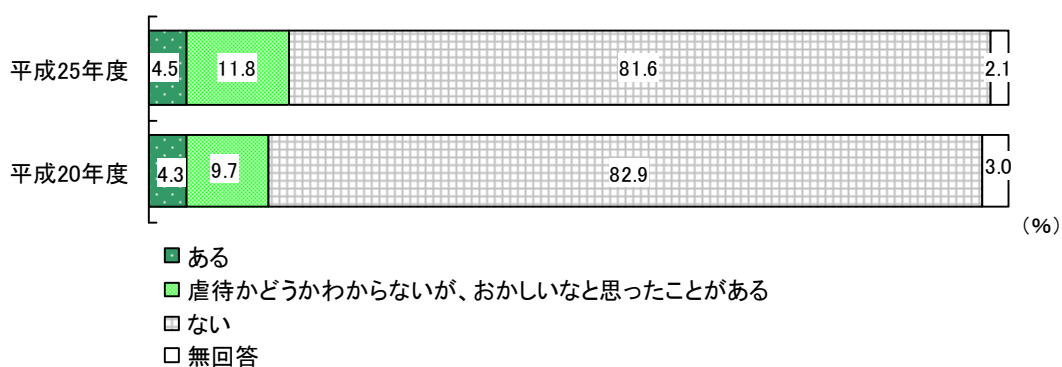


身近なところで子どもの虐待を見たり聞いたりしたことが「ある」割合は4.5%であり、前回調査と比較すると変化はみられない。

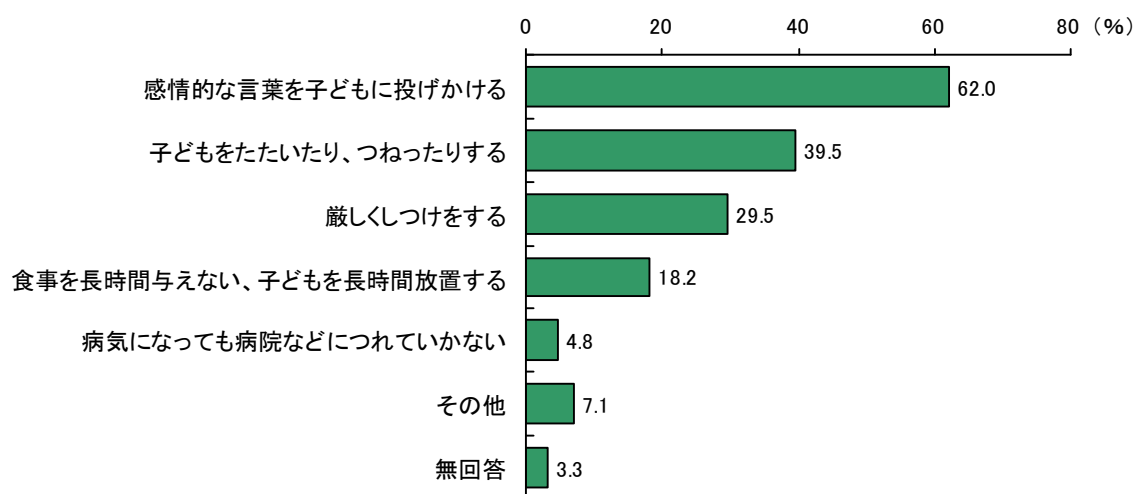
虐待を見たり、聞いたりした内容として、「感情的な言葉を子どもに投げかける」が62.0%で最も高く、次いで「子どもをたたいたり、つねったりする」(39.5%)、「厳しくしつけをする」(29.5%)となっている。

虐待を見たり、聞いたりした際の対応として、「特に何もしていない」が52.5%となっているが、行った対応としては「知り合いの人たちで相談にのった」が17.4%で最も高い。また、「どこに連絡したらよいかわからなかった」が15.0%となっている。

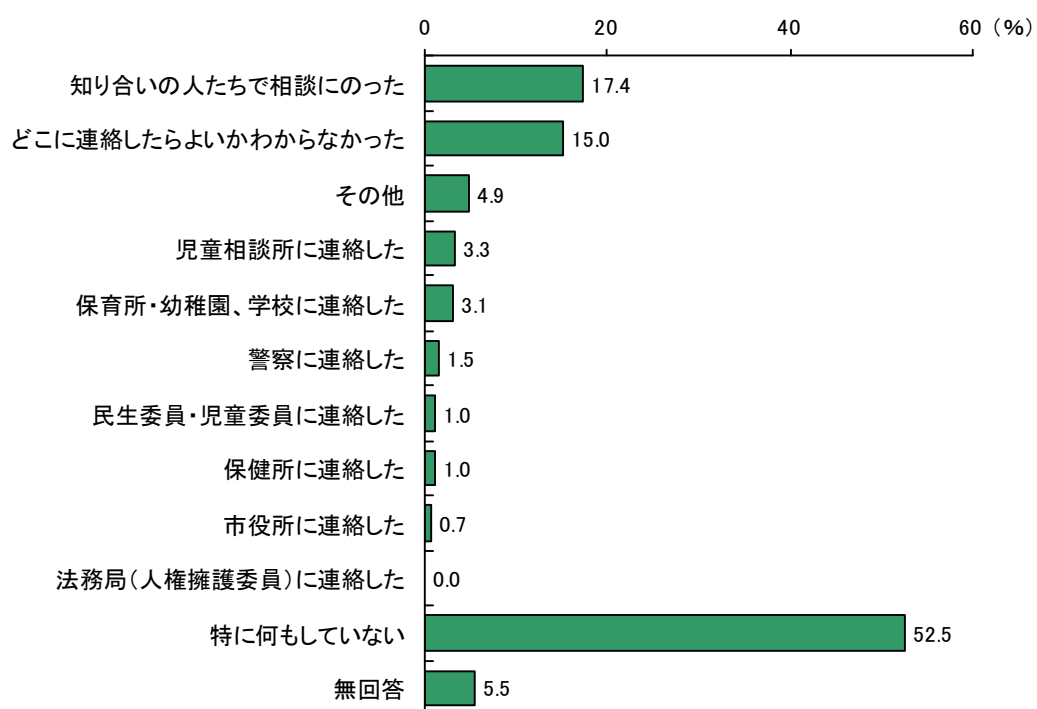
〔図 身近なところで虐待を見たり、聞いたりしたことがあるか〕



〔図 虐待を見たり、聞いたりした内容〕



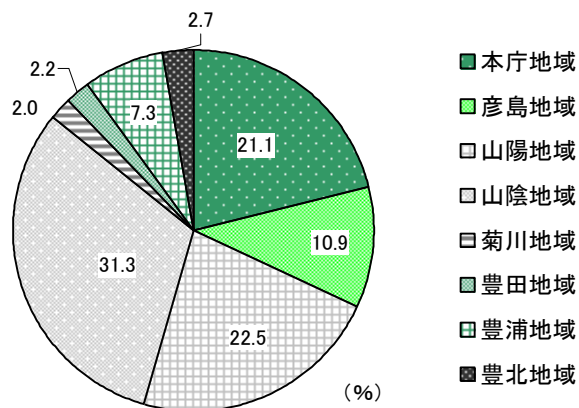
〔図 虐待を見たり、聞いたりした際の対応〕



Ⅲ 放課後児童クラブの利用に関する調査の結果

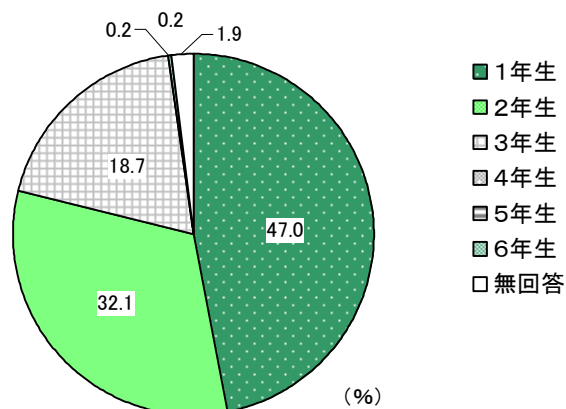
1 属性

(1) 通学している小学校



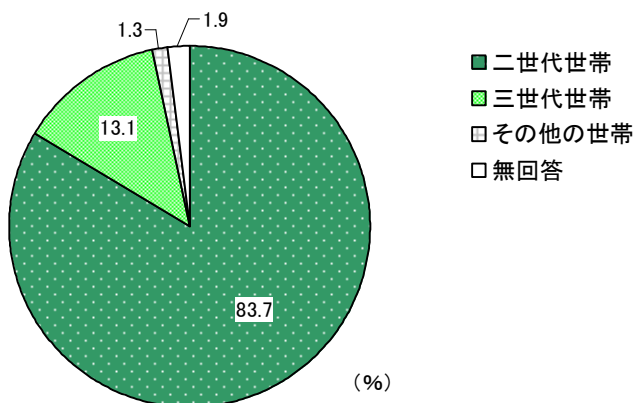
	回答者数	割合
本庁地域	273	21.1%
彦島地域	141	10.9%
山陽地域	291	22.5%
山陰地域	405	31.3%
菊川地域	26	2.0%
豊田地域	29	2.2%
豊浦地域	94	7.3%
豊北地域	35	2.7%
合計	1,294	100.0%

(2) 学年



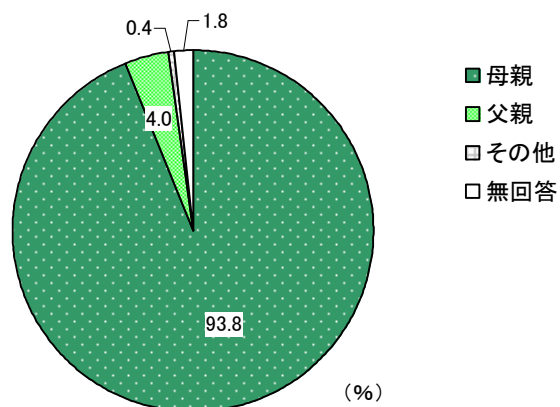
	回答者数	割合
1年生	608	47.0%
2年生	415	32.1%
3年生	242	18.7%
4年生	3	0.2%
5年生	-	-
6年生	2	0.2%
無回答	24	1.9%
合計	1,294	100.0%

(3) 家族構成



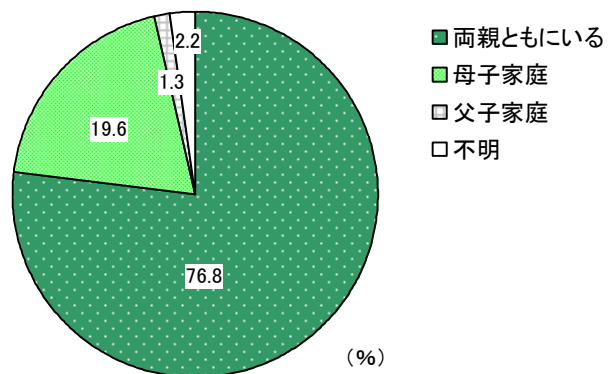
	回答者数	割合
二世世代世帯	1,083	83.7%
三世世代世帯	170	13.1%
その他の世帯	17	1.3%
無回答	24	1.9%
合計	1,294	100.0%

(4) 記入者



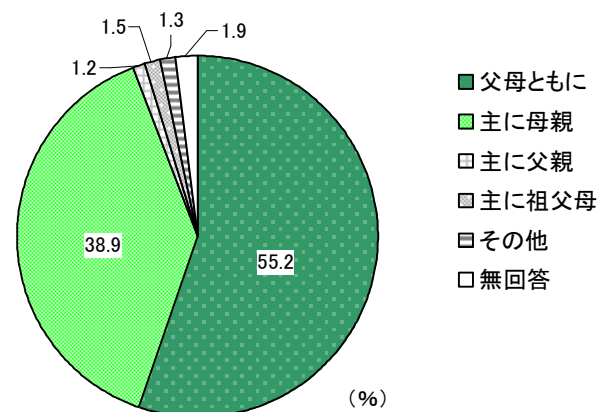
	回答者数	割合
母親	1,214	93.8%
父親	52	4.0%
その他	5	0.4%
無回答	23	1.8%
合計	1,294	100.0%

(5) 両親の状況



	回答者数	割合
両親ともにいる	994	76.8%
母子家庭	254	19.6%
父子家庭	17	1.3%
不明	29	2.2%
合計	1,294	100.0%

(6) 子育てを主に行う者



	回答者数	割合
父母ともに	714	55.2%
主に母親	503	38.9%
主に父親	16	1.2%
主に祖父母	20	1.5%
その他	17	1.3%
無回答	24	1.9%
合計	1,294	100.0%

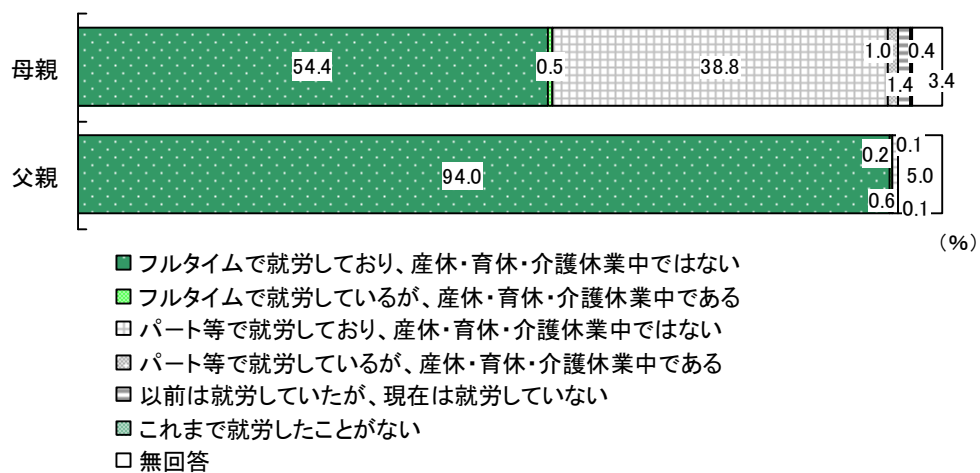
2 両親の就労状況

(1) 両親の就労状況

母親の就労状況は、「フルタイム」が 54.9%、「パート・アルバイト」が 39.8%であり、就労している割合は 94.7%である。

父親の就労状況は、「フルタイム」が 94.2%、「パート・アルバイト」が 0.6%であり、就労している割合は 94.8%である。

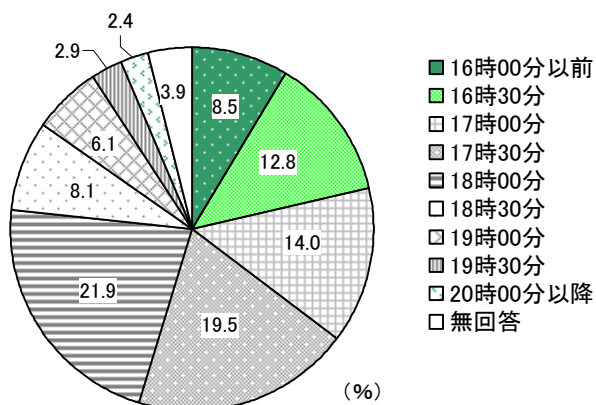
〔図 両親の就労形態〕



(2) 帰宅時間

帰宅時間は、「18:00」が21.9%で最も高く、次いで「17:30」(19.5%)、「17:00」(14.0%)などの順となっている。

〔図 帰宅時間〕

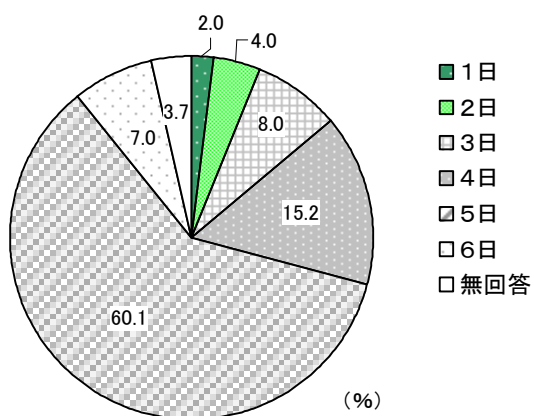


3 放課後児童クラブの利用状況、利用希望

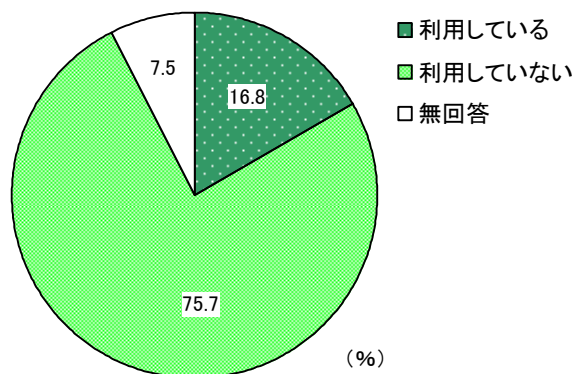
(1) 利用状況

放課後児童クラブの1週当たりの利用日数について、「5日」が60.1%で最も高くなっている。土曜日の利用状況は、「利用している」が16.8%、「利用していない」が75.7%となっている。

〔図 1週当たりの利用日数〕



〔図 土曜日の利用状況〕



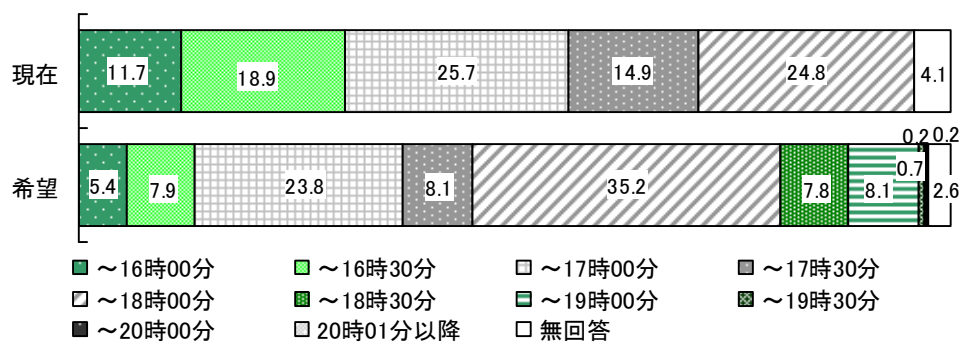
(2) 利用時間の現状・希望

現在の利用終了時間は「～17時00分」が25.7%で最も高く、希望終了時間は「～18時00分」が35.2%で最も高くなっている。希望終了時間は、「～18時30分」が7.8%、「～19時00分」が8.1%となっている。

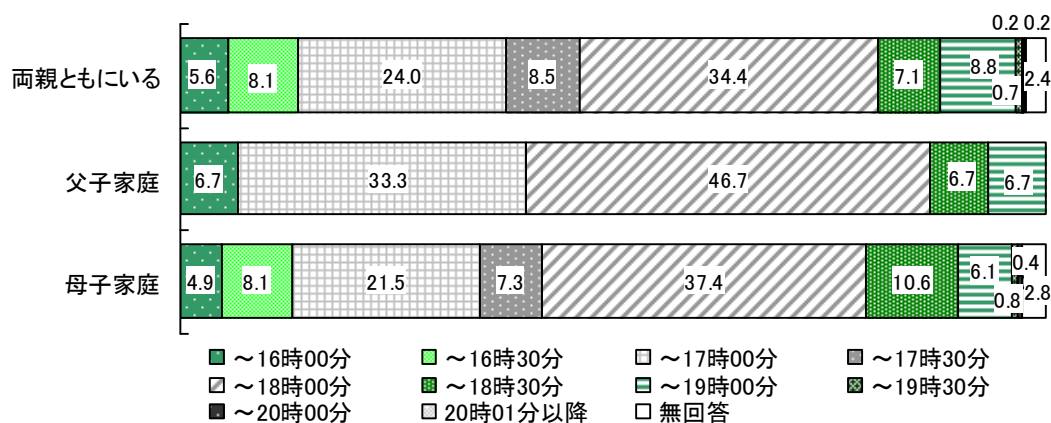
長期休暇中の利用時間について回答したのは、全体の76.6%であり、現在の開始時間、希望開始時間ともに「8時00分～」が最も高くなっているが、希望開始時間では「7時30分～」が16.4%、「7時00分～」が2.6%となっている。

長期休暇中の現在の終了時間は「～17時00分」が最も高く、希望終了時間は「～18時00分」が最も高くなっている。また、終了時間は、「～18時30分」が7.6%、「～19時00分」が7.8%となっている。

〔図 放課後児童クラブの利用終了時間〕

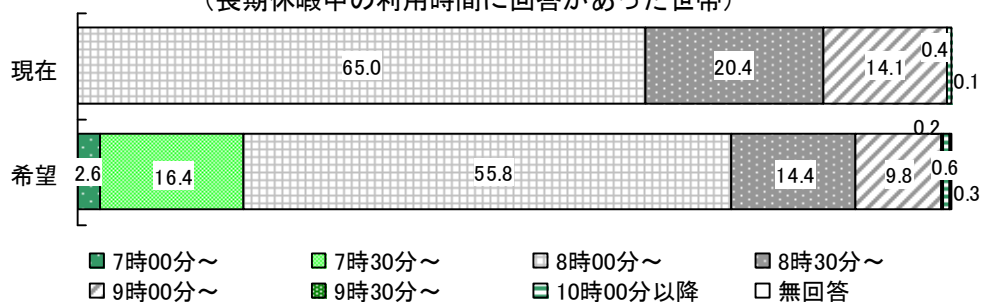


〔図 放課後児童クラブの利用希望終了時間（両親の状況別）〕



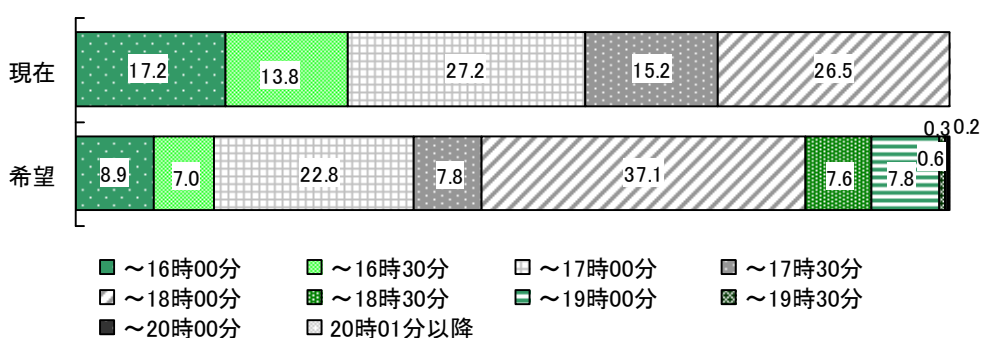
〔図 長期休暇中の放課後児童クラブの利用開始時間〕

(長期休暇中の利用時間に回答があった世帯)



〔図 長期休暇中の放課後児童クラブの利用終了時間〕

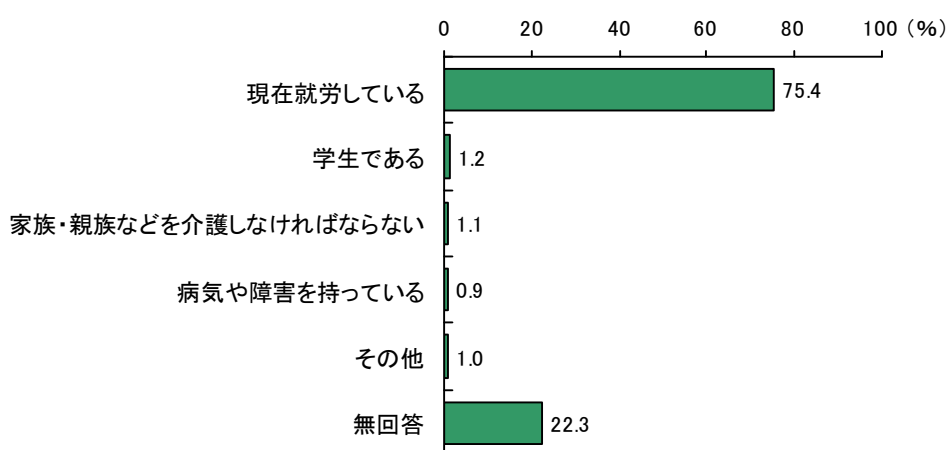
(長期休暇中の利用時間に回答があった世帯)



(3) 利用している理由

放課後児童クラブを利用している理由は、「現在就労している」が75.4%で最も高くなっている。

〔図 放課後児童クラブを利用している理由〕



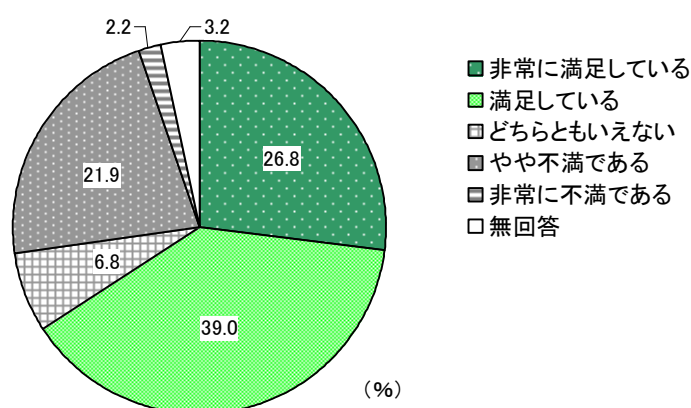
(4) 放課後児童クラブの満足度

放課後児童クラブの満足度は、『満足』（「非常に満足している」+「満足している」）の割合は65.8%、『不満』（「非常に不満である」+「やや不満である」）の割合は24.1%となっている。

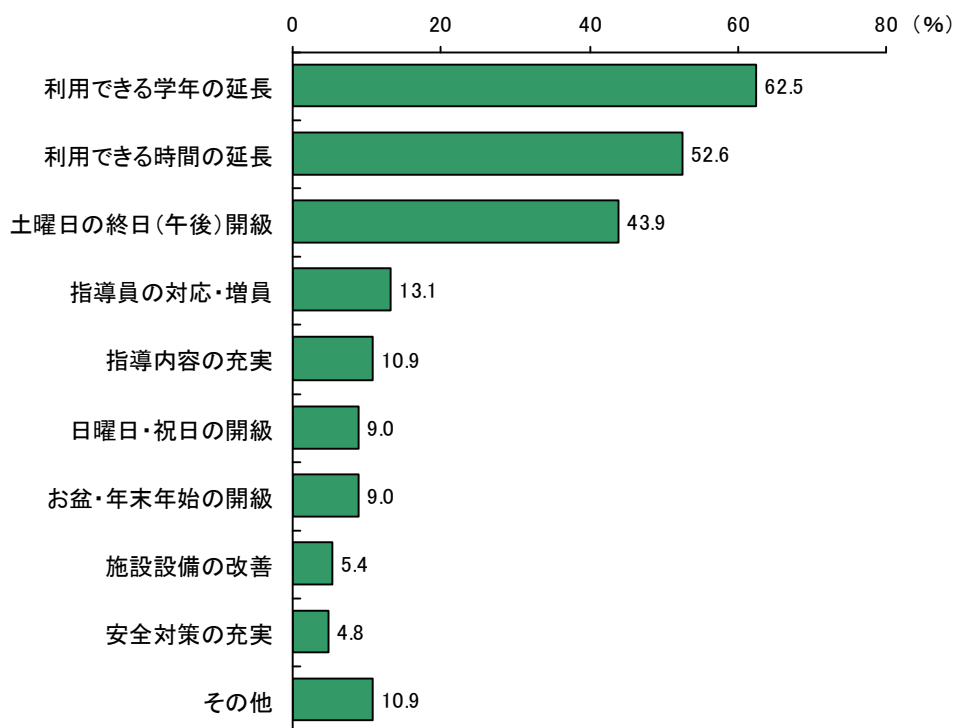
放課後児童クラブへの要望は、「利用できる学年の延長」が62.5%と最も高く、次いで「利用できる時間の延長」（52.6%）、「土曜日の終日（午後）開級」（43.9%）となっている。

時間を延長した場合の利用意向は、「利用しない」が18.9%、「利用する」が79.9%となっている。

〔図 放課後児童クラブの満足度〕

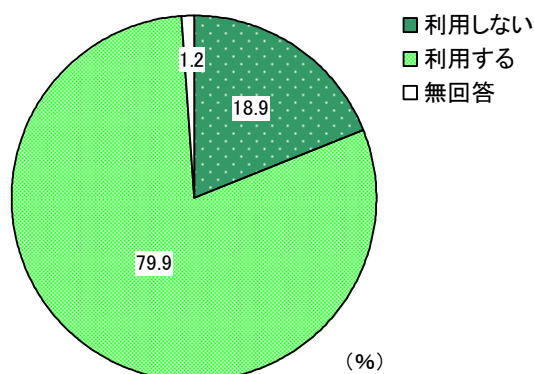


〔図 放課後児童クラブへの要望〕



〔図 延長保育料がかかる場合の時間延長の利用意向〕

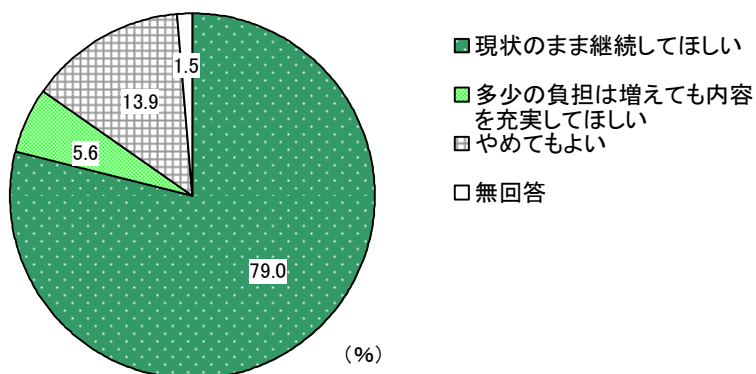
(利用できる時間の延長を望んだ世帯)



(5) おやつ（捕食）の提供

おやつ（捕食）の提供について、「現状のまま継続してほしい」が79.0%、「多少の負担は増えても内容を充実してほしい」が5.6%、「やめてもよい」が13.9%となっている。

〔図 おやつ（捕食）の提供〕



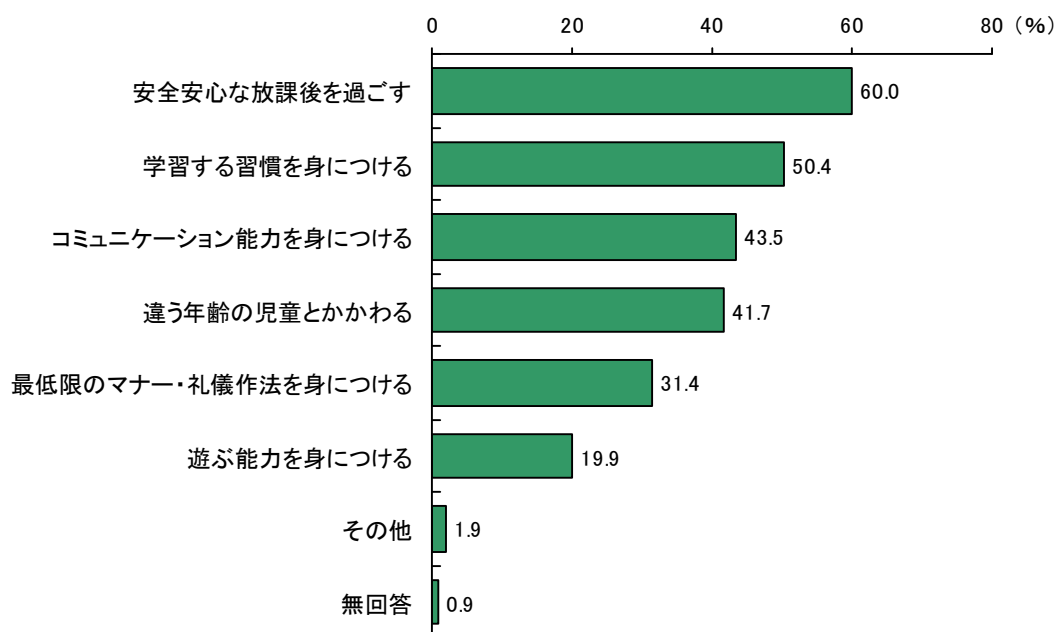
〔おやつの提供をやめてよいと理由（抜粋）〕

- ・ほとんど食べずに、持って帰るため
- ・欠席の時のおやつを持って帰るが、いらない
- ・子どもが太り気味のため、間食は控えたいため
- ・おやつを食べると夕飯が食べられなくなるため
- ・帰宅してから食べるため
- ・おやつを摂取する習慣がないため
- ・今のおやつはお菓子なので腹を満たす物ではない
- ・おやつの内容があまり良くないため
- ・家庭ではあたえないような物が多い
- ・おやつ代が高い
- ・早く帰るため

（６）放課後児童クラブに期待すること

放課後児童クラブに期待することは、「安全安心な放課後を過ごす」が 60.0%と最も高く、次いで「学習する習慣を身につける」(50.4%)、「コミュニケーション能力を身につける」(43.5%)、「違う年齢の児童とかかわる」(41.7%) となっている。

〔図 放課後児童クラブに期待すること〕



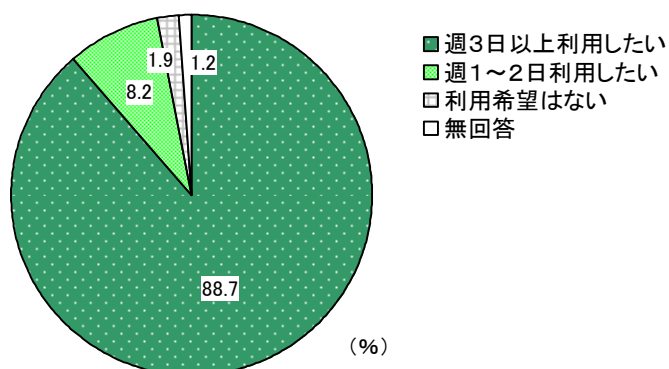
(7) 今後の利用希望

放課後児童クラブの利用意向は、「週3日以上利用したい」が88.7%と最も高くなっている。

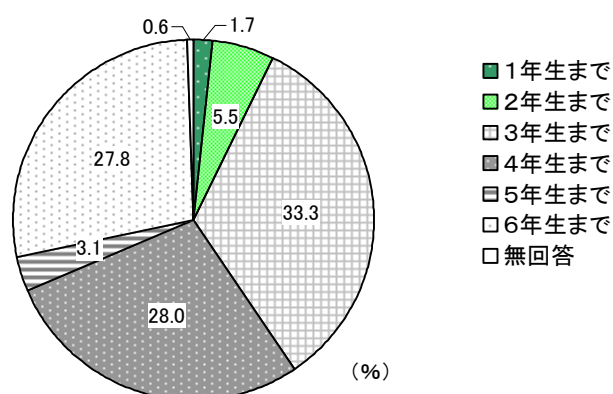
希望する学年は、「3年生まで」が33.3%と最も高く、次いで「4年生まで」(28.0%)、「6年生まで」(27.8%)となっている。

学年別にみると、3年生では「6年生まで」が41.1%と高くなっている。

〔図 放課後児童クラブの利用意向〕



〔図 希望する学年〕



〔図 希望する学年 (学年別)〕

